

大分の中世石造遺物

第3集 分布図・地名表編（下）

2015

大分県教育庁埋蔵文化財センター

大分の中世石造遺物

第3集 分布図・地名表編（下）

序 文

本書は、大分県教育委員会が文化庁の補助を得て、平成20年度から平成28年度まで9カ年にわたって実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」の調査報告書『大分の中世石造遺物 第3集 分布図・地名表編(下)』です。今年度まで分布調査を中心に行った調査の成果を大分県北部の分布図・地名表編として刊行する運びとなりました。

現在までの7年間にわたる分布調査により、大分県北部において、1,637箇所にあつた古代・中世の石造物の存在が確認できました。本書はそれらの概要を市町村ごとに一覧表にまとめたものであり、今後刊行予定の写真・実測図・拓本・銘文等を網羅した追号と併せて、大分県の古代・中世石造物の実態を把握する、その試みの嚆矢としてご利用いただければ幸いです。

本書が大分県の古代・中世石造物の基礎資料となるだけでなく、その活用により、古代・中世石造物に対する認識が深まり、ひいては郷土の文化財保護の一助となることを願ってやみません。

最後になりましたが、長年にわたる調査に際し、地元の石造物に誇りをもつ多くの方々からのご教示や、厳しい過疎化や高齢化の中でこれらを管理され続けている方々に多大なご協力をいただいたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

平成27年3月27日

大分県教育庁埋蔵文化財センター

所 長 松 村 洋 一

例 言

- 1 本書は大分県教育委員会が平成20年度より平成28年度まで国庫補助を得て実施している「大分県古代・中世石造遺物分布調査」の報告書第3集「分布図・地名表編（下）」である。
- 2 本書には、今回の悉皆調査において把握した大分県北部の古代・中世石造物の基礎データと位置を掲載している。

なお、本書に収載したもののうち、主要なものについては次年度以降に写真・実測図・拓本・銘文等を報告する予定である。

- 3 86頁から141頁に掲載している分布図に使用した地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の2万5千分の1地形図を複製したものである（承認番号 平26情複 第703号）。
- 4 本書の執筆分担は下記のとおりである。

中津市(旧中津市)(小柳和宏)・中津市三光(小柳和宏)・中津市本耶馬溪町(坂本嘉弘)
中津市耶馬溪町(坂本嘉弘)・中津市山国町(高橋信武)・宇佐市(原田昭一)・宇佐市院内町(松本康弘)
宇佐市安心院町(高橋信武)・豊後高田市(小柳和宏・坂本嘉弘)・国東市国見町(原田昭一)
国東市国東町(原田昭一)・国東市武蔵町(綿貫俊一・宮内克己)・国東市安岐町(後藤一重)
杵築市大田(小柳和宏)

なお、編集は原田が行った。

目 次

I 古代・中世石造遺物地名表	1
II 古代・中世石造遺物分布図	85

I 中世石造遺物地名表

ここでは本稿で取り上げる大分県北部である中津市・宇佐市・豊後高田市・姫島村・国東市・杵築市大田に所在する1,637箇所の石造物について、一覧表で概要をまとめている。市町村史をはじめとした過去の刊行物に記載された類例をはじめとして、平成20年度から平成26年度に及ぶ現地での悉皆調査により得られたデータをもとに作成したものである。

一覧表の各項目については、下記の凡例のとおりである。

凡 例

- 番 号 …………… 86ページ以降の分布図の各市町村単位の番号と一致する。
- 名 称 …………… 国県市町村指定の場合、指定名称を優先して採用し、また、過去に名称が確認できるものも優先して今回の名称に採用し、それ以外のは新たな名称とした。
- 所 在 地 …………… 所在地は一覧表が市町村単位であるため、市町村名を省いて記載した。
小字が判明しているものや、その場所固有の呼び名がある場合も併せて記載した。
- 造 立 時 期 …………… 平安・鎌倉・南北朝・室町・戦国の各時代で表記し、石塔が出現する平安時代後期を遡るものは古代とし、また、近世でも中世の様相をもつ石塔が残る近世初期の範囲まで、掲載の対象とした。
- 概 要 …………… 立地や歴史的環境、塔形や特徴などをはじめ、特筆すべき点について簡単にまとめた。
- 在銘資料の年号 …………… 元号と併せてカッコ内に西暦を記載した。石塔群で複数例確認できた場合はすべて掲載した。なお、各年号に該当する資料がどれであるかについては、概要の項目でふれている。
- 指 定 区 分 …………… 国・県・市町村単位で「重文・有形・歴史資料」および「史跡」に区分して記載し、石塔群の場合、どの資料が指定物件であるかについてもカッコ内に示した。
- 参 考 文 献 …………… 84ページに記載した文献一覧の番号と対応する。
- 掲載地図番号 …………… 分布図の地図番号と各分布図の縦横に8等分した小区画を記載している。
- 塔形及び個体数 …………… 五輪塔・宝篋印塔・宝塔については、各部位ごとの実数を記載し、紙面の都合上、国東塔・板碑・一石五輪塔・無縫塔・角柱塔婆・石幢・石殿については、部材のみであっても実数を記載した。五輪塔・宝篋印塔・宝塔における完存については、部材の一部のみが失われていても、組合せが本来のものと判断できるものは、完存の個体数として認識した。これ以外の塔形については、「その他の塔形」の欄に塔形名と実数を記載した。なお、相輪のように、宝篋印塔や宝塔・層塔など、どの塔形においても可能性をもつ部材である場合、他の部材の存在等考慮して、可能性の最も高い塔形に分類したため、確実とはいえない。宝珠についても同様である。また、草むらや竹藪で覆われていたり、一部、地中に存在することが明確な場合等、正確な実数が把握できない場合は、あえて各項目に実数を記載せず、概要においてふれている。

中津市・宇佐市・豊後高田市・姫島村・国東市・杵築市大田

市町村別一覧表

市町村名	掲載頁
中津市	2～15
宇佐市	16～33
豊後高田市	34～53
姫島村	54～55
国東市	56～77
杵築市大田	78～83

市町村別分布地図

市町村名	掲載頁
中津市	90～92・101～106・114～120・129～134
宇佐市	106～109・119～122・133～136・138～140
豊後高田市	86・94～97・108～111・123・124
姫島村	88・89
国東市	86～88・96～99・111～113・125～127
杵築市大田	110・111・125・126

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
1	吉祥寺石塔群	角木新町	戦国	境内の一角に中世の五輪塔部材が置かれている。				3 F-5
2	養寿寺石塔群	浦町	戦国～近世初頭	境内に五輪塔部材が点在する。また、市有形の織部灯籠が1基立つ。				3 F-5
3	円応寺石幢と周辺 石塔群	寺町	近世初頭	境内の市有形の八角石幢をはじめ寺裏の墓地に近世初頭の石塔が点在する。 一石でできた小型の宝篋印塔は珍しい。また、小型の宝篋印塔や五輪塔を納める「らんとう」がある。		市有形 (石幢)		3 G-5
4	合元寺五輪塔	寺町	近世初頭	境内に五輪塔1基が置かれている。				3 G-5
5	寿福寺石幢	鷹匠町	近世初頭	石幢の竿が置かれている。				3 G-5
6	光善寺石塔群	島田	戦国	境内に五輪塔部材が点在する。				3 G-5
7	安養寺石塔群	萱津町		安養寺境内に中世に遡ると考えられる五輪塔空風輪がある。				3 G-4
8	金屋御堂石仏	金屋	近世初頭	御堂の中に花崗岩製の阿弥陀如来が安置されている。				3 G-4
9	上乘寺墓地五輪塔群	下宮永	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				3 H-4
10	下宮永墓地石塔群	下宮永	室町～戦国	広い墓地の中に中世の石塔が点在している。大きくは4箇所に分けられる。				3 H-4
11	宝蔵寺石仏	上宮永	南北朝期	本尊が凝灰岩製の石仏で、耶馬溪町の羅漢寺の石仏を造った逆流建順の手によると言われている。造形的にも羅漢寺のものと近い。				3 H-5
12	貞雄寺国東塔	中央町1丁目	南北朝期	久恒氏の私寺として建立された貞雄寺の中に、台座を欠く国東塔が1基立っている。国東方面からの流入品か。横には別個体の反花座のある台座が置かれる。				3 H-5
13	竜王墓地石塔群	角木竜王	戦国～近世初頭	近世墓地の一角に中世石造物が集められている。また、墓地内に花崗岩製の大型の石仏（阿弥陀如来、観音菩薩など）が数体点在する。				3 F-5
14	蛸瀬八坂社石塔群	蛸瀬	室町～戦国	本殿裏の摂社の石祠内に五輪塔空風輪を多数納めている。				3 G-5
15	牛神貴船社石塔群	牛神	室町～戦国	神社境内に板碑が祭られている。裏面を見せているため分かりづらいが、市内で唯一の二連碑である。				3 G-6
16	一ツ松墓地 その1五輪塔	一ツ松	戦国	墓地の中に火輪が置かれている。				3 H-6
17	一ツ松墓地 その2五輪塔群	一ツ松	戦国	墓地の中に火輪と水輪が置かれている。				3 H-6
18	妙光寺石仏	東浜	室町～戦国	廃寺となった境内の御堂内に阿弥陀如来像が1体ある。法衣垂下式であるが形式化しているので、やや新しいか。				3 G-6
19	大新田墓地石塔群	大新田	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材や宝塔塔身が集められている。				3 G-7
20	錆矢堂観音堂五輪塔	下池永		錆矢堂の観音堂前に空風輪が置かれている。				3 H-7
21	下池永貴船社五輪塔	下池永		貴船社の摂社石祠の中に空風輪が入れられている。				3 H-7
22	合馬墓地五輪塔	合馬	戦国	墓地の中に火輪が1点置かれている。				3 H-7
23	全徳貴船社五輪塔	全徳	戦国	貴船社境内に火輪が1点置かれている。石祠内の石仏（頭部と手首欠）も中世まで遡るか。				3 H-7
24	全徳地蔵堂五輪塔群	全徳	室町～戦国	地蔵堂内に五輪塔部材が置かれているが、これらは旧国道10号の建設工事の際動かした全徳集落墓地から持ってきたもの。				3 H-7
25	是則家墓地五輪塔群	是則	戦国	是則家墓地に五輪塔部材が置かれている。				3 H-8
26	崇禅寺石塔群	是則	室町～戦国	寺の境内に五輪塔を中心として石塔が集められている。多くは「是則」の集落周辺から持ってきたものという。宝塔は笠以上を欠く。寺は元「天台宗」という。				3 H-8
27	田尻墓地五輪塔	田尻	戦国	墓地の入口に火輪が置かれている。				3 G-8
28	高瀬墓地 その2五輪塔群	高瀬	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 A-4
29	高瀬墓地 その3五輪塔群	高瀬	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				10 A-4
30	高瀬墓地 その1五輪塔群	高瀬	戦国	墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				10 A-4
31	成満寺石仏	高瀬	戦国～近世初頭	真宗寺院成満寺境内にある御堂の中に、以前近くで掘り出されたときされる花崗岩製の石仏（阿弥陀如来）が安置されている。				10 A-4
32	高瀬武宮邸前 五輪塔群	高瀬	室町～戦国	家の前に五輪塔部材が集められている。				10 A-4
33	高瀬御堂前五輪塔群	高瀬	室町～戦国	御堂の周りに五輪塔部材が置かれている。水輪1点はやや大型。				10 A-4
34	高瀬御堂前石塔群	高瀬	室町～戦国	御堂の前に石塔が並べられている。				10 B-4
35	湯屋墓地五輪塔群	湯屋	戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 A-5
36	西湯屋貴船社 五輪塔群	湯屋	戦国	貴船社にある猿田彦の回りに五輪塔部材が置かれている。				10 A-5
37	瑞泉寺石塔群	湯屋	室町～戦国	在地土豪湯屋氏の菩提寺。墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 B-5
38	湯屋氏屋敷跡石塔群	湯屋	戦国	湯屋氏の館跡と言われる一角に五輪塔部材が置かれている。				10 B-5
39	万田墓地五輪塔群	万田	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 B-5
40	相原廃寺五輪塔	相原	戦国	古代寺院相原廃寺の基壇上に五輪塔空風輪が置かれている。				10 B-5
41	瑞福寺五輪塔群	相原	戦国	境内に五輪塔が多く並べられているが、大部分は近所で出土したものという。なお、境内には相原廃寺の塔心礎が置かれている。				10 B-5
42	佐知大師堂五輪塔群	三光 佐知		大師堂の中に空風輪が置かれている。				10 D-5
43	佐知御堂内五輪塔群	三光 佐知		大師堂の中に空風輪だけが多量に置かれている。				10 D-5
44	雀堂墓地石塔群	三光 臼木	戦国	墓地の中にやや大型の板碑が立ち、墓地内には五輪塔部材が点在している。				10 E-5
45	西楽寺五輪塔群	三光 土田		寺境内に五輪塔が置かれているが、寺は明治期に移ってきたものであり、本来のものではない。一部は国東から持ってきたともいわれる。				10 E-4
46	下曾木65番霊場 五輪塔群	本耶馬溪町 曾木 下曾木	戦国期～	下曾木地区の北端にある耶馬溪霊場65番札所横の五輪塔残欠。				10 H-3

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
47	上池永御堂周辺石塔群	上池永	室町～近世初頭	御堂の周囲に石塔が集められている。また、隣接する墓地にも石塔が点在する。さらに、御堂内には六地藏龕部が置かれている。				10 A-7
48	佐知家入口小堂五輪塔群	上池永	戦国	小堂の中に五輪塔部材が置かれている。				10 A-6
49	上池永金丸家墓地五輪塔	上池永	室町～戦国	金丸家墓地の中に水輪が置かれている。また、そこから下った崖下の水田際の墓地に、五輪塔部材が集中している。				10 A-6
50	上池永墓地五輪塔群	上池永	戦国	墓地の中に五輪塔部材がコンクリで固定され並べられている。				10 A-6
51	永添墓地その3五輪塔群	永添	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 B-6
52	正行寺前墓地五輪塔群	永添	室町～戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 B-6
53	三明院石塔群	永添	室町	寺の境内に相輪を欠く宝篋印塔の上に五輪塔火輪が重ねられている。		41		10 B-6
54	徳成院石造物群	永添	室町～戦国	境内に五輪塔部材や相輪が点在し、首の欠けた地藏石像1体がある。地藏は半球形の台座に座っていることから、中世のものと判断した。				10 B-5
55	永添霊園隣墓地石塔群	永添	室町～戦国	墓地の中に宝篋印塔や五輪塔の部材が置かれている。				10 B-5
56	永添墓地その2五輪塔群	永添	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 B-5
57	永添稲荷社五輪塔	永添	室町～戦国	稲荷社横に空風輪が置かれている。				10 B-5
58	永添墓地その1五輪塔群	永添	戦国	墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				10 B-6
59	円林寺墓地五輪塔群	永添		円林寺の墓地の一角に五輪塔部材が置かれている。				10 B-6
60	中尾墓地五輪塔群	上如水		墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 A-7
61	是則墓地その1五輪塔群	是則		墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				10 A-7
62	上如水墓地五輪塔群	上如水		墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 A-7
63	上如水貴船社五輪塔群	上如水		神社境内の一角に五輪塔部材が集積されている。				10 A-7
64	是則墓地その2石塔群	是則		墓地の中に五輪塔部材や相輪（宝塔か）が点在する。				10 A-8
65	薦社境内五輪塔群	永添	室町～戦国	薦社境内に五輪塔部材と一石五輪塔が点在する。				10 B-7
66	西福寺板碑	北原	戦国	西福寺境内に板碑が1基立っている。「北原本町板碑」ともいう。		41		10 B-8
67	最明寺石塔群	北原		最明寺境内に小型宝塔の塔身と火輪が置かれている。				10 B-8
68	北原墓地宝塔	北原		「三保の文化」裏の墓地に小型宝塔の塔身がある。最明寺のものに類似。				10 B-8
69	福島墓地その2五輪塔群	福島		墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 B-8
70	長久寺墓地五輪塔	福島	室町	長久寺の歴代住持墓地に五輪塔部材が置かれている。				10 B-8
71	福島墓地その2五輪塔	福島	戦国	墓地の中に火輪が置かれている。				10 B-7
72	福島大師堂前五輪塔群	福島	室町～戦国	大師堂前に五輪塔部材が置かれている。				10 C-8
73	福島墓地その1五輪塔群	福島	室町	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 B-7
74	福島諫山邸前五輪塔群	福島		諫山邸前に五輪塔部材が積まれている。				10 C-7
75	福島墓地その1五輪塔群	福島		墓地の中に五輪塔部材が点在している。空風輪の1つは大型。				10 C-7
76	加来墓地その4五輪塔群	加来	戦国	墓地の中に空風輪が置かれている。				10 C-7
77	加来墓地その2五輪塔群	加来	戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 C-6
78	加来墓地その3五輪塔群	加来	戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 C-6
79	加来稲荷社五輪塔群	加来	戦国	稲荷社の御堂の中に空風輪が置かれている。				10 C-7
80	加来神社五輪塔群	中津市大字加来	室町	「加来切寄」とされる神社地にある社殿横の高まりと摂社横に五輪塔部材がある。				10 C-7
81	少年院横墓地五輪塔群	中津市大字加来	戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 C-6
82	佐知上小路墓地石塔群	中津市三光佐知字上小路		墓地の中に五輪塔部材や相輪（宝塔か）が点在する。				10 D-5
83	加来御堂前石塔群	加来	戦国	御堂の前に石塔が並べられている。				10 D-6
84	加来地藏堂五輪塔	加来	戦国	地藏堂前に火輪が置かれている。				10 D-6
85	加来墓地その1石塔群	加来	戦国	墓地の中に石塔部材が点在する。相輪は花崗岩製。				10 D-6
86	原口御堂石造物群	三光 原口		墓地内の御堂に凝灰岩製の法衣垂下式地藏像（頭部と腕を欠く）が安置される。御堂脇には五輪塔が立つ。				10 D-6
87	三枚墓地石塔群	三光 原口三枚		「三枚（三昧）」の名を持つ墓地の中に角柱塔婆や五輪塔部材が点在する。				10 D-6
88	長仁寺石造物群	三光 佐知		境内に昔国東から持ってきたとされる石仏2体がある。また、寺裏の墓地には五輪塔の部材が点在する。				10 E-6
89	四所神社板碑	三光 諫山上居屋敷		神社境内に板碑が立つ。「□永3年」銘を持つ。				10 E-5
90	成恒墓地五輪塔群	三光 成恒		墓地の中に五輪塔部材が点在している。				10 E-6
91	森山地蔵堂石造物群	三光 森山		御堂の中に大型の安山岩製地藏像（総高95cm）が安置される。また、御堂脇には空風輪と相輪（宝塔か）が置かれている。				10 D-7
92	妙法寺跡石造物群	三光 森山		八幡社からやや下った参道脇の平場に、板碑や五輪塔、石仏などが立ち並べられている。平場から転落したものもある。			14	10 D-7

塔形及び個体数																									
五輪塔				宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
	40	23	24	14															1	1			1		
	3	1	1																						
	2	4	6																						
	5	2		1																					
	6																								
	3	1	1																						
		1			1																				
	2	1	1			1																			石仏
	1					1	1																		
	3	6	4																						
	1																								
		2	2	1																					
	2	2	1	1																					
	3		2																						
		2	1																						
	6	6	5	1																					
	1	2		1																					
	2	3	6	1							2														
	1	1	3																		1				
		1																	1						
													1												
													1												
	4	1	5																						
		1	1																						
		1																							
	1			2																					
	1		2																						
	3	1	1																						
	7	2																							
	1																								
		6																							
	18	16	16	2																					
	2																								
	2	3	4																						
	3																								
	19	17	12	1							1														
	5	8	2										1		1										
		1																							
	5	14	15	2							1														
1																									石仏
		2	2																				1		
1	2	2																							石仏2
																			1						
2	2	2																							
1											1														石仏
		6				1	1		1										2	1					石仏

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
93	伊藤田八坂社五輪塔群	伊藤田		八坂社境内の隅に五輪塔部材が置かれている。				10 B-8
94	伊藤田墓地その1五輪塔	伊藤田		墓地の中に火輪が置かれている。				10 C-8
95	伊藤田弘法堂石塔群	伊藤田		堂内に相輪（宝塔か）と地蔵を浮き彫りにした塔婆があり、堂前に宝塔塔身が置かれている。				10 C-8
96	伊藤田墓地その2五輪塔群	伊藤田		墓地の中に五輪塔部材が点在している。				10 C-8
97	萬公寺墓地石塔群	伊藤田		萬公寺横の墓地に石塔部材が置かれている。				10 C-8
98	善隆寺石塔群	伊藤田		寺の裏にある墓地に、五輪塔部材を中心として1.5mほどの立方体形に積み上げている。全て、境内にあったものを集めたもので、中には相輪（宝塔か）も2個体確認できる。五輪塔の部材点数は表面で確認できるもののみ記載。				10 C-8
99	伊藤田墓地五輪塔群	伊藤田		墓地の一角に五輪塔部材が集中して置かれている。				10 C-8
100	馬場堂五輪塔群と石仏	伊藤田	戦国	馬場堂では釈迦如来石仏を祭る。この石仏は馬場堂が天正年間の兵火で焼け、近くの池に捨てられていたものを慶長年間に発見したものである。他に空風輪も堂内に置かれている。				10 C-8
101	伊藤田城山神社五輪塔群	伊藤田		城山神社境内に五輪塔部材が置かれている。				10 C-8
102	古要神社石塔群	伊藤田		古要神社境内に宝塔基礎と火輪が置かれている。				10 D-8
103	西ノ宮神社五輪塔群	三光 田口		神社境内の一角に五輪塔部材が集められている。				10 F-6
104	光永寺五輪塔群	三光 田口		本堂裏から五輪塔が出土しており、庭に点在している。数は不明であるが、10個体程度と思われる。				10 F-6
105	殿屋敷石塔群	三光 田口	南北朝～戦国	「殿屋敷」と呼ばれる地に宝塔（塔身欠く）が立ち、周囲に五輪塔部材が置かれている。			41	10 F-7
106	田口弘法大師横五輪塔	三光 田口		弘法大師像の横に空風輪が置かれている。				10 F-7
107	田口墓地石塔群	三光 田口		墓地の中の一番高いところに五輪塔部材と相輪（宝塔か）が置かれている。				10 F-7
108	岡崎薬師堂石塔群	三光 田口		薬師堂前に五輪塔や宝篋印塔、角柱塔婆、石幢（笠と龕部）などが並べられている。			41	10 E-7
109	稗家墓地五輪塔群	三光 下林	戦国	墓地の中に五輪塔が立ち並び、いずれも後世の積み直しである。				10 E-7
110	下林墓地五輪塔群	三光 下林	戦国	墓地に五輪塔部材が置かれている。				10 E-8
111	鳥越宝塔	三光 西林	南北朝	笠と塔身の間に五輪塔水輪が挟まるが、大型の宝塔である。相輪を欠く。			41	10 E-7
112	貴船社五輪塔群	三光 下林	戦国	境内の摂社周辺に五輪塔部材が集中。				10 E-8
113	西林石塔群	三光 西林	室町～戦国	西林宝塔として知られる宝塔の他に、板碑がある。板碑は自然石を調整し、額を表現している。			41	10 F-8
114	西林御堂横五輪塔群	三光 西林	戦国	御堂脇の石祠裏に五輪塔部材が置かれている。				10 F-8
115	宝積寺石塔群	三光 上林	室町～戦国	宝積寺の庭に並べられている。組み合わせられているものも多いが、後世の積み直し。				10 F-8
116	泰源寺裏墓地板碑群	三光 西林	戦国～近世初頭	寺裏の丘陵上にある墓地に、小型板碑が2基立つ。2基とも地蔵像を浮き彫りにする。				10 F-8
117	林板碑	西林 塔ノ熊	室町	学校の校庭の隅に立っている。高さ93cmで、キリークの種子を刻む。			41	10 F-8
118	香紫庵宝塔と周辺石塔群	三光 西林 香紫庵	室町～戦国	香紫庵の境内手前に1基の宝塔（市有形）が、建物横には石塔部材がまとめて置かれている。		市有形（宝塔）	41	10 F-8
119	上林墓地五輪塔群	三光 上林	戦国	墓地の中に五輪塔部材が点在する。				10 F-8
120	稗城石塔群	三光 上林	室町～戦国	土塁の内側に宝塔や五輪塔が並べられている。宝塔基礎は浅く2段となる。また、城内の一角にある墓地に、五輪塔や宝塔の部材が点在している。さらに、城外南の谷間に五輪塔が一基立っている。				10 F-8
121	田口妙見宮宝塔	三光 田口		妙見宮奥の院に相輪先端部の宝珠が置かれている。				10 G-6
122	神氏宅前五輪塔群	三光 田口	室町～戦国	神氏宅の道際に五輪塔群が並べられている。以前、周辺にあったものを集めて並べたという。				10 G-7
123	猪山神社宝塔	三光 田口	室町	猪山神社境内の近世以降の石積み墓壇上に立てられている。基礎は2段で塔身の正面には新しく「猪山八幡神社」と彫られている。塔身は下すまりの豊前タイプである。			41	10 G-7
124	神護寺石造物群	三光 田口	南北朝～室町	神護寺横の金比羅社参道入口横に宝篋印塔が大石の上に据えられている。相輪を欠く。また、神護寺奥の金比羅社境内に置かれている象に乗った菩薩像がある。凝灰岩製で、象は手足、鼻、耳などを欠くが、羅漢寺普賢菩薩像と同工である。菩薩像は頭部を欠くが、法衣垂下式の小型像である。			14	10 G-7
125	猪越岩屋如来像	三光 田口	戦国～近世初頭	猪ノ川内池の堤防を越えた所にある岩山の中腹にあいた岩屋内に、如来坐像が据えられている。蓮華座には法衣がかかるが、やや繊細さに欠けることから戦国期以降に下る。			14	10 G-8
126	箭山神社下宮五輪塔群	三光 田口		拜殿横に水輪が置かれている。				10 G-6
127	箭山神社角柱塔婆	三光 田口	鎌倉	箭山神社参道入口に立つ。各面に墨書と刻字がある。県内では最古銘を持つ角柱塔婆である。	徳治3 (1308)	県有形	40・41	10 H-7
128	根比地蔵堂跡石造物群	三光 西林 根比	室町	地蔵堂跡に細長い角柱塔婆と地蔵立像が並んで立つ。地蔵像は風化が激しいが角柱塔婆と同時期。			41	10 G-8
129	松本三重塔	三光 西林 松本	南北朝～室町	長谷寺開山「三界上人」の供養塔と言われる層塔で、3層目と相輪を欠く。基礎は三段。			41	10 H-8
130	堀田平石塔群	三光 西林	南北朝～戦国	長谷寺堂ノ窟の裏側の岩山伝いに北へ行き、やや東斜面に下った「堀田平」と呼ばれるテラス上に宝塔や板碑、五輪塔の石塔群がある。		市有形	41	10 H-8
131	長谷寺石塔群	三光 西林	南北朝～戦国	広い境内の中に石塔が点在する。主に「大慈殿」前、護摩堂跡、熊野権現、堂ノ窟の4箇所に集中する。駐車場にも板碑がある。なかでも熊野権現社の宝塔（市有形）には紀年銘がみられる。	貞和4 (1348)	市有形 (個人蔵・調査・記録)	41	10 H-8
132	定留六地藏	定留	戦国～近世初頭	道端で六地藏龕部が祭られ、横に五輪塔火輪が置かれている。				11 A-1
133	諸田墓地その1五輪塔	諸田		墓地の中に空風輪が置かれている。				11 A-1
134	定留貴船社石塔群	定留		貴船社の境内隅に石塔部材が集められ、祀られている。相輪が1点あるが、宝塔のものか。				11 A-1
135	諸田墓地その2五輪塔	諸田		墓地の中に火輪が置かれている。				11 A-1

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇					
		4																				
		1																				
						1		1														塔婆
	2	4																				
												1			2							
	40	18	5	23								2										
	10	14	3	2																		
	3																					石仏
		1	2																			
		1														1						
	3	1	2																			
	1	2	1									1		1		1						
	1																					
		2										1										
	4	15	7	3			1	1	1												1	1
	4	4	6	2																		
	1	2	2	1																		
			1											1	1		1					
	1	2	1																			
	1	3	1	1												1				1		
	2	2	1																			
	11	21	16	3		2																
	3	4	4									1	1			1						
	5	3	4	1																		
	1	6	4	2	1	2	3	1	1												1	
													1									
	4	11	6	6																		1
												1										
												1										石仏
																						石仏
			2																			
																					1	
																					2	石仏
																						層塔
	1	10	7	3								2			1	2	1			2		
	11	21	17	5								2	1	1						1	1	
			1																			1
	1																					
	1	4										1										
			1																			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
136	今津恵比寿社五輪塔群	今津	室町～戦国	恵比寿社本殿横の2箇所に五輪塔部材が置かれている。				11 A-2
137	浄光寺五輪塔群	今津	室町～戦国	浄光寺前の石祠周辺に空風輪が置かれている。				11 A-2
138	大國主神社五輪塔	鍋島	戦国	神社の石祠前に空風輪が置かれている。				11 A-2
139	鍋島御堂五輪塔群	鍋島	室町～戦国	御堂の脇に五輪塔部材が集積されている。水輪の1つに地蔵が浮き彫りされる。				11 A-2
140	鍋島墓地その1五輪塔	鍋島	室町～戦国	墓地の中に火輪が置かれている。				11 B-2
141	鍋島墓地その2五輪塔	鍋島	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				11 B-2
142	赤迫石祠五輪塔群	赤迫	戦国	石祠の中に五輪塔空風輪が入れられている。				11 B-1
143	赤迫墓地五輪塔群	赤迫		墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				11 B-1
144	赤迫大神宮五輪塔	赤迫		大神宮の石祠の横に空風輪が置かれている。				11 B-1
145	犬丸鳥墓地五輪塔群	犬丸 鳥		鳥遺跡隣接の墓地内の一角に五輪塔部材が集積されている。				11 B-1
146	清道寺石塔群	犬丸		清道寺境内に五輪塔部材などが点在する。				11 B-1
147	犬丸御堂五輪塔群	犬丸		犬丸城跡に立つ御堂の前に五輪塔部材が置かれている。				11 B-1
148	若旗神社五輪塔群	植野		神社境内の損社横に空風輪が置かれている。				11 B-2
149	犬丸墓地五輪塔群	犬丸		墓地の隅に五輪塔部材が集められている。				11 C-1
150	植野墓地五輪塔群	植野		墓地の一角に五輪塔部材が集積されている。				11 C-2
151	植野御堂石塔群	植野		御堂の横に五輪塔部材や板碑などが並べられている。板碑には2体の地蔵像？が浮き彫りされる。				11 C-2
152	植野無縁仏之墓五輪塔	植野		「無縁仏之墓」碑の横に五輪塔部材が置かれている。				11 C-2
153	上樋尻地蔵堂石造物群	三光 下深水	室町～戦国	下深水集落の北西の外れにある地蔵堂内に、中世に遡る可能性がある地蔵(頭部は後補)などがある。また、堂の裏には一石五輪塔1基がある。				11 G-1
154	北谷板碑・石塔群	三光 下深水	室町	板碑2基が浅い溝の廻る一辺3mほどの墓壇上に並んで立っている。その背後には五輪塔部材が置かれている。		41		11 G-1
155	植山家墓地五輪塔	三光 下深水	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				11 G-1
156	小路五輪塔	三光 下深水	室町～戦国	北谷の谷頭横に、小型の五輪塔がある。				11 G-1
157	深水墓地石塔群	三光 下深水	室町～戦国	在地領主深水氏の墓地に、宝塔や宝篋印塔、五輪塔などがある。墓地は、館城である深水城(ズリヤネ城)を見下ろす丘陵斜面に位置する。上下2段に中世石塔が見られる。				11 G-1
158	正法墓地石塔群	三光 下深水	室町	低丘陵裾に転落した状態で多くの石塔部材が散在する。大永6年銘の宝塔があったとされるが、現在は確認できない。		41		11 G-1
159	下深水地蔵堂石造物群	三光 下深水	室町～戦国	御堂の中に、3面に地蔵を浮き彫りにした笠塔婆と、菩薩坐像が並べられている。				11 H-1
160	永岩五輪塔群	耶馬溪町 川原口永岩	戦国期～近世	山国側の支流津民川の左岸の主要地方道豊前耶馬溪線沿いにあり、川を挟んで南側に長岩城がそびえる。五輪塔は小型。				16 A-4
161	小屋川石塔	山国町 小屋川	戦国	安山岩製。塔身の四面に墨書。江島宅庭先にあるが、裏山から移動したと言う。				16 H-1
162	松原山宝篋印塔	耶馬溪町 中畑松原山	室町後半	松原山の山頂の宝篋印塔。隅飾りの外面に陽刻の文様。		3		16 B-6
163	松原山正平寺石塔群	耶馬溪町 中畑松原山	室町後期～戦国期	松原山正平寺の南側の鳥居の左奥の近世墓地群内に点在。市有形の宝塔の1号は四面仏の角宝塔、2号は長胴の塔身である。また、周辺には五輪塔も点在する。		市有形(宝塔2)	3	16 B-7
164	万代宝塔	耶馬溪町 中畑松原山		山国川の支流三尾母川の左岸の丘陵斜面に建つ地蔵堂前に点在。接近できず対岸から観察。			3	16 B-8
165	甲屋敷板状碑と周辺石塔群	耶馬溪町 大島 杉畑津留	南北朝	国道212号沿いの杉畑津留地区の寺西側の裏の畑にあり、天満神社の参道の北側に点在。宝篋印塔の笠に段はなく、隅飾りが小さい特徴がある。	嘉慶2(1388) 嘉慶3(1389)	市有形	3	16 F-7
166	元組石塔群	耶馬溪町 榑山路元組		山国川左岸の橋本地区から榑山路元組に通じる旧道沿いに立つ佐野翁碑の横に五輪塔の残欠が置かれる。				16 G-7
167	元組御堂石塔	耶馬溪町 榑山路元組		山国川左岸の橋本地区から榑山路元組に通じる旧道を見下ろす位置にお堂があり、その周辺に石塔の残欠が点在。				16 G-7
168	奥邸五輪塔群	耶馬溪町 大島 随雲寺 奥ノ鶴		文献3では、小振りの五輪塔二基を中心にし、周囲に5基以上の五輪塔の部材が散乱する。		市有形	3	16 G-7
169	西畑建設裏石塔群	耶馬溪町 大島 下郷		西畑建設の裏側、市道沿いにコンクリート製の墓壇の上に10基の石塔が並ぶ。一部の塔身は石柱状である。搬入品が不明である。		3		16 H-7
170	平野氏邸角宝塔	耶馬溪町 大島 下郷		山国川に架かる雲与橋の右岸に形成される集落内の、県道平原耶馬溪線の南側にある平野邸の庭に立つ。				16 H-7
171	吉竹邸石塔群	耶馬溪町 大島 下郷		山国川に架かる雲与橋の右岸に形成される集落内の、県道平原耶馬溪線の南方の吉竹邸の庭先に立つ。				16 H-7
172	葉泉寺山門石塔群	耶馬溪町 大島 下郷		国道212号と市道に挟まれた山塊の裾部に上・中・下の三段に分かれて残る。宝篋印塔は下段で、大小二基あるが、相輪先端を欠く。中段は五輪塔が乱雑に積まれており、上段も五輪塔が狭い範囲に散乱している。なお、この石塔群に隣接して掘削工事が行われている。		3		16 H-7
173	雲神社境内宝塔	耶馬溪町 宮園		国道212号沿いにある雲神社境内の阿弥陀堂の前に立つ、相輪を欠く宝塔。基礎も当初とは異なる。				16 H-7
174	神谷薬師堂	山国町 中摩 神谷		堂は石段の上にあり前面に宝塔相輪・層塔笠・宝塔の身二つ重ねた塔がある。				16 H-5
175	小谷瀬墓地石塔群	本耶馬溪町 曾木下曾木	室町～戦国	下曾木集落の山際の小谷瀬墓地の後ろにある。宝塔は相輪を欠くが高さ1.16mで、墨書の種子が残る。		10		17 A-3
176	荒瀬雅次氏邸西側墓地内石塔群	本耶馬溪町 曾木下曾木	戦国期～	下曾木地区の集落内の畑に営まれた近世～近代墓地内に点在				17 A-3
177	井本家墓地内石塔群	本耶馬溪町 曾木下曾木	戦国期～	国道212号西側沿いの井本家墓地内に点在。				17 A-4
178	下曾木石塔群	本耶馬溪町 曾木下曾木	戦国期～	長田邸の東境の土手の上に五輪塔・角柱塔婆が立ち並ぶ。				17 A-4
179	競秀峰板碑	本耶馬溪町 曾木青		競秀峰にある妙月堂横の岩陰内に小型の板碑が納置。近世か？		10		17 A-4

塔形及び個体数																																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形																			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇																								
	14																																								
	3																																								
	1																																								
	1	3	7	1																																					
		1																																							
	3	4	1																																						
	11																																								
	1	4	2																																						
	1																																								
	2	6	2	2																																					
		10	2	3			1																																		
		4	2																																						
	3																																								
	6	9	4	2																																					
		2	2	2																																					
	12	7	4	1																																					
	2		1	1																																					
																																									石仏
		2	2	1																																					
		1	2	1																																					
1																																									
	4	10	8		1								2	3	5	3																									
	4	7	8	5							1		1	1	1																								笠塔婆・石仏		
	5	5	5	5																																					
1				1							1																														
					1																																				
5	2	2	2								2																														
	1	1									1																														
		1	1		1										1	1																									
	1	1		2																																					
		2	2																																						
2	5	5	5	5																																					
1	1	1		1	1						3																														
											1																														
	1	3	2																																						
	30	30	30	30	2																																				
											1																														
			1										1	1	2	1																							層塔笠2		
2	2										1																														
	2	2	1	1																																					
	1	4	1																																						
5	2		1	1																																					
																																									5

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
180	競秀峰登山道石板群	本耶馬溪町 曾木青		青の洞門駐車場から競秀峰へ登る途中に小型の石板点在。			10	17 A-4
181	競秀峰登口石塔群	本耶馬溪町 曾木青		青の洞門駐車場から競秀峰への上り口に宝塔の塔身や笠が散乱。				17 A-4
182	青の阿於寺跡の五輪塔と板碑	本耶馬溪町 曾木青		村上建設の村上邸の敷地内に高さ221cmの県内第3位の大きさの五輪塔があり、その周辺に通常サイズの五輪塔が並び、さらに墨書の種子銘がある板碑が立つ。村上邸は寺院跡(阿寺)の伝承がある。			10	17 A-4
183	青御堂石塔群	本耶馬溪町 曾木青		山国川の支流跡田川にかかる輿水橋の右岸にある御堂の前に建ち並ぶ五輪塔を主体の石塔群。				17 B-4
184	古園邸石塔群	本耶馬溪町 下屋形恵良		山国川の支流屋形川の右岸に並ぶ恵良集落の古園邸の庭先に石幢風に再構築。				17 A-5
185	芦木一石五輪塔	耶馬溪町 福土芦木		山国川の支流三尾母川に流れ込む芦木川沿いの芦木集落に通じる道路沿いの岩の上に立つ。				17 B-1
186	中尾家多層塔群	耶馬溪町 三尾母		山国川の支流三尾母川沿いの県道東上戸原線がある。市有形2基の層塔はこの道路沿いの中尾邸の北側に立つ。	市有形(5基)	3		17 C-1
187	覚音寺跡石塔群	耶馬溪町 三尾母覚音寺		層塔のある中尾邸の道向に「カコーシ」と証するお堂(霊場80番札所)があり、裏側を中心に石塔類が集積。五輪塔を中心に多種類あるが、完存はない。		3		17 C-1
188	尾園板碑	耶馬溪町 三尾母尾園	南北朝	山国川の支流三尾母川沿いの県道東上戸原線がある。尾園集落はこの道路から少し東に入った位置で、板碑は南側斜面に立つ。	康永元(1342)	市有形	3・36	17 C-1
189	中村邸石造物群 仙(尊)光寺跡	耶馬溪町 戸原口ノ林		山国川と国道212号に挟まれ、城井橋の右岸たもとにある中村邸の裏庭となっている。長岩城主野中氏の菩提寺(尊)光跡と伝承される。		市有形	3	17 C-2
190	ホキの上宝塔	耶馬溪町 平田上宮ノ馬場		城井公民館の北側丘陵上にあるホキノ上古墳(後期古墳)の上に立つ。相輪や塔身の一部を欠損。未確認。			3	17 C-2
191	平田城石塔群	耶馬溪町 平田中村		山国川に向かい西の山塊から東に延びる尾根の先端が2本に別れ、平田城が築かれている。石塔群は北側の尾根の先端にある。				17 C-2
192	報恩寺跡石塔群	耶馬溪町 平田岩屋		山国川の西側に広がる水田とその西の山塊の境にある近世墓地内に立つ。水田と獣避けの柵のため接近できず遠望。				17 C-2
193	宮天神前の両面板碑	耶馬溪町 平田岩屋		久福寺の山沿いの左手約200mの位置にある2基の板碑。下田邸の裏手にあたる。			3	17 B-2
194	久福寺石塔群	耶馬溪町 平田岩屋		久福寺裏の岩陰沿いに並ぶが、寺は無住になっており、接近ができず。				17 B-2
195	久福寺門前宝塔	耶馬溪町 平田岩屋		山国川と沖積地を南東に見下ろす丘陵先端部に建つ久福寺の門前の岩上に立つ完存する宝塔。		市指定(宝塔)	3	17 B-2
196	中川原の板碑と宝塔	耶馬溪町 多志田中川原		山国川の中洲となった多志田字中川原の多志馬邸西側に宝塔と板碑が並び立つ。宝塔の笠は薄く、塔身は最大径が上位にある林檎型で近世か。				17 C-2
197	多志田観音堂石塔群	耶馬溪町 多志田		多志田集落の中心にある観音堂(耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場八七番霊場)周辺に積上げられた石塔群。				17 C-3
198	向戸原両面板碑	耶馬溪町 戸原木ノ子		山国川の支流木ノ子川沿いにある曹洞宗瑞応山円徳寺の前の道沿いに立つ両面板碑。			3	17 D-2
199	千人塚両面板碑	耶馬溪町 戸原下戸原		山国川の支流木ノ子川と並行する道路との間の杉山の中に塚がありその上に立つが、半分は折れて倒れている。		市有形	3	17 D-2
200	水取お堂石塔群	本耶馬溪町 跡田水取		跡田川沿いに走る県道500号と旧道が跡田水取地区で合流する場所の御堂の崖面に小型の塔身を欠く宝篋印塔と空風輪がある。				17 B-4
201	法岸寺橋石仏	本耶馬溪町 跡田門前		法岸寺から羅漢寺川に架かる橋を渡った正面にお堂があり、2体の石仏がある。膝を立てた石仏は中世の可能性が高い。				17 B-4
202	智剛寺の石塔群	本耶馬溪町 跡田門前		山国川の支流跡田川に合流する羅漢寺川沿いに通じる市道から東に参道が延び丘陵の中腹に現在無住の智剛寺があり、境内に石塔類が残る。		41		17 B-4
203	古羅漢 法岸寺石塔	本耶馬溪町 跡田門前		山国川の支流跡田川に合流する羅漢寺川沿いに通じる市道から西に参道が延び古羅漢の麓に法岸寺があり、境内に宝塔と層塔が残る。		41		17 B-4
204	法岸寺裏山石塔群	本耶馬溪町 跡田下原		法岸寺の裏山で、宝塔下を過ぎた古羅漢探勝道沿いに倒壊し、腐葉土下に埋没した五輪塔群がある。各部位10基以上あり、まとまった石塔群が存在する。				17 B-4
205	古羅漢国東塔	本耶馬溪町 跡田下原		古羅漢の岩峯に立つ。塔身の下に省略化した反花が付く。		県有形	10	17 C-4
206	古羅漢北壁石塔群	本耶馬溪町 跡田下原		古羅漢宝塔の北側の岸壁に3ヶ所に分かれて所在する。A群は探勝道沿いにある崖壁で毘沙門天像を彫り出している。B群は西向きの岩窟内の石塔群で五輪塔・宝塔・石仏で構成されている。石仏の背面には納経痕跡がある。C群は探勝道沿いの五輪塔である。		市有形(崖窟仏)	10	17 C-4
207	古羅漢西壁参道石塔群	本耶馬溪町 跡田古羅漢	室町	駐車場からの参道沿いに所在。入口から順にA群・B群・C群とする。A群は五輪塔主体。B群は宝篋印塔、C群は石造観音菩薩坐像(県有形)である。特にC群の石造仏の膝から紀年銘入り文書が見つかり、製造年代が明らかになった。現在は耶馬溪風物館に展示。	正平17(1362)	県有形(石造観音菩薩坐像)	10	17 C-4
208	二五番霊場石塔群	本耶馬溪町 跡田町		跡田川左岸の町集落の西端にある御堂(耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場二十五番霊場)前の五輪塔残欠。				17 C-4
209	羅漢寺旧参道跡石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺	戦国期	羅漢寺旧参道沿いから登った位置にあった寺。寺域には近世の単制無縫塔が立ち並び、石殿の中に石仏がある。参道沿いに角宝塔があるが、確認できず。また、参道沿いに石仏が4体あったが、現在は耶馬溪風物館に展示している。この石仏には銘がある。	延徳3(1491)		10	17 C-4
210	羅漢寺門前入会墓地内石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		ロープウェイ路の東側、細い尾根を境に東西2群に分かれて確認する。東をA群、西をB群とする。A群は五輪塔が積まれた状態である。B群は、近世墓地内に点在しており、かつてはまとまっていた中世墓地群であったことが推定できる。			10	17 C-4
211	羅漢寺仁王門前石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		羅漢寺の駐車場から仁王門にかけて、石塔が点在する。階段参道沿い、旧参道沿い、仁王門前の3ヶ所で、これを順にA群・B群・C群とする。A群は少量で、B群から転落した可能性もある。			10	17 C-14
212	羅漢寺仁王門上宝塔	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺	桃山~江戸初期	不動坂を上ると、仁王門の西側に接してそそり立つ岩峰の上に設置される。雑木がなければ、仁王門の真上に見える。古羅漢の宝塔に類似。名称は「三廻りの塔」・「元結場宝塔」。			10	17 C-14
213	羅漢寺 不動坂石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		羅漢寺仁王門から左側の急斜面の参道は、不動坂(老いの坂)と呼ばれている。この参道沿いにも石塔類が散見される。			10	17 C-5
214	羅漢寺仁王門内石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		仁王門内に近世墓地があり、その周辺に石塔群が散乱する。中世末期から近世初期の可能性が強く、全体的に小型である。埋もれているものも多く全体を把握しづらい。			10	17 C-5
215	羅漢寺萬霊塔石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		羅漢寺仁王門から通用門方向に少し登った位置に墓標を集め、土台にし万霊塔が置かれている。この中や前に五輪塔がある。			10	17 C-5
216	羅漢寺岩窟内石造弥勒菩薩坐像	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		仁王門から不動坂(老いの坂)を登りつた場所の岩窟内に所在。羅漢寺岩窟の横に錫場がある。			10	17 C-5
217	羅漢寺石仏と周辺石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		本堂周辺の岩窟内に羅漢寺を象徴する数百体の石造羅漢像があるほか、本堂前に石幢が立つ。		国重文	42	17 C-15
218	羅漢寺躰足山歴代住職墓地石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺		仁王門から通用門に向けて登ると、尾根上に羅漢寺歴代住職の墓地である無縫塔群がある。この中に相輪基部を欠く宝塔と、石造三重の塔も建つ。無縫塔は全て単制であるが、10基以上が中世に遡る可能性がある。			10	17 C-15

塔形及び個体数																											
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇										
																				2							
													1	1													
1	3	4	13	4																1							
5	5	5	5	5																							
	1	1	1																								
																					1						
																											五重塔 三重塔
	20	20	20	20	1		1								1							1					
		1													1						1						
1	10	10	10	10							1			1	2												
			1								1	2															
1		2	2	1																							
2	1	1									1				1						1						
											1											2					
	10	10	10	10																							
					1																						
											1											1					
	15	15	15	15																							1
																					1						
																					1						
	1							1		1																	
																											石仏1
																									1		層塔
											1																五重塔
	10	10	10	10																							
2	2	14	12	15							3	1		4	4	6											磨崖仏・石仏 多数
		11	2	5			1	1																			石仏
	4	5	2	1																							
											1																石仏
	15	10	18	1							2	1									1	3		1			
	2	10	6	5			2					4		1	2												
											1																
1			1	1	1																						
1	5	5	5	5			6				1	5	5	5	5	5	5										
2		1	1																								
																											石仏
																								1			石造羅漢像 数百体
											1																三重塔

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
219	羅漢寺指月庵石塔群	本耶馬溪町 跡田 羅漢寺	室町	羅漢寺本堂の東側に焼失しているが経蔵と指月庵があった。石塔の一部はこの建物の礎石となっている。その周辺には完存する宝篋印塔3基、五輪塔1基を中心とした石塔群がある。無縫塔の残欠は重制と考えられる。	慶長2 (1593)		10	17 C-5
220	井原地蔵堂刻像板碑と石塔群	本耶馬溪町 折元井原		井原集落の奥道500号沿いにある御堂（耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場五六番霊場）周辺の石塔群。				17 C-4
221	梅ノ木層塔	本耶馬溪町 東台梅ノ木		文献10に、集落の裏側から山に入ると小祠を祀る聖地があり、その傍らに層塔がある。かつては五重塔かと記述。位置確認できず。			10	17 E-5
222	高橋家墓地内石造物	本耶馬溪町 落合宮ノ下		落合字宮ノ下集落で奥道落合齊藤線のバイパスと旧道が南側で別れる場所の西側の山麓にある近世墓地内に点在。				17 F-4
223	浄照寺板碑・層塔	本耶馬溪町 落合 寺辺	戦国	跡田川の上流名、東谷川が西谷川と合流する場所の左岸に建つ。古庄屋の層塔と板碑。耶馬溪道路建設に伴い当地に移設か。			10	17 F-5
224	河野邸裏近世墓地石塔群	本耶馬溪町 西谷		跡田川の上流名西谷川の右岸、奥道落合齊藤線から堤橋を渡った集落にある河野邸裏の谷沿いの近世墓地内に散在する。				17 G-4
225	下善林道沿宝篋印塔	本耶馬溪町 西谷		3基あるが、1基は塔身を欠く。また、3基とも相輪の端部を欠く。林道沿いの崖面に平坦部を造りだし安置。			10	17 G-4
226	下善ヤグラの段石塔群	本耶馬溪町 西谷時下善		跡田川の上流名西谷川の右岸の下善地区の水田中に残る石塔群。宝塔を中心に宝篋印塔と幾つかの五輪塔で構成。		市有形 (価格 2)	10	17 G-4
227	雲谷寺石塔群	本耶馬溪町 西谷 雲谷寺		後田川の上流名西谷川の右岸、元木氏宅前板碑と川を挟んで対峙する場所に16世紀末であった寺院の石塔群。現在は御堂のみあり、木造仏（県有形）二対が安置され、周辺に石造物が並ぶ。		市有形 (宝篋印塔)	10	17 H-4
228	元木邸前板碑	本耶馬溪町 西谷	南北朝～室町	跡田川の上流名西谷川の左岸、旧西谷小学校の南側斜面にある元木邸入口に3基建つ板碑群。			10	17 H-4
229	下長谷五輪塔	耶馬溪町 山移 鷹丸		鷹丸集落入口の岩の上に立つ五輪塔。水田のため接近できないが、周辺に五輪塔もあり。		市有形	3	17 H-2
230	相良邸宝篋印塔	耶馬溪町 山移 鷹丸		文献3では太郎寺跡と伝えられ、相輪端部を欠く宝篋印塔を中心に五輪塔が集められている。		市有形	3	17 H-2
231	城山橋右岸石塔群	本耶馬溪町 今行 天狗松		山国川の支流屋形川にかかる城山橋の右岸たもとの近世～近代墓前に並ぶ。				17 A-5
232	鎮西包氏邸石塔群	本耶馬溪町 今行 鳥越		山国川の支流屋形川沿いの天狗松・鳥越集落に行く市道沿いにある鎮西邸の横に並べられている。				17 A-5
233	村岡家墓地石塔群	本耶馬溪町 今行 鳥越		鳥越集落内の村岡家墓地内に2基並ぶ。				17 A-5
234	今行鳥越石塔群	本耶馬溪町 今行 鳥越	南北朝	鳥越集落の裏、谷川を渡り、裏山の尾根の先端、2本あるモミの木の根元近くに国東塔と宝塔が並んで所在。近接して五輪塔が積上げられている。			10	17 A-5
235	粉宝塔	本耶馬溪町 今行	室町	縄文時代の埋葬人骨が多数出土した粉洞穴の前にある巨岩の上に建つ宝塔と周辺に五輪塔の残欠がある。		市有形	10	17 B-6
236	屋成家墓地国東塔	本耶馬溪町 東屋形口の坪	鎌倉	宝塔10基以上、五輪塔20基以上で構成される中世墓地。宝塔にある銘、弘安5年（1282）は大分県最古。最古銘の宝塔の裏に墨書	弘安5 (1282)	県有形	10	17 C-6
237	屋形家墓地石塔群	本耶馬溪町 西屋形	戦国	主要地方道宇佐耶馬溪線沿いで、旧屋形小学校前の屋形川を挟んだ山塊の尾根の先端に営まれている。石塔の部材は積上げられているが、宝塔等が建つ。宝塔に墨書の紀年銘。	文明16 (1484)	市有形	10	17 C-6
238	落合の種子銘文入宝塔	本耶馬溪町 東屋形	室町	文献10では、茶畑隣の古い墓地の中に所在と記述。藪のため接近できず、未確認。	永享2 (1430)		10	17 D-8
239	椿のお堂石塔群	本耶馬溪町 東谷 椿		跡田川の上流名である東谷川に合流する椿川沿いの椿集落のお堂の周囲に残る五輪塔を主体とした石塔群。				17 G-5
240	35番霊場薬師堂石塔群	本耶馬溪町 東谷中手原		奥道500号沿いにある東谷字中手原集落の薬師堂（耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場三五番霊場）周辺の石塔群。				17 F-6
241	河出原宝篋印塔	本耶馬溪町 東谷 川出原	室町	跡田川の上流名東谷川に合流する川出原川沿いにある薬師堂（耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場三四番霊場）周辺の石塔群。				17 F-7
242	中河内宝篋印塔	本耶馬溪町 東谷 中河内	室町	文献10では、東谷の岩屋へ通る道からメガネ橋を渡ったところに墓地があり、傍らの岩頭に全階式宝篋印塔があると記述。現況は道路が拡張され、メガネ橋も撤去している。石幢のみ確認。			10	17 G-8
243	桃ノ木峠板碑	本耶馬溪町 東谷	南北朝～室町	文献10に堂のうしろの観音さんと呼ばれていると記述。桃の木の野島氏に聞くと、現在は、岩屋から林道が開墾されており、近くまでいけるが、後は徒歩で登る。			10	17 G-8
244	浪立墓地五輪塔群	三光 上深水	戦国	墓地の一角にまとめて置かれている。				18 A-1
245	八徳寺跡石塔群	三光 上深水 久保	戦国	深徳寺（真宗）の前身の八徳寺（禅宗：永正年間開基）があったところに御堂が残る。その横に石塔が置かれている。				18 A-1
246	諫山家墓地五輪塔群	三光 上深水	戦国	墓地の中に五輪塔火輪が点在している。				18 A-1
247	深泉寺墓地石塔群	三光 上深水	室町～戦国	寺横の高台にある墓地に宝塔や宝篋印塔が立ち並んでいる。宝塔は求菩提型である。			41	18 B-1
248	咄石幢	三光 上深水	戦国	重制石幢であるが、龕部と笠のみとなっている。龕部には地藏像を半肉彫りする。			41	18 B-1
249	吉野お堂石塔群	山国町 吉野	戦国	山口川の南側にあり、堂の南西側に石塔部材がバラバラに並んでいる。				24 A-2
250	吉野堂様石塔群	山国町 吉野	戦国	堂の北側にあるコンクリート上に集められたもの。すべて安山岩製。東側の圃場整備地域から移動したものか。				24 A-3
251	田中要氏宅南西宝篋印塔	山国町 平小野	戦国	奥道496号の南側脇、山国川を見下ろす川岸に凝灰岩製の宝篋印塔の笠（高さ40cm以上・幅47cm）が半ば埋もれてあり、上に五輪塔の空風輪が乗る。				24 B-3
252	平小野石塔群	山国町 平小野	南北朝	道路北側の一段高い場所に堂があり、道路との間に石塔部材が並ぶ。五輪塔の地輪は横倒し状態で塔に組み込まれ、太い梵字が刻まれた南北朝期のもの。				24 B-3
253	守実宝篋印塔	山国町 中摩 守実	戦国	道路の上方、尾根の先端に宝篋印塔の基礎・笠があり、五輪塔の火輪が乗る。すぐ西側の階段を上りきると尾根の上面に神社跡がある。				24 B-3
254	田中家北石塔群	山国町 中摩 守実	戦国	家のすぐ北斜面に堂があり、前面に集められた石塔が並ぶ。板碑には梵字が刻まれている。板碑・宝塔は安山岩製。				24 B-3
255	陽雲寺石塔群	山国町 中摩 守実	戦国	市有形の三所権現の上部、奥に寺があり、その北側に石塔が並ぶ。五輪塔地輪1点が安山岩である以外全て凝灰岩製。				24 B-3
256	花房姫板碑	山国町 中摩 守実	戦国	下部は後世の基礎に埋まるが、現状で1.1m、幅33cm、厚さ18cm。安山岩製。碑面上部に三本の横線が刻まれているが墨書の有無は不明。		市有形		24 B-3
257	山国支所駐車場石塔群	山国町 中摩 守実	戦国	センターの庭に移設された石塔群がある。なかに市有形の完存の宝塔（文明4年銘）および龕部と竿が残る石幢（明応10年銘）がみられる。	文明4 (1471) 明応10 (1501)	市有形 (宝塔・石幢)	41	24 B-3
258	成政石塔群	山国町 藤野木	戦国	全て安山岩製。石幢は龕部が四角で、四面に仏像を彫り窪めている。				24 B-3
259	藤野木石塔群	山国町 藤野木	戦国	長尾野川右岸、水田の端に集められ並ぶ。基礎は三段、凝灰岩製の角宝塔。				24 B-4
260	貴船社宝篋印塔	山国町 宇曾	戦国	境内の外側、鳥居の西側に安山岩製の宝篋印塔部材が並ぶ。社殿の西側に安山岩製で高さ47cm、幅22cm、厚さ12cmの板碑がある。				24 B-5

塔形及び個体数																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
2		1	1		3																1				
2																			1						層塔
1	2	2	2																1				1		層塔
	1	1																	1						
					2	1	1		1	1															
	3	4	3	3	1		1							1											
	7	2	2	2	2		1				1	1		1								1		1	
																			3						
1		1	2																						
	10	10	10	10	1																			1	
	1	2	3	4																					
6																									
2																									
	7	7	7	7							1							1							
		7	3	3							1														
20											10														
2	5	5	5	5							4			1											
											1														
2	4	5	6	4																					
	1	2	1	1																					
1	15	15	15	15			1	1																	
					1																			1	
	5	6	6																		1				
												1									2				
		3																							
	10	12	9	4	8						9			3								1			
																								1	
	3	3	1								1	1	2												
	35	11	12						1				1							4					
	1						1																		
		3	1	1			2						2	1											層塔笠1
		1					1		1																
	2	6	6	2							1									1					
				1		2	1	1	1				1	2											層塔笠3
																				1					
											1	2	1	1	1	1	1								1
	1	1					1																	1	
													1	1	1	1									
							2		1											1					

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
261	明円寺石塔群	山国町中摩		情報では、「山国道の駅」に隣接する明円寺の左手奥、山崎邸の裏山に所在する石塔群。獣害除けの鉄柵のため接近できず、未確認。				24 B-5
262	中摩殿板碑	山国町中摩	戦国	道路両側に続く集落の北側背後水田の畦に南向きに立つ。基礎石に埋め込まれるが、現状の高さ125cm、幅38cm、厚さ21cm。凝灰岩製で無銘。顔の出は浅い。				24 B-5
263	坂本仁人氏宅石塔	山国町中摩	戦国	観音堂石塔群の北東側民家の庭先にある。宝塔宝珠の蓮弁は線刻化。				24 B-5
264	観音堂石塔群	山国町中摩		堂の北東側、道路脇に相輪を欠き四面に太い梵字を安山岩製の宝篋印塔があり、傍に凝灰岩製の石塔部材が集められている。				24 C-3
265	寺川観音堂	山国町中摩	室町	凝灰岩製の石塔部材が二つ組み合わせられている。宝塔塔身には梵字墨書がある。				24 C-5
266	春田宝篋印塔	山国町中摩	室町	基礎・相輪は後補。高さ179cm。基礎は一段で別石の基壇に重なる。身に虎御前の追刻。笠は上下4段ずつの段がある。相輪は請花が段状。				24 D-5
267	長尾野五輪塔(西部)	山国町中摩 長尾野	室町	当初の組み合わせではない五輪塔8基分があり、中央東西に並ぶ2基が市有形。西塔は四方に五大種子の四転を記す。高さ130cm(西塔)・125cm(東塔)。	市有形(五輪塔)			24 E-4
268	第67番霊場薬師堂の石塔	耶馬溪町金吉 行広椏ヶ原		山国川の支流金吉川に架かる地弘橋左岸にある御堂(耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場六十七番霊場)前の五輪塔残欠。				24 A-1
269	飛瀬宝篋印塔	耶馬溪町金吉 飛瀬		山国川の支流金吉川の左岸の山沿いにある完存する宝篋印塔。水田中にあつたのを昭和61年に圃場整備のため当地に移設。隅飾りに浮文を刻む。塔身と基礎の間に蓮華の反花を刻む段型が入る。	市有形	3		24 B-7
270	御祖神社宝塔	耶馬溪町金吉 山浦		山国川の支流金吉川から分岐する並石川の合流地点にある御祖神社境内に立つ。相輪と基礎を欠く。長胴の塔身を持つ。	市有形	3		24 B-7
271	椋権現宝篋印塔	耶馬溪町大島 新藤野		文献42によると、新藤野地区の権現堂にある。宝篋印塔の相輪の基部を欠く。自然石塔婆には梵字が刻まれる。	市有形	41		25 B-1
272	薬師堂異形宝篋印塔	耶馬溪町山移 池の塚		下長谷五輪塔のある鷹丸集落西側の山中にある池の塚集落の薬師堂前の宝篋印塔。甲屋敷板状碑等石塔群の宝篋印塔と同じで、笠に段はなく、隅飾りが小さい特徴がある。	市有形	3		25 A-1
273	原井石塔群	耶馬溪町山移 原井		山移川の右岸沿いに展開する原井集落の北側の岩尾根の上に南を見下ろすように立つ。石塔類は概ね小型が多い。	市有形	3		25 A-3
274	大木原普門寺跡石塔群	耶馬溪町山移 大木原		主要地方道森耶馬溪線の東側の水田中に、各種石塔が6m×3mの範囲に積上げられている。普門寺跡の伝承があり、康正二年銘の笠付の石塔があるが、後刻であろう。	市有形	3		25 A-3
275	堂平石幢	耶馬溪町山移 八木時		石幢は完存しているが、基部をコンクリートで固めている。宝塔はほぼ完存であるが、相輪を欠き、横に置いている。		3		25 B-3
276	伝後藤又兵衛墓所石塔群	耶馬溪町金吉 伊福		山国川沿いに通じる県道井原耶馬溪線横にある伝後藤又兵衛の墓所。整備された墓所内に石塔が集積。		3		25 E-1
277	藤木宝篋印塔	耶馬溪町山移 藤木		文献3によれば、藤木地区山中に町内最大の宝篋印塔が所在。聞き込みをするが、位置不明。		3		25 E-3
278	伏辺野札所裏の板碑	本耶馬溪町西谷 伏辺野		43番札所裏に所在。			10	25 A-5
279	倉谷板碑	本耶馬溪町西谷		文献10に記述があるが、場所を確認できず。			10	25 A-5
280	家籠石造	耶馬溪町奥耶馬 家籠		深耶馬溪の家籠集落内にある御堂(耶馬溪新四国八十八ヶ所霊場八十三番霊場)の前にある小型の宝篋印塔の残欠。				25 F-5

塔形及び個体数																																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形																	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇																							
																			1																					
	1	1					1	1	1				1		1																									
	15	3	3	3			1	1	1				2	2	3																									
		1					1								1	1																								
							1	1		1																														
	5	8	6	2									1																											
		2	1																																					
	1	1				1																																		
															1	1																								
	1	1	1			1																																	自然石塔婆1	
												1																												
	7	5				3										1																								
	10	10	10	10		7	7	7	7	7																														
	1	2	1									1																											1	
	8	7	10	7			1	1																																
							1		1																															
																																								石仏2
							2																																	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	宮熊板碑	宮熊	南北朝	個人宅の一角に石祠とともに並べられている。中央で折れている大型品で、碑身に大きくキリークの梵字種子を刻んでいる。種子は葉研彫りではなく底が丸い。			20	11 B-3
2	観音寺・貴船社石塔群	下庄 本村	戦国	観音寺や、隣接する貴船社の境内に石塔部材が散在する。中でも、道の辻にある庚申塔には天正年間の紀年銘がみられる。	天正20 (1592)		11	11 A-3
3	布津部集落墓地石塔群	下庄 布津部	戦国	集落墓地の久保田家および大木家墓地に五輪塔部材が確認できる。				11 B-4
4	下敷田集落墓地五輪塔群	下敷田	戦国	墓地中央に近世墓地の景観をよく残す一角があり、その中に五輪塔部材が散在する。				11 B-3
5	木部家墓地石塔群	下庄	戦国～近世初期	墓地中に石塔が並べて置かれている。特に、地藏陽刻板碑の類例が多く確認できる。				11 C-4
6	中敷田五輪塔群	中敷田	戦国	コンクリートの小さい覆屋内に五輪塔部材が置かれている。				11 C-3
7	萩原家墓地石塔群	上敷田	戦国～近世初期	墓地中に石塔部材が散在する。板碑には地藏が陽刻されている。				11 D-3
8	天津農村公園横地藏堂石塔群	上庄	戦国	コンクリート製小室内に石造物が置かれている。五輪塔部材や地藏陽刻板碑等がみられる。				11 C-3
9	小野田家墓地石塔群	上庄	戦国	近世墓地中に石塔部材が置かれている。				11 C-3
10	香積寺石塔群	上庄	室町～近世初期	境内の入口や住職墓地に石塔がみられる。板碑は地藏陽刻板碑である。				11 C-4
11	広山神社国東塔	上庄	南北朝～室町	相輪の反花以上を欠く完存の国東塔が境内に単独で置かれている。		市有形 (国東塔)		11 C-4
12	清水集落墓地石塔群	清水	戦国	近世墓地中に石塔部材が散在する。石幢は笠と龕部のみである。				11 D-1
13	下佐野集落石塔群	佐野 下佐野	戦国	墓地内に石塔部材が散在する。				11 D-3
14	奈良家墓地石塔群	佐野 下佐野	戦国	墓地内に石塔部材がみられる。				11 D-3
15	大根川集落墓地石塔群	大根川	鎌倉～戦国	墓地内に石塔部材がみられるが、鎌倉末に遡る五輪塔部材が含まれている。				11 E-3
16	上敷田集落墓地五輪塔群	上敷田	戦国	近世以降の墓地中に草に埋もれて五輪塔部材が散在する。				11 D-3
17	樋田家五輪塔群	上敷田	戦国	享保2年(1717)銘をもつ完存の石幢の横に石塔部材が集められている。				11 D-3
18	金剛寺石塔群	上敷田	南北朝～戦国	金剛寺の歴代住職墓地と本堂横に石塔部材が集められている。				11 D-3
19	上庄集落墓地五輪塔群	猿渡	戦国	集落墓地の一角に五輪塔部材が集められている。				11 D-3
20	清水寺石塔群	清水	鎌倉～戦国	境内や住職墓地、観音堂への石段横などに石塔がみられる。中でも大型の角柱塔婆や板碑の上面に穴を穿ち再利用している手水鉢が境内にある。層塔は笠のみが2点みられる。				11 E-1
21	内尾家墓地五輪塔群	清水	戦国	墓地中に五輪塔部材が散在するが、原位置を保つものではないように思える。				11 E-1
22	今仁家宝塔	今仁	南北朝	民家の庭に隣接する丘陵裾に宝塔塔身と基礎が別々に置かれている。同一個体かもしれないが、それぞれ隣接する畑から開墾に際し、出土したと伝えられている。				11 E-2
23	下今仁石塔群	今仁	戦国	山裾の林中に石塔が並べられている。宝塔は完存のものが4基存在するが、部材の組合せが異なる可能性もみられる。板碑は二連板碑である。				11 E-2
24	光明寺板碑と周辺石塔群	佐野	鎌倉～戦国	境内鐘撞堂横に2基の二連板碑が並んで立てられている。左の板碑には紀年銘がみられ、県有形に指定されている。このほか、板碑周辺や本堂裏の歴代住職墓地をはじめとして、境内に石塔が散在する。	元応元 (1319)	県有形 (板碑)		11 E-2
25	佐野集落墓地石塔群	佐野	戦国～近世初期	近世墓地中に石塔部材が集積されたり、散在したりしている。墓石の造立に際し、整理されたものと考えられる。				11 E-2
26	春日神社石塔群	今仁 上今仁	南北朝～戦国	社殿横に石祠が並べられているが、この横に南北朝期のものと考えられる宝塔が存在する。その横や境内石鳥居の横にも五輪塔部材が存在する。				11 F-2
27	上今仁集落墓地石塔群	今仁 上今仁	室町～戦国	集落墓地の入口にある六地藏横に石塔部材が集められているほか、墓地内に部材が散在する。				11 F-2
28	天竜寺国東塔と周辺石塔群	赤尾	南北朝～近世初期	境内に南北朝期の二連板碑や無縫塔の基礎が存在するほか、歴代住職墓地には戦国～近世初期の2基の完存の無縫塔や、室町期の完存の市有形国東塔のほか石塔部材がみられる。無縫塔の個体数は完存2基に部材数を加えた実数である。		市有形 (国東塔)		11 F-2
29	曾根石塔群	赤尾 曾根	南北朝～戦国	川の横の水田中に1辺5m、高さ1.5m程度の塚があり、その上に石造物が置かれている。板碑は下半が埋もれているが、南北朝期に遡る大型品であり、その他の石造物は戦国期のものである。				11 E-3
30	下元重集落墓地石塔群	下元重	戦国	累代墓化された集落墓地の各所に石塔部材が散在する。				11 G-4
31	正覚寺五輪塔群	猿渡	戦国	参道石段横や墓地内に五輪塔が散在するが、他所から持ち込まれたと伝えられている。				11 E-4
32	成円寺石塔群	上高 布津原	鎌倉～戦国	成円寺の門前・境内・歴代住職墓地・墓地など各所に石塔部材がみられる。中でも、門前の径60cmを測る宝塔塔身は鎌倉期に遡る可能性をもつ優品である。	元和4 (1618)		36	11 D-5
33	養徳禅寺石塔群	下高	南北朝～戦国	南北朝期の完存の宝塔のほか、戦国期の石塔部材が墓地内に散在する。				11 D-5
34	善光寺歴代住職墓地石塔群	下時枝	戦国	善光寺境内の東側に存在する歴代住職墓地の中に五輪塔や宝塔の部材が存在する。			11	11 C-4
35	善光寺板碑と周辺石塔群	下時枝	鎌倉～近世初期	境内に存在する開山塔と伝えられる五輪塔や建武4年銘をもつ板碑、鎌倉期の層塔、応永30年銘をもつ宝篋印塔基礎をはじめ、本堂西側境内を中心に各所に石塔が散在する。	建武4(1337) 応永30(1423)	県有形 (板碑)	11・36	11 C-4
36	善光寺裏墓地石塔群	下時枝	南北朝～戦国	墓地内に組合せが異なる石塔が並べられているほか、部材が墓地内に散在する。中でも入口付近の大型宝塔は南北朝期に遡るものであろう。				11 C-4
37	金光家墓地石塔群	西高家	戦国～近世初期	近世墓地中に石塔部材が散在する。無縫塔は基礎・塔身・中台が散在するが、同一個体であろう。			20	11 B-4
38	小迫家墓地石塔群	東高家	室町～近世初期	相輪上半のみを欠く完存の宝塔と五輪塔部材が整理された墓地中に置かれている。			20	11 B-4
39	寿福寺跡石塔群	東高家	戦国～近世初期	寺跡とされる一角に願影碑や祖霊社があり、その横に石塔部材が組まれているが、組合せは本来のものではない。				11 B-5
40	金剛頂寺境内墓地石塔群	東高家	南北朝～近世初期	墓地の一角にコンクリートを貼り、中世の石塔を集成している一角がある。五輪塔の中には南北朝期に遡る可能性をうかがわせる部材もみられる。				11 B-4
41	大石家墓地五輪塔群	東高家	戦国	整理された近世墓地中に石塔部材が重ねられている。				11 B-4
42	宗顕寺境内墓地石塔群	東高家	戦国	境内墓地の各所に石塔が散見できる。中でも、天正17年銘をもつ地藏陽刻塔婆や永禄8年銘をもつ宝塔塔身など紀年銘資料も残されている。	永禄8(1565) 天正17(1589)		11・20	11 B-5
43	善久寺跡石塔群	東高家	戦国～近世初期	寺院境内の墓地に五輪塔部材が散見される。				11 B-5
44	高家神社参道横石塔群	西高家	戦国	高家神社の参道横に径5m、高さ1m程度の塚があり、その上に近世の石造物とともに中世の石塔部材がみられる。				11 B-4

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇							
																			1					
1	8	7	7	5																		庚申塔1		
	3	3	5																					
	1		1	1																				
	2	6	5																8					
	1	1	3																					
	11	2	9																2					
	2	1																	1					
	8	3	1																1					
	3	2	2	1									2						4					
																		1						
	1	7	4																		1			
	17	8	7	3																				
	3	3	3																					
	3	6	17																1					
	2	2	1																					
	2	1	1																					
	5	8	16	1			1												2					
	2	1	1																					
	23	6	12	1								2							1		1	層塔		
	9	15	10	9																				
														1	1									
	1		1								4			1					1					
	12	15	26	3								3	1	1	1				2		1			
	11	14	14	2							1	1			1					1				
		1	4	1							1													
	13	6	8	2								1	1											
	1		2	1			1						1					1	1		4			
	6	3	9	3															1	1		3 笠塔婆3		
	5	4	3	2											2									
		2	4	3									1											
	9	1	16	2									1	1					2					
	1	2	3								1									1		笠塔婆塔身1		
	1	7	2	3											3									
1	3		2				1		1	1			2	1					7		1	笠塔婆塔身1 層塔1		
	8	20	20	22				1					4	3	3				1					
	8	2	15	1	1								1		2					1	1	笠塔婆1		
		1	1								1													
	8	6	8	5								1	1	1	1									
	13	11	30	8									3	4	3				1					
	4	1	4	1																				
	3	3	2	2								1			2				2			笠塔婆1		
	1	2	3																					
	16	10	10	9			1			1														

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
45	安福寺層塔と周辺石塔群	下高家 宗像	鎌倉～戦国	庫裏裏に正安3年銘をもつ三重石塔の塔身があるほか、安福寺裏の近世墓地の司城家墓地中に石塔部材が散在する。	正安3(1301)	市有形(層塔)		11 B-4
46	円徳寺裏墓地石塔群	下高家	室町～戦国	納骨堂の正面に宝篋印塔の笠が置かれている。				11 B-4
47	上高家共有墓地石塔群	上高家	戦国	累代墓化し、整理された墓地に石塔部材が散見される。石幢は龕部のみである。				11 C-5
48	下高共有墓地五輪塔群	下高	戦国	整理された近世墓碑のならびに五輪塔部材が重ねられている。				11 C-5
49	観音堂板碑	上元重	南北朝	観音堂に登る石段横に単独で立てられている。額部の突出が強く、碑面にキリークの種子が刻まれている。具有形の妙楽寺板碑と同型式である。				11 G-4
50	真応寺跡石塔群	上元重	南北朝～戦国	現在、ゲートボール場になっている真応寺跡の観音堂(奥の院)に向かう山道沿いに石塔部材が埋められている。宝塔や五輪塔などの部材が確認できるが、総数10基を超えるものであろう。				11 G-4
51	上元重集落墓地石塔群	上元重	戦国	近世墓地中の最奥部に石塔部材がみられる。				11 G-4
52	中山家墓地五輪塔群	上元重	戦国	墓地中に水輪が重ねられている。				11 G-4
53	早田家墓地宝塔群	上元重	戦国	墓地の端に完存の宝塔が2基建てられている。それぞれの部材が入れ替わっている可能性があるが、同規模同型式であり、双塔として立てられたと考えられる。			20	11 G-4
54	正興寺石塔群	末	室町～戦国	参道入口に石塔部材が積まれている。また、歴代住職墓地にも五輪塔・宝篋印塔・板碑の部材がみられるが、他所から持ち込まれたものであろう。				11 H-4
55	吉武家墓地前板碑旧在り	今成	南北朝	東九州道予定地旧在りの板碑である。現在は県埋蔵文化財センターに保管されている。碑面に大きくキリークの梵字種子が業研彫りされており、刻銘の痕跡がみられるが、判読不能である。				11 H-4
56	末家横石塔群	末	戦国	民家の敷地の端に石塔部材が集められている。				11 H-4
57	大明神石塔群	末	南北朝～戦国	大明神と刻まれた自然石の周辺に石塔部材が集められている。ほぼ戦国期のものであろうが、空風輪のひとつに南北朝期に遡るものが見られる。				11 H-4
58	末集落墓地宝塔	末	室町	近世墓地中に宝塔塔身のみが残されている。				11 H-4
59	貴布祿社五輪塔群	下高	戦国	貴布祿社の石祠横に五輪塔部材が置かれている。他所から持ち込まれたものと考えられる。				11 D-5
60	上高石幢と周辺石塔群	上高	戦国	コンクリートの小堂内に宝珠～龕部までそろった石幢と、五輪塔部材が置かれている。				11 D-5
61	上高集落墓地石塔群	上高	南北朝～戦国	墓地の入口や墓地内の各所に石塔部材が組まれていたり、散在していたりする。				11 E-5
62	四日市集落墓地石塔群	四日市	戦国	累代墓化された墓地中に石塔部材がみられる。				11 E-5
63	下乙女集落墓地石塔群	下乙女	戦国	集落墓地中に石塔部材が散在する。				11 B-6
64	香林寺横墓地五輪塔群	下乙女	室町～戦国	墓地中に五輪塔火輪がみられる。うち1点は露盤をもつが、ラウの四転を業研彫りする良品である。				11 B-6
65	香林寺石塔群	下乙女	戦国	境内の池の横にコンクリートで固められた一角があり、その上に石造物を並べており、中世の部材もみられる。				11 B-6
66	矢野家墓地国東塔と周辺石塔群	下乙女	南北朝～戦国	墓地中に中世の石塔群が集められているが、南北朝～室町期の完存の市有形国東塔を中心に小型の石塔群が周囲に並べられている。国東塔は塔身に奉納孔をもつ。		市有形(国東塔)	20	11 B-6
67	原地区墓地石塔群	下高 下山	戦国	旧景観をとどめる近世墓地に石塔部材が散在する。下高原地区の共有墓地であったと伝えられている。				11 C-5
68	安楽院五輪塔群	森山	戦国	境内に五輪塔部材が散見される。				11 C-6
69	慈眼寺石塔群	下乙女	戦国	境内墓地の入口や最奥部に石塔が集積されているが、埋もれているものも多いと思われる。				11 C-6
70	松月寺国東塔と周辺石塔群	下乙女	南北朝～戦国	境内に2基の完存の国東塔がみられる。両者とも奉納孔をもつものであるが、1基は組合せが本来のものか、疑わしい。このほかに一石五輪塔が2基存在するが、1基は模刻と伝えられている。		市有形(国東塔)	20	11 C-6
71	浄現寺横墓地石塔群	上乙女	戦国	墓地中において石塔部材が組まれている。				11 C-6
72	有近寺国東塔と周辺石塔群	上乙女	室町～戦国	有近寺墓地の一角に石塔部材が集められて組まれている。国東塔は基礎礎石のみが残されている。石幢は笠・龕部・竿・基礎の個体数を示している。		市有形(国東塔)	20	11 C-6
73	松山城跡石塔群	下高	戦国	少量の石造物が集められており、自然石板碑には、かつて紀年銘が確認されたとされるが、現在はみられない。	天文5(1536)		11	11 D-5
74	善応寺墓地石塔群	森山	戦国	累代墓化された墓地の一角に整理されて、移転された石塔部材が組まれている。				11 D-6
75	城井西墓地石塔群	城井	戦国	整理された墓地中に石塔部材が組まれて並べられている。				11 D-6
76	荒木公民館前石塔群	荒木	南北朝～戦国	寺院を踏襲した公民館の前に墓地が営まれており、その中に石塔部材がみられる。五輪塔水輪には南北朝期に遡ると思われるものも存在する。				11 D-6
77	折口家墓地石塔群	荒木	戦国	墓地の端に石塔部材が集積されている。石幢は龕部のみであり、六地藏を浮彫りしている。				11 D-6
78	福泉寺墓地石塔群	城井 下城井	戦国	墓地の六地藏周辺をはじめとして全域に石塔部材が散在する。無縫塔は中台のみである。				11 D-6
79	城井石塔群	城井	戦国	道の辻に径5m、高さ1.5m程度の塚があり、その上に石塔部材が並べられている。				11 D-6
80	下高集落墓地五輪塔群	下高	戦国	整理された墓地の端に五輪塔部材がみられる。				11 D-5
81	吉松集落墓地石塔群	吉松	室町～戦国	墓地入口の六地藏周辺に石塔部材が置かれている。地藏を陽刻する笠塔婆は笠が失われている。				11 E-5
82	光鏡寺石塔群	城井 下城井	戦国	境内の間廣堂横や歴代住職墓地に石塔部材が集積されている。				11 D-6
83	城井北集落墓地五輪塔群	城井	戦国	墓地の入口にある六地藏周辺に石塔部材が集積されている。				11 E-6
84	西本町集落墓地石塔群	西本町	戦国～近世初期	整理された墓地に石塔部材と紀年銘をもつカマボコ形をしたキリシタン墓の可能性をもつ石塔がみられる。	寛永6(1629)		20	11 E-5
85	吉松集落墓地石塔群	吉松	室町～戦国	墓地中に石塔部材が置かれている。地藏を陽刻する笠塔婆は笠が失われている。				11 E-6
86	城井南集落墓地五輪塔群	城井	戦国	整理された墓地中に近世の自然石塔婆とともに五輪塔部材が集められている。				11 E-6
87	渡辺家宝篋印塔	四日市	室町	個人宅の中庭に宝篋印塔が1基みられる。塔身は後補であろう。				11 F-5
88	渡辺家墓地五輪塔群	四日市 台の原	戦国	累代墓に整理された墓地群の一角に近世墓碑が並べられている一角があり、その中に五輪塔部材が散在する。				11 F-5

塔形及び個体数																														
五輪塔				宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形								
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	塔	碑	塔	塔	塔	塔	塔	塔	塔	塔	塔	塔	
	4		3			1	1																						層塔塔身	
							1																							
															1													1		
	2	1	2																		1									
		1																												
			2																											
											2																			
	25	16	30	7			1														1									
																					1									
			2	5																										
	1	1		1								1																		
															1															
	3		2																											
	3	2																												1
	5	5	9	1									2								4									
	2		1										1																	
			2	1											1															
		3																												
			1						1																					
	35	34	57	18			1														1									
	15	4	12	5																										
		1	1																											
	2	2	11	2			3						2	1																
																					2									
		2	6	4											1															
	2	4	4	2								2			1	3				1								4		
			1																											自然石板碑1
	2	3	5	4			2																							
	2	3	5	5																	1									
	5	1	6	2			1																							
	1	3	5	2																									1	
	16	6	9	5			2						2								1				1				笠塔婆3	
	2	9	2	4									4	1							1									
	2	2	4	1																										
	2		2																		1									笠塔婆2
	5	6	5	9								3																	1	
	1	6	5	4																										
		1	2	2																										キリシタン墓?1
	1	1	2	2										1																笠塔婆1
		1	2																											
							1																							
	3																													

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
89	葛原集落墓地石塔群	葛原	南北朝～戦国	整理された墓地のあちこちに石塔が組まれていたり、部材が散在していたりする。ほとんどが戦国期のものであるが、五輪塔水輪には南北朝期に遡ると考えられるものもみられる。				11 E-6
90	無動寺石塔群	畑田	戦国	境内の入口や本堂裏の歴代住職墓地に石塔部材が集められている。墓地にある無縫塔は竿のみである。				11 D-7
91	吉用家石塔群	葛原	戦国	屋敷地の鬼門の位置の隅に石塔部材が積まれている。				11 E-6
92	元重家横石塔群	葛原	戦国	屋敷地横に注連縄を張った一角があり、その中に石塔部材が置かれている。				11 E-6
93	華蔵寺六地藏尊板刻像と周辺石塔群	葛原	南北朝～戦国	境内の墓地周辺に石塔部材が集められている。中でも、市有形六地藏尊板刻像は、銘がみられるが判読不能。石幢は籠部のみである。		市有形 (六地藏尊 板刻像)		11 E-6
94	菊厳寺跡五輪塔群	葛原	戦国	寺跡がコンクリートで整地されており、無縫塔群の一角に石塔部材が集められているほか、周辺の墓地にも五輪塔部材が散在したり、墓地入口に地藏2体を浮き彫りしている板碑がみられる。				11 E-6
95	渡辺家墓地石塔群	四日市	戦国～近世初期	丘陵斜面に造成した墓地に整理された墓碑が並べられており、その中に同規模同形式の宝塔が2基みられる。宝塔の前には集積があり、石塔部材が確認できる。				11 G-5
96	渡辺家石塔群	四日市	南北朝～戦国	庭先に石塔が散見できる。板碑は南北朝期のものであり、五輪塔水輪の一つには紀年銘がみられる。石幢は完存のものと同部のみのもがみられ、無縫塔は基礎のみである。	応永25 (1418)	11・20	11 F-6	
97	間集落墓地五輪塔群	間	戦国	累代墓化された墓地中に石塔部材が散見できる。				11 F-6
98	円福寺石塔群	間	戦国	境内や山門付近に石塔が散見されるほか、歴代住職墓地に石塔部材が散見される。墓地には埋もれているものも多いと思える。				11 F-6
99	辛島集落墓地石塔群	辛島	戦国	近世墓地中に石塔部材が散在する。				11 F-7
100	宝福禅寺石塔群	上田	南北朝～戦国	門前や境内に石塔が確認できるほか、歴代住職墓地の無縫塔群中に石塔がみられる。室町期の宝塔の塔身のひとつに銘文がみられる。		11	11 F-7	
101	光明寺跡石塔群	間	南北朝～近世初期	ゲートポール場横や墓地に石塔部材が散在する。自然石板碑に紀年銘があつたとされるが、現在は確認できない。	天正7 (1579)	20	11 F-6	
102	安栖寺板碑群	樋田	戦国	境内の南端に近世以降の石造物群とともに2基の自然石板碑が存在する。かつては紀年銘が2基とも確認されていたとされるが、現在は天正5年銘のもののみ確認できる。	天正5(1577) 天正12(1584)	11	11 F-7	
103	安栖寺墓地石塔群	樋田	戦国	整理された近世墓地中に石塔部材が並べられている。中でも宝篋印塔基礎に紀年銘がみられるものが存在する。	永正10 (1513)		11 F-7	
104	樋田集落南墓地石塔群	樋田	戦国～近世初期	近世墓地中に石塔部材が集められ、組み合わせられたり、部材が散在したりしている。			11 F-7	
105	樋田集落北墓地石塔群	樋田	戦国～近世初期	近世墓地中に石塔部材が散見される。			11 F-7	
106	御所家宝塔	別府	戦国	完存の宝塔が民家の屋敷地内に置かれており、紀年銘が確認できる。	元亀2 (1571)	11	11 G-7	
107	積善寺宝篋印塔と周辺石塔群	大塚	戦国	歴代住職墓地に石塔が並べられている。中でも応永30年銘をもつ宝篋印塔は相輪を欠く完存の優品である。また、自然石塔婆には天正3年銘がみられる。笠塔婆は塔身のみである。	応永30(1423) 天正3(1575)	市有形 (宝篋印塔)	11・20 11 G-6	
108	吉松家墓地石塔群	大塚	戦国	離れているが比較的近接する3箇所に石塔部材が組まれている。本来の組み合わせではなく、後補もみられる。			11 G-6	
109	弘法大師堂横五輪塔群	大塚	戦国	弘法大師堂の横に石塔部材が散見される。			11 G-6	
110	上田家石塔群	上田	南北朝～戦国	8m四方、高さ80cmの方形土壇上に、近世以降の石祠群とともに石塔部材が積み重ねられている。南北朝期の相輪以外は戦国期の五輪塔部材である。			11 F-7	
111	山本集落墓地石塔群	山本	戦国	累代墓化された墓地中の一角に石塔部材が重ねられている。			11 G-6	
112	山本集落墓地五輪塔群	山本	戦国	墓地入口の六地藏横に五輪塔の部材が置かれている。			11 H-5	
113	矢次家板碑	中原	南北朝期	民家の一角に下半が折損して失われている板碑が単独で立てられている。ウーンの梵字種子が栗研彫りされた南北朝期の優品である。		20	11 G-6	
114	中原集落墓地五輪塔群	中原	戦国	墓地の各所に石塔部材が散見される。			11 G-7	
115	長福寺墓地石塔群	別府	戦国～近世初期	コンクリートで固められた墓地に石塔部材が組まれている。自然石板碑には紀年銘がみられる。	寛永20 (1643)		11 G-7	
116	大神家墓地石塔群	法鏡寺	戦国	整理された近世墓地中に石塔部材が並べられている。			11 F-7	
117	任聖寺地藏石仏と周辺石塔群	法鏡寺	戦国～近世初期	小堂に紀年銘をもつ市有形の石仏が安置されているほか、境内の2箇所に石塔が集められている。石幢は籠部のみである。	永正8 (1511)	市有形 (石仏)	11・36 11 F-7	
118	北家石塔群	法鏡寺	戦国～近世初期	民家の一角に紀年銘がみられる板碑と完存の宝塔2基をはじめとした石塔群が並べられている。	慶安5 (1652)	20	11 F-7	
119	雲栖寺石塔群	上田	戦国	参道入口にみられる板碑であり、正面に2体の像容を刻んでいる。			11 F-7	
120	法鏡寺集落墓地	法鏡寺	戦国	墓地の一角に整理された近世墓群があり、その中に石塔部材が重ねられている。			11 F-7	
121	畑田集落北墓地石塔群	畑田	戦国～近世初期	近世墓地中に石塔部材がみられる。宝篋印塔は一石からなる小型のもので近世初頭のものであろうか。			11 E-7	
122	畑田集落南墓地石塔群	畑田	戦国	近世墓地中の近藤家累代墓の裏に五輪塔の部材がみられる。			11 E-7	
123	上田集落墓地石塔群	上田	戦国	近世墓地中の上田家墓地中に五輪塔の部材がみられる。			11 E-7	
124	相良家墓地五輪塔群	川部	戦国	近世墓地中に石塔部材が後補のものと一緒に組まれている。			11 D-7	
125	相良家墓地石塔群	川部	戦国	近世墓地中に石塔部材が集められているが、埋もれているものも多いと思える。			11 D-8	
126	相良家墓地石塔群	川部	戦国	集落墓地の相良家累代墓の横に石塔部材が置かれている。そのほとんどが風化が著しく、破損している。			11 D-8	
127	日輪寺墓地石塔群	江須賀	戦国	寺院内の墓地に石塔部材がみられる。組合せは本来のものではない。			11 C-8	
128	東光寺石塔群	江須賀	戦国～近世初期	歴代住職墓地の中央に組合せの異なる五輪塔がみられるほか、周辺に石塔部材が散在する。			11 C-8	
129	江須賀集落墓地五輪塔群	江須賀	南北朝～近世初期	景観をよくとどめる近世墓地中に石塔部材が散見できる。空風輪のひとつは大型で南北朝期に遡るものである。			11 C-8	
130	若八幡神社石塔群	江須賀	戦国	境内東端の石祠群の横に石塔部材が積み重ねられている。			11 C-8	
131	住江集落墓地石塔群	住江	戦国	墓地中心に宝塔があり、墓地内に石塔部材が散見される。			11 B-7	
132	長福寺墓地石塔群	住江	戦国	墓地の入口の六地藏の裏に石塔部材が集められている。また、門前のコンクリートブロックの小室内にも部材がみられる。			11 B-8	

塔形及び個体数																												
五輪塔				宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形						
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠									塔身	基礎	基壇			
	29	34	56	27									4						2									
	6	11	17	1		1						3	1									1						
	12	6	1	3			1													1								
	1	2	5																									
	30	12	27	11																1						1		
	4	9	8																	3								
							1				2										1							
		3	2	2								1		1	2	1				1		1			2			
	2	1											2															
	3	7	16	3									1							3								
	4	7	1	2									2	1							1							
	9	9	6	2								3		2	3					1								
	26	8	11	7			1					1	2	3	2					2		2					笠塔婆2	
																				2								
	1	1	2	1		2	3	1	2				1		1					1								
	8	13	17	10									2	1	1					1								
	2	9	9	2										2														
											1																	
	1	1	2	5	1								1	1													笠塔婆1	
	5	14	13	14									1	3													笠塔婆1	
	1	1	3																									
	2	1	5	1								1																
	1	1		1										1	1													
	1		1																									
																				1								
	3	3	5	2																	1							
	26	16	24				2					2	7	9						1								
		1	2									1		1	1													
	17	8	10	9								2	4	2	10	2				2	1				1			
		2	1								2									2								
																				1								
	4	4	7	5									1	2	1													
	2	1	3		1		1					1		1	1											1		
	7	2	10	3																								
		6	6																									
	1		3																									
	1	1		1											1													
	7	2	5	1	7																							
	1	2	1	1								1	1			1												
	2	2	3	2					1	2			1		1													
	4		1																									
		1	1												1													
	1		2	1							1									1		2						
	7	3	9										2															

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
133	芦川城跡石塔群	住吉町2丁目	戦国～近世初期	石塔部材が3箇所に集められている。表面が風化し、旧態をとどめていないものも多い。				11 B-8
134	伝平清経墓五輪塔	貴船町	戦国	駅館川河畔に石碑とともに建てられている空風輪を欠く完存の五輪塔である。本来は柳ヶ浦若宮八幡宮境内にあったものを移転したと伝えられている。				11 B-8
135	神光寺石塔群	長洲 中町	戦国	境内に石仏を多く安置している小堂があり、その内外に石塔部材を置いている。また、本堂横の三界万霊塔周辺にも石塔部材がみられる。小堂内に置かれている笠塔婆は一石によるものである。			20	11 B-8
136	伊呂利寺石塔群	江須賀	戦国	境内に石塔部材が1箇所に集められている。石幢は龕部のみである。				11 C-8
137	内山墓地石塔群	高森	戦国	近世墓地中に石塔部材が並べられている。中でも、笠を欠く笠塔婆は現在は判読できないが、入学正敏氏によると紀年銘が確認されている。	天正5 (1577)		20	11 D-8
138	県立歴史博物館 所在石塔群	高森	南北朝～戦国	長寛元年銘の黒有形石柱塔婆群、貞和4年銘をもつ角柱塔婆をはじめとした石塔群が保管されている。板碑は梵字種子が墨書されている南北朝期の優品である。	長寛元(1163) 貞和4(1348)	黒有形 (石柱塔婆)	24-40	11 E-8
139	飯田地蔵堂五輪塔群	北宇佐	戦国～近世初期	水田中の小堂横に石塔部材が置かれている。				11 E-8
140	北宇佐集落墓地 石塔群	北宇佐	戦国～近世初期	墓地中に石塔部材が散在する。				11 F-8
141	永福寺石塔群	北宇佐	南北朝～近世初期	歴代住職墓地や境内墓地の下に石塔部材が散見される。無縫塔の個体数は中台のみである。				11 F-8
142	光隆寺跡石塔群	北宇佐	戦国	円通寺の末寺である北宇佐の光隆寺の故地であり、ここから石塔群が円通寺に移設されたと伝えられている。石塔群の中には天正9年銘をもつ完存の無縫塔や永禄10年銘をもつ完存の宝篋印塔がみられる。	天正9(1581) 永禄10(1567)		11	11 F-8
143	北宇佐石塔群	北宇佐	戦国～近世初期	道路の横に石塔が集められている。中でも板碑は2基とも自然石板碑であり、内1基には紀年銘がみられる。	寛永6 (1629)			11 F-8
144	瑞泉寺五輪塔	北宇佐	南北朝	境内に1基の五輪塔が存在する。入学氏の調査では2基確認されているが、現在は1基のみである。			11	11 F-8
145	今官家墓地五輪塔群	南宇佐	南北朝～戦国	近世墓地中に石塔部材が散在する。中には南北朝期に遡る五輪塔空風輪がみられる。				11 F-8
146	北宇佐集落墓地 五輪塔群	北宇佐	戦国	近世墓地中に石塔部材が散見できる。				11 F-8
147	北宇佐集落墓地 五輪塔群	北宇佐	戦国	近世墓地中に石塔部材が散見できる。				11 F-7
148	西光禅寺石塔群	北宇佐	戦国～近世初期	境内に石塔部材が散在する。石幢は龕部のみである。				11 F-7
149	成久橋南五輪塔群	南宇佐	戦国	近世の石碑群とともに五輪塔部材が置かれている。				11 F-8
150	下拜田集落北墓地 五輪塔群	下拜田	戦国	整理され並べられた近世墓地中に石塔部材がみられる。				11 H-6
151	下拜田集落南墓地 五輪塔群	下拜田	戦国	整理され並べられた近世墓地の山側に山石に混じり石塔部材がみられる。				11 H-6
152	田口家墓地石塔群	下拜田	室町	墓地内に石塔部材が別々に置かれている。室町期のものと考えられる宝塔の部材は笠・塔身・相輪からなるが、一具のものであろう。				11 H-6
153	長興寺墓地石塔群	下矢部	南北朝～近世初期	墓地最下段に石塔部材が組まれてコの字状に配置されている。奥の五輪塔3基のうち中央と右のものは組み合わせもよく南北朝期に遡るものであろう。宝塔塔身のひとつには紀年銘がみられる。無縫塔の数は部材数である。	文安4 (1447)		11・20	11 H-7
154	上矢部集落墓地 五輪塔群	上矢部	戦国	累代墓化された近世墓地中に石塔部材が散見できる。				11 H-8
155	加堂観音堂石塔群	長洲	戦国～近世初期	小堂の堂内外に石塔部材がみられる。中でも、堂内には石幢の龕部のみが7点安置されている。これらは他所から集められたとされている。				12 B-1
156	観音堂石塔群	金屋	戦国	観音堂横のコンクリートで囲まれた一角に石塔群がならべられているが、他所から移設されたものである。			20	12 C-1
157	松崎神社板碑	松崎	戦国	社殿の横に紀年銘のみられる自然石板碑が1基みられる。	天文10 (1541)		11	12 C-2
158	乙松神社石塔群	姥木	戦国	境内の一角にコンクリートが貼られ、近世の庚申塔とともに石塔部材が集められている。				12 D-2
159	和気集落墓地 五輪塔群	和気	戦国	集落墓地の六地藏がある場所に五輪塔部材が置かれている。				12 E-2
160	南宇佐集落墓地 石塔群	南宇佐	戦国～近世初期	広大な集落墓地中の稲荷社の中に一石五輪塔があるほか、墓地内に石塔部材が散見される。				12 F-1
161	円通寺裏山石塔群	南宇佐	鎌倉～戦国	円通寺裏山の墓地中に中世の石塔群がみられる。中でも元応2年銘をもつ宝塔塔身は大型で銘文も刻まれている。なおこれと一具であったと思われる相輪もみられる。また、天正9年銘をもつ自然石板碑もみられる。	元応2(1320) 天正9(1581)			12 F-1
162	円通寺石塔群	南宇佐	室町～戦国	山門脇や歴代住職墓地に石塔がみられる。特に、円通寺の末寺である北宇佐の光隆寺から移設されたと伝えられる石塔群の中には天正9年銘をもつ完存の無縫塔や永禄10年銘をもつ完存の宝篋印塔がみられる。石幢は他所から持ち込まれた完存品1点と龕部のみ1点である。	天正9(1581) 永禄10(1567)		11	12 F-1
163	宇佐祖霊社下墓地 石塔群	南宇佐	南北朝～戦国	整理されている宇佐神宮の神職の墓地中に石塔部材が散見される。無縫塔は基礎・墓壇のみである。五輪塔空風輪及び宝塔相輪は南北朝期に遡るものである。				12 F-1
164	護国寺跡石塔群	南宇佐	南北朝～戦国	護国寺跡と伝えられる民家の一角に石塔部材が組まれている。				12 F-1
165	到津家墓地板碑	南宇佐	近世初頭	墓地の端に紀年銘をもつ小型の板碑がみられる。	元和7 (1621)		20・36	12 F-1
166	大梁寺石幢と 周辺石塔群	南宇佐	南北朝～戦国	大梁寺境内に紀年銘をもつ市有形の石幢のほか、石塔部材が散見される。特に、境内裏の丘陵裾に存在する2基の大型の五輪塔水輪は南北朝期に遡る優品である。	天正2 (1574)	市有形 (石幢)	11	12 F-1
167	南宇佐集落墓地 石塔群	南宇佐	南北朝～戦国	近世墓地中に石塔が組まれている箇所や、集積されている箇所がみられる。五輪塔を主体にするが、中には一石五輪塔や宝塔の部材もみられる。重ねられているためその実数は把握しづらいが、総数100基をはるかに超える石塔群である。				12 F-1
168	日足集落墓地石塔群	日足	南北朝～近世初期	墓地中の各所に石塔部材が認められる。特に、最下段には大型の国東塔の塔身と請花が重ねられているが、塔身に奉納孔が穿たれている。				12 F-2
169	真上家墓地板碑群	南宇佐	戦国～近世初期	宇佐神宮社僧の近世墓地中に板碑及び自然石板碑が存在する。板碑の1基に慶長銘が、また、自然石板碑に天正銘がみられる。	天正4(1576) 慶長12(1607)		11・36	12 G-1
170	南宇佐集落墓地 石塔群	南宇佐	戦国～近世初期	山中の尾根上に塚や集石遺構が累々と築かれており、その周辺や墓地中に大量にみられる。近世墓や累代墓の造営で片付けられており、正確な実数はこの数倍にのぼるものであろう。				12 G-1
171	日足小堂板碑	日足	戦国	小堂内に地藏陽刻板碑が1基安置されている。				12 G-2
172	地藏院石仏	日足	室町	境内の小堂に丸彫りの阿彌陀如来が安置されている。				12 G-2
173	大雄寺墓地石塔群	橋津	戦国	大雄寺裏の墓地に石塔部材が散見できる。石幢は龕部のみ、重制無縫塔は塔身のみがみられる。				12 F-2
174	岡崎家横五輪塔	岩崎	戦国	近世以降の石仏が溜屋の中に納められているが、その中に五輪塔水輪が1点みられる。				12 F-3
175	洞昌寺石塔群	岩崎	室町～戦国	本堂横の石仏部中や境内各所、歴代住職墓地などに石塔部材が散在する。				12 F-3
176	坂本観音堂石塔群	出光 坂本	戦国～近世初期	観音堂横に川原石が積まれているが、その中に石塔部材がみられる。				12 F-3

塔形及び個体数																																														
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形																								
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇																													
	22	11	23	4									2																																	
1																																														
		1	3																																					笠塔婆1						
	2	1	4																																				1							
		2																																						笠塔婆1						
	3	3	5	2																																				石柱塔婆						
	1	1	3	1																																										
	2	2	3	1										1																																
	29	8	28	1									3	2	2	1																								1	3					
	2	3	1																																											
1																																														
	1	1	2	1																																										
	1	3	2	2																																						1				
	1		1																																											
	2	5	10	2				2																																	1					
	1		2																																											
	2	2	2																																											
	3	2	4	1																																										
	1													1	1	1																														
2	7	6	17	8			5	2					3	10	8	7																								8						
	1																																								1					
	4	6	3																																						1	7				
	1	1																																							笠塔婆2					
																																									1					
	11	2																																												
		1	3	1																																										
	4	7	10																																						1					
	7	3	6	3										2	1	1																								2						
	2	4	10	1	1		1							1	2	1																								1	2	2	2			
1	4	6	4											1																											1					
	1	4	2	3										1	1																										1					
	8	5	12	1																																						2				
	5	3	8	4																																						1	5	1		
																																											3		自然石板碑1	
	28	41	40	11										1	14	7	1																									1	5			
																																												1		
																																														石仏1
	2	2	2																																									1	1	
			1																																											
	9	11	9	2											3	2																													3	
	3	2	2													1																														

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
177	岩根家石塔群	出光 坂本	戦国	庭先に相輪のかわりに五輪塔空風輪が載せられている完存の宝篋印塔がみられる。			20	12 F-3
178	出光家墓地横石塔群	出光 坂本	戦国	完存の宝篋印塔を中心に周辺に石塔部材を組んでいる。宝篋印塔は塔身が後補である。				12 F-3
179	仲月庵墓地石塔群	刈生田	戦国	整理され、コンクリートが貼られた墓地に石塔の部材が置かれている。無縫塔は基礎のみである。				12 E-3
180	青森五輪塔群	青森	戦国	道路の角に大木が生えた径5m、高さ1.5mの塚があり、その上に石塔部材が置かれている。				12 D-3
181	友岡家墓地石塔群	刈生田	戦国	墓地入口の六地藏周辺に集中的に集められているほか墓地中に部材が散在する。				12 E-3
182	鳥家墓地五輪塔群	西木	戦国	墓地中に五輪塔の部材が組まれている。本来の組合せではなく、寄せ集められたものであろう。				12 E-3
183	安部家墓地五輪塔群	山	戦国	近世墓碑が並べられている墓地中の一角に、五輪塔火輪が置かれている。				12 F-3
184	山集落墓地石塔群	山	戦国	集落墓地入口の六地藏裏に石塔部材が置かれている。				12 F-3
185	両戒石塔群	両戒	戦国	丘陵斜面に1~4mの山石が集められている一帯に石塔群がみられる。かつて、周辺に存在していたゴルフ場の造成に際して移動させられたものと考えられる。無縫塔は塔身・中台・基壇が1点ずつみられるが同一個体の部材の確認は得られない。			27	12 F-4
186	福昌寺石塔群	両戒	戦国	福昌寺本堂横にコンクリートで固められた一角に石塔部材が組まれている。笠塔婆は塔身のみであり、無縫塔は中台と竿が1点ずつみられる。				12 F-4
187	吉水神社石塔群	両戒	戦国	吉水神社参道入口の狭い平地やその周辺、さらに10mほど下った場所に組まれたり、部材が散在している石塔群がみられる。埋もれている部材も多いものと考えられる。国東塔は基礎のみが存在する。			27	12 F-4
188	安藤家墓地石塔群	立石	戦国	集石墓群からなる墓地中に石塔部材がみられる。墓地景観としては旧態をきわめてよくとどめているが、石塔部材は散在し、本来の形態をとどめていない。				12 E-4
189	後山金剛寺石塔群	両戒	鎌倉~戦国	薬師堂の岩屋に2基の宝篋印塔があり、薬師堂に至る手前の岩陰に15基の室町期の小型の板碑が並べられている。また、講堂跡と想定できる平地の段上に国東塔塔身の残欠と基壇が残されている。			18	12 G-4
190	今山家一石五輪塔群	江熊	戦国~近世初期	屋敷地の一角に巨木があり、その根元に礎が集積されている。その上に一石五輪塔が2基並べられている。				12 G-4
191	金丸宝篋印塔と周辺石塔群	金丸	戦国	観音堂境内に紀年銘をもつ具足形の宝篋印塔と石塔部材が散在する。宝篋印塔は笠段型や基礎の四周に刻銘がみられる特徴をもつ。笠塔婆は笠が失われている。	明応2 (1493)	県有形 (宝篋印塔)	11	12 G-3
192	大徳寺旧墓地石塔群	金丸	室町~近世初期	丘陵背後の緩斜面の竹藪内に平坦地を造成し、石塔を3列に並べている。完存の宝塔は戦国~近世初期のものである。板碑に「妙本」の刻銘がみえるものあり。			11・20	12 G-3
193	岩本家墓地国東塔と周辺石塔群	西屋敷	室町~戦国	丘陵裾に存在する近世の集石墓からなる墓地に市有形の国東塔と宝塔がみられる。各部材は入れ替わっている可能性も残るが、完存の優品である。宝塔の基礎は段型をもつ特徴がみられる。		市有形 (国東塔)	20	12 H-4
194	松山家前五輪塔群	西屋敷	戦国	車道横の畑に五輪塔部材が集積されている。				12 H-4
195	華蔵寺石塔群	西屋敷	南北朝~戦国	本堂裏の斜面にコンクリートの段をつくり、石塔部材を並べている。宝篋印塔部材は組み合わされていないが、完存2基分の部材である。板碑は南北朝期の優品である。			20	12 H-5
196	千歳丸家裏山石塔群	木内	戦国	屋敷地から八幡神社に向かう山道横の近世墓地に石塔部材が散在する。				18 A-4
197	妙楽寺板碑と周辺石塔群	木内	鎌倉~戦国	境内に県有形の貞和2年銘をもつ2基の板碑が覆屋の中に納められており、その周辺に石塔部材が散在する。	貞和2 (1346)	県有形 (板碑)	36	18 A-4
198	中石塔群	中	戦国	堂跡に近世の石造物があり、その中に石塔部材もみられる。				18 A-3
199	山袋板碑群	山袋	室町	宝山寺横の山道を登り、丘陵斜面に石殿があり、そこに3基の板碑残欠が建てられている。				18 B-3
200	国香堂板碑	麻生	鎌倉~南北朝	国香堂前の岩に立てかけられているが、3点に折損している。他所から持ち込まれたものであろう。			20	18 B-3
201	禅源寺石塔群	麻生	室町~戦国	20cm程度の平たい川原石を10×10mの範囲に敷き詰め、上に石塔を並べているが、麻生一族の供養塔と伝えられている。組合せは本来のものではなく、後世、組み合わされたと考えられる。				18 B-2
202	山口家石塔群	山口	南北朝~戦国	山口家の庭に相輪上半を欠く完存の宝塔（正安3年銘）が1基みられる。また、裏の小堂の横に総高145cmを測る板碑がみられる。この板碑には正安元年銘があったとされるが、現在では判読できない。このほかにも石塔部材がみられる。	正安元(1299) 正安3(1301)	市有形 (宝塔・ 板碑)	11	18 C-1
203	庄部観音堂板碑と周辺石塔群	麻生 庄部	南北朝~戦国	観音堂の敷地にコンクリートを打設しており、石塔を並べられている。2基の板碑には紀年銘があったとされるが、現在では判読できない。永徳年銘の板碑の側面に「力(地蔵)」の梵字種子が左右面に刻まれている特異なものである。	応安6(1373) 永徳3(1383)	市有形 (板碑)	11・36	18 C-2
204	落合自然石板碑	麻生 落合	鎌倉~南北朝	丘陵と水田に挟まれた細い道の横にある総高170cmの自然石板碑である。額をつくり碑面上方にキリク、その下方左に力の梵字種子を墨研彫りしている。			20	18 C-2
205	山口石塔群	山口	戦国	小堂横に石塔部材を集積している。石幢は笠より上を欠き、笠と籠部が一石でつくられ、8面に対面に2体の十王、他の面に六地藏を刻んでいる。				18 D-1
206	山神社石塔群	山口	戦国	山神社の社殿の裏に板碑と五輪塔部材が置かれている。板碑には「天正」年銘があったとされているが、現在は判読できない。			11	18 D-1
207	山袋板碑群	山袋	南北朝	水田と川に挟まれた畔の石垣に2基の板碑が立てかけられている。1基は総高115cmを測り、他の1基は逆さに置かれている。同規模であり、双碑であったと考えられる。			20	18 B-3
208	龍華寺石塔群	山袋	室町~戦国	歴代住職墓地の無縫塔群中に開山塔としての室町期の宝塔が完存でみられる。このほかに歴代住職墓地や境内入口に五輪塔部材がみられる。				18 B-3
209	八幡神社角柱塔婆	山袋	戦国	社殿前の石の祠の中心と社殿横の石祠群の前に置かれている角柱塔婆2基である。いずれも高さが低く、2条線も弱い。			20	18 B-3
210	矢野家墓地宝塔	麻生	戦国	泉代墓の横に単独で立つ。後補と思える空風輪のほかは完存であり、塔身に地藏を陽刻し、両側に銘文を刻んでいる。	弘治3 (1557)		11	18 D-2
211	宝陀寺墓地五輪塔群	麻生	戦国	歴代住職墓地の裏に単に埋もれて五輪塔部材が散在する。総数は右記の数より多いものと思える。				18 E-1
212	瀬集落墓地石塔群	瀬	戦国	小高い丘の上にある集落墓地中に石塔部材が集積されたり、散在したりしている。				18 F-2
213	河野家墓地板碑	麻生	戦国~近世初期	近世墓地中に板碑が並べられている。総高96cmを測り、碑身に地藏を浮き彫りしている。				18 E-3
214	鷹栖観音石塔群	山本	南北朝~近世初期	石段下に石塔群があり、石段の中段に板碑と笠塔婆、さらに紀年銘をもつ宝塔がみられる。	明暦3 (1657)		20	18 A-5
215	観音寺石塔群	上拜田	戦国	境内に石造物が散在する。中でも地藏陽刻板碑には紀年銘がみられる。	天正2 (1574)		11・36	18 A-5
216	上拜田集落墓地石塔群	上拜田	戦国	整理され並べられている近世墓地中に石塔部材がみられる。				18 A-6
217	上拜田西石塔群	上拜田	南北朝~戦国	本来は前面の水田畦に立っていたと伝えられるが、圃場整備に際して、現在地に移されたと考えられている。角柱塔婆は南北朝期の良品で梵字種子をあらわしたと考えられる墨書が確認できる。また、宝篋印塔も戦国期の完存品である。			20	18 B-6
218	上拜田東石塔群	上拜田	戦国	コンクリートで固められた一角の中央に地藏を祀る石祠があり、その周辺に石塔部材が集められている。				18 B-6
219	下矢部集落墓地	下矢部	戦国~近世初期	墓地中に山石が散在する中に石塔部材がみられる。				18 A-8
220	矢部家墓地石塔群	上矢部	戦国~近世初期	近世墓地中に石塔部材が散見できる。				18 A-8

塔形及び個体数																							
五輪塔					宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身								
	1				1																		
	11	6	7	4	1									1					1				
		1	1																1	1			
	5	2	2	1															1				
	12	5	8	6		1	1						1						1				
	1	1		1																			
		2																					
			2						1										1				
	7	7	8											2	1				1	3			
	7	1	4	2										4	2				3	2			
	28	54	45	39										2	4			1	1	3			
	1	3		1																			
					2													1	15				
																			2				
	1	3		2	1														1				
	24	14	21	15							2			7	1				2	1			
											1							1					
	3	6	10	1																			
	7	8	8	3		2	2	1											2	2			
		2																					
	7	5	10	1			1													2			
	2	2	2	1																			
																			3				
																			1				
	52	50	47	26		1	4		1						3				2				
		2	1								1								1				
	3	12	13	10															2				
																			1				
	5	5	6	3																1			
			1																1	1			
																			2				
																			2				
	2	2									1												
																				2			
	1										1												
	1	7	6	2																			
	3	4		1											2								
																			1				
	20	23	26	25			1				1		4	3	1				2	1			
		1	2																2				
	1														1								
					1															1			
	7	8	13	14				1															
	1	3	8	3											1				4				
	4	2	3	6								2	2	4	1				1				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
221	釈迦堂石塔群	上矢部	戦国	小堂横に石塔部材が整理され、組まれているが、本来の組み合わせではない。				18 A-8
222	上矢部集落墓地五輪塔群	上矢部	戦国	累代墓化された近世墓地中に石塔部材が散見できる。				18 A-8
223	妙見山法真寺前石塔群	院内町 香下	戦国～近世初頭	妙見山法真寺右手前にあり、地藏等とともに建つ。凝灰岩製の宝塔の塔身の上に石幢、五輪塔の部材を重ねている。石幢の笠は六角で、表に稜線を彫り出す。				18 C-6
224	満下石幢と周辺石塔群	院内町 香下 満下	室町	満下集落に建ち、現在も祀りが行われている。円形の竿・基礎の上に龕部を乗せる。笠・基礎は五輪塔残欠とともに脇に置かれている。			7-15	18 C-6
225	安倍家墓地石塔群	院内町 新洞 明角	戦国～近世初頭	新洞公民館前の安倍氏宅横に近世墓とともに建つ。				18 C-6
226	蓮華寺跡石塔群	院内町 小坂 寺ノ脇	室町	旧蓮華寺境内で石塔が散見できる。				18 D-6
227	蓮華寺跡五輪塔と周辺石塔群	院内町 小坂 寺ノ脇	南北朝～室町	旧蓮華寺横の田中家墓地にある。蓮華寺は真言宗の古刹で、いくつかの坊もあつたという。1基は鼎有形で、四方門の種子が彫られ、地輪に「宇佐宮御 兼當 神位 元徳三年辛未月」の銘がある。	元徳3 (1331)	県有形 (五輪塔)	7-15	18 D-6
228	住吉社石塔群	院内町 小坂 寺ノ脇	南北朝～室町	旧蓮華寺に隣接する住吉神社の参道脇と堂付近くに宝篋印塔が建ち、本殿左前に祠とともに五輪塔がある。参道脇の宝篋印塔は基壇に反花をもち、塔身には金剛界四仏の種子を彫る。隅飾突起はやや外側に傾き、月輪の中に種子の墨書跡がある。			7-15	18 D-6
229	北山五輪塔	院内町 北山 中前	戦国～近世初頭	北山の水神社から100mほど登った道沿いに置かれる。空風輪と地輪は欠損している。				18 C-7
230	内畑宝篋印塔	院内町 香下 飯田	戦国～近世初頭	川津氏宅の角に建つ。自然石の上に、角柱、笠、空風輪を置く。				18 D-6
231	石造線彫不動明王立像	院内町 小坂 山畑	室町	小坂集落から井出ノ原へ向かう道の右崖際にお堂があり、そこに安置され、古不動として地元民の信仰の対象となっている。高さ104cm、幅48cm、厚さ20cmの凝灰岩に不動明王立像が線彫りされている。		県有形 (高崖仏)	7-15	18 D-7
232	安部家横五輪塔	院内町 小坂 山畑	戦国～近世初頭	小坂集落から新洞へ向かう道沿いに集められた石塔類である。				18 D-6
233	杉園家墓地五輪塔群	院内町 櫛野 蔵園	戦国～近世初頭	櫛野の恵良川沿いの道端にある杉園家墓地の中に五輪塔の部材が散見できる。				18 E-6
234	麻川宗家墓地石塔群	院内町 上船木 小路	室町～近世初頭	麻川宗家墓の周囲に多数の石塔類が集められ山積みされている。集合墓を造つた際に集められたものようだ。				18 F-3
235	上船木公民館石塔群	院内町 上船木 小路	戦国	上船木公民館脇に積み重ねられた3基の石塔がある。五輪塔や宝塔の部材で構成される。				18 F-3
236	江藤家五輪塔群	院内町 上船木 弓場	戦国～近世初頭	公民館下の江藤家裏庭に石祠とともに建つ。				18 F-3
237	塔ノ原宝塔と周辺石塔群	院内町 下船木 早田	室町	早田の池端に五輪塔とともに建つ。塔身に「奉造立石塔一基」とある。総高130cm、相輪を欠き、宝珠を乗せる。		市有形 (宝塔)	7-15	18 F-4
238	龍翔寺石塔群	院内町 下船木 仏重ノ上	戦国～近世初頭	龍翔寺境内、法蓮法器塚(宇佐市登録史跡) 横の木のもとに宝篋印塔と五輪塔の部材が転がっている。			15	18 F-5
239	石川家墓地一石五輪塔	院内町 高並 打上り	戦国	高並の旧道沿いにある石川家墓地に板碑、自然石とともに祀られている。35cmほどの一石五輪塔が2基。				18 E-5
240	御沓橋横五輪塔	院内町 御沓 前田	戦国～近世初頭	御沓橋のたもと田の端に近世墓、地藏とともに五輪塔火輪が2基置かれている。				18 F-6
241	岩本家石造宝塔と周辺五輪塔	院内町 小稲 岩本	南北朝	岩本家横の県道門座中津線沿いの傾斜地に建つ。総高169cm。相輪の上半を欠くほかは完形。基礎の四面に「ア」を、塔身四面には「パン」を葉研彫りする。笠は照り屋根で上に盞蓋を作る。		市有形 (宝塔)	7-15	18 G-4
242	小稲戦没者墓地公園石塔群	院内町 小稲 田中ノ上	南北朝～近世初頭	戦没者墓地の上に多数の石塔類が並べて置かれている。宝塔、五輪塔、無縫塔、板碑、石幢の部材が確認できる。				18 G-4
243	山ノ下五輪塔群	院内町 下船木 山ノ下	南北朝～戦国	下船木宮ノ下から上船木に向かう道の左手山中に建つ。				18 F-4
244	福蔵寺石塔群	院内町 二日市 垣黒	室町～戦国	福蔵寺羅漢橋を渡つた所にある市史跡間廣洞の右手前に建つ。高さは1mほどで、相輪は横に置かれている。その他に宝篋印塔、五輪塔がある。				18 F-6
245	例泉寺五輪塔	院内町 二日市 屋敷	戦国～近世初頭	例泉寺境内に五輪塔の部材が確認できた。				18 F-6
246	阿弥陀堂石塔群	院内町 小野川内 中畑	室町～戦国	小野川内集落の中ほどにある阿弥陀堂横に石塔類が集められている。付近の道路拡幅の際に出土したようだ。「應永卅五年」銘の板碑がある。	應永35 (1428)		7-15 36	18 G-3
247	佐藤家板碑	院内町 上船木 年重庵	戦国～近世初頭	上船木から小稲に向かう道の左の田畑にある岩の前に建つ。				18 G-4
248	吉祥寺石造異形国東塔と周辺石塔群	院内町 大重見 前田	室町～近世初頭	大重見の吉祥寺の本堂に向かって左手、一字一石塔の後ろにある。市指定ではあるが、全体としてバランスを欠いており、五輪塔等他部材の組み合わせの可能性もある。		市有形 (国東塔)	7-15	18 H-4
249	大重見五輪塔	院内町 大重見 射場ノ本	戦国～近世初頭	大重見から小稲に向かう道の右側崖上に礎で組んだ基壇の上に置かれる。石祠と並んでいる。				18 H-4
250	小稲五輪塔群	院内町 小稲	戦国～近世初頭	大重見から小稲に向かう道の左側に2基の五輪塔が置かれている。				18 H-4
251	小稲宝塔	院内町 小稲	室町	大重見から小稲に向かう道の右側に2基の宝塔が並んで置かれている。ともに相輪以上を欠く。				18 H-4
252	寛正寺支坊石幢と周辺石塔群	院内町 副 町	戦国	副の国道沿い寛正寺支坊にある。総高215cmの完形。竿に「大永二年 九月吉日歌白」「念仏講人数次第」「副大和守」の銘がある。	大永2 (1522)	県有形 (石幢)	7-15	18 G-5
253	副墓地石塔群	院内町 副 別府	戦国～近世初頭	副の別府にある墓地隅に宝塔及び五輪塔の部材が集められている。			7-15	18 H-5
254	殿屋敷の堂石塔群	院内町 副 殿ヤシキ	戦国	空善寺観音堂横に石塔群が並べられる。宝塔、五輪塔、宝篋印塔及び石幢の部材がある。				18 H-5
255	副神社板碑	院内町 副 市の東	室町	総高120cm、幅45cmで院内町では最大の板碑である。現在は副神社本殿裏に建つが、大正時代には国道沿いにあった。			7-15	18 G-6
256	日岳中尾石塔群	院内町 日岳 中尾	戦国～近世初頭	日岳の神社はしから30mほど上つた右手にある階段の先に堂宇があり、その向かって左に石塔群が広がる。石塔群は地藏を中心に置き、周りに五輪塔、板碑等を並べる。				18 H-2
257	大弓家墓地石造宝塔群	院内町 大重見 屋敷	室町	大重見集落に入つてすぐ南の川を渡つた山際にある。碑と石祠とともに一石五輪塔が建つ。そこから一段上がった先に4基の宝塔が並ぶ。いずれも二段の基礎のうえに塔身、笠、相輪、宝珠を置く。総高105～140cm程度。			7-15	18 H-4
258	上副神社前宝篋印塔	院内町 副 宮坂	戦国	上副神社の参道の左手前に置かれた石塔。五輪塔水輪上に宝篋印塔の笠を重ねる。				18 H-5
259	副氏石造宝塔	院内町 副	戦国	上副の墓地にあったものを副城跡公園内の主郭部に移設している。宝塔は2基あり、1つは副但馬守の墓で、弘治2年銘。もう1つは副宗燈居士の墓で天正9年銘をもつ。	弘治2(1556) 天正9(1581)	市有形 (宝塔)	7-15	18 H-5
260	下市唐崖仏	安心院町 下市	鎌倉	柱状節理気味の凝灰岩崖面の南東部に遊離した崖があり、如来坐像が二箇所ある。東崖面には半肉彫りの聖観音坐像・阿弥陀立像・業師立像が彫られている。左右には半肉彫りの天部形立像・不動明王坐像があり、その左に「十一月一日□立」の刻字、字の下方に線彫りの制多迦童子立像、半肉彫りの阿弥陀立像がある。		県史跡		18 F-7
261	三女神社石塔群	安心院町 下市	近世初期	南面の神社本殿の西に寛永21年、東に正保3年の燈籠。塔身から上は六角、下は八角。蓮華文は当地の初期に属し精緻。境内東部の一面に石幢龕部がある。	寛永21(1644) 正保3(1646)			18 F-7
262	最明寺五輪塔群	安心院町 下毛 最明寺	鎌倉～戦国	県指定の凝灰岩製には全ての輪に梵字刻字があり、水輪に刻字「正元々年己未□五月二日」がある。これは伝二階堂・入道堂。高さ116cm。	正元元 (1259)	県有形 (五輪塔)		18 G-7
263	水沼社石塔群	安心院町 木裳	戦国	境内の北東・東部縁辺によそから移動した状態で組み立てられた安山岩製の五輪塔群や単体の宝塔部材・板碑がある。				18 F-8
264	栗ノ木唐崖仏	安心院町 飯田	室町	崖から突き出た凝灰岩の塊の南面を窪ませ、内部に仏像坐像を半肉彫りし内部全体を彩色。現状は岩塊が割れ前部が下がる。				18 F-8

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇					
	15	19	20	25									6	3	1							
		2	4																	3		
			1											1							1	
	6	6	13	6																	2	
	1	5	4	1																	1	
	4	10	4	3																		
1	72	24	55	11								4		4	4	4						
	5	16	6	4	1		2	1	2		1									3	2	
		2	1																			
						1	1	1														
																					線彫磨崖仏1	
	2	1	2																			
	1	2	4	1																		
	16	30	53	21		1	1	1				3		1					1		1	
		1	1	8								1		1		1					1	
	4	5	6	3																		
	1		1	1							1											
		7	4	4			1															
																				2		
		2																				
		1	1								1											
	25	32	32	34								2		2	3				1		5	
	2	5	2	2																	1	
	1	3	1	1			1		1		1											
			1	1																		
	5	12	16	11															5			
																			1			
	1	6	10	8			3	1	2			2		1	1							
	1	1	1																			
	2	2	1	2																		
													2	2	2							
												1		2		1					1	
	5	11	18	12								4			1							
	27	38	46	47		6	2							2	1						1	
																			1			
	6	4	2	4								1							1			
		1										4								1		
			1				1															
											2											
																					磨崖仏	
																					1	
																					燈籠2	
3	1	1	1																			
	23	16	15	13								2		3								
																					磨崖仏	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
265	広長寺異形宝篋印塔	安心院町 新原 広長寺	戦国	寺東側斜面の墓地。正面は細い刻字、裏面は後世磨かれ「慶長元年四月二十九日 逝俗名新聞弥三郎廣宗」の太い刻字。	慶長元 (1596)			18 F-8
266	教徳寺五輪塔群	安心院町 新原	戦国	山蔵にあつたのが寄贈されたもの。本堂裏の斜面に並ぶ。				18 F-8
267	久宝寺廃寺石塔群	安心院町 久井田	戦国	久宝寺跡と伝えられている。天満宮の北隅に一列に並ぶ。高さ59cmの一石五輪の火・水・地輪は水平断面が隅丸四角。				18 F-8
268	正建寺墓地石塔群	安心院町 折敷田	戦国	本堂の西に墓地があり、安山岩の石塔部材が二箇所に集められている。				18 G-7
269	貴船宮五輪塔	安心院町 折敷田	戦国	神社の西側空間に石祠群・燈籠群がある間に五輪塔（空風輪は安山岩。水輪は凝灰岩）部材が重なる。				18 G-7
270	中荘墓地石塔群	安心院町 中荘	戦国	道路際の近世・現代墓地の隅に安山岩製石塔部材が転がったり、組み合わせたりしている。				18 G-8
271	永照寺石塔群	安心院町 荘	戦国	小堂に向かい右前に石幢笠を逆さにし塔身に載せ手洗鉢にしたものがある。寺の南西部に墓地があり、宝篋印塔身と五輪塔笠を組み合わせたものがある。				18 G-8
272	中荘東墓地石塔群	安心院町 中荘	戦国～近世初期	耕作地の一角に一直線に並んだ近世墓群が二つあり、両端に石塔群が並べられている。すべて本来の位置を離れているように思われる。				18 G-8
273	中荘梵字五輪塔	安心院町 中荘	戦国	圃場整備済の水田畦に五輪塔水輪が重ねられており、大きいのは大きい二重線の梵字、小さいのは小型の梵字がある。どちらも安山岩製。				18 G-8
274	荘板碑群と周辺石塔群	安心院町 荘	南北朝～戦国	津房川左岸の土手道の北側に小堂があり、西側三角形空間の東辺に板碑4基が並び、他辺に移動して来たような五輪塔群・石塔部材集積がある。		市有形(板碑)		18 G-8
275	大仏公民館石塔群	安心院町 大仏	戦国	公民館の東側に集められたもので、安心院町では最大の数量ですべて安山岩製。宝篋印塔基礎には蓮華文が刻まれている。石幢は籠部のみである。				18 G-7
276	安心院千代松丸碑石塔群	安心院町 上市	戦国	寛文9年に建てられた竜王城主の安心院千代松丸公胤の碑がある空間の北縁に、石塔部材が集められている。地輪には梵字の刻字がある。		市史跡		18 G-7
277	大仏宝塔北側石塔群	安心院町 大仏	戦国	大仏宝塔に北から行く手前の道路際に石塔部材が点在する。				18 H-7
278	大仏石塔群	安心院町 大仏	室町～戦国	天正9年銘をもつ宝塔をはじめ板碑・五輪塔などの石塔群がみられる。	天正9 (1581)			18 H-7
279	西楽寺石塔群	安心院町 妻垣		五輪塔の水輪・宝塔の笠ともに安山岩。				18 G-8
280	妙庵寺古市観音堂石塔群	安心院町 古市	戦国	小堂の南側に道を挟んで五輪塔・宝篋印塔がある。すべて安山岩製。宝篋印塔塔身四面に梵字が刻まれている。				18 H-7
281	恒松公民館石塔群	安心院町 恒松	戦国	公民館広場の西部に一列に並んである。石幢半部は円柱で上部に円内に梵字種子が刻まれている。				18 H-7
282	妻垣稲荷石幢	安心院町 妻垣	戦国	稲荷は見晴らしのよい山の頂上に南向きにあり、石幢笠が向かって右に重ねられている。				18 H-8
283	岩男家墓地五輪塔群	正覚寺	戦国	近世以降の墓地中に五輪塔部材が置かれている。				19 A-1
284	上矢部宝篋印塔	上矢部	戦国	矢部川河畔の水田の畦に相輪を欠く完存の宝篋印塔が単独で立てられている。			20	19 A-1
285	地藏堂石塔群	正覚寺	戦国～近世初期	小堂前に近世以降の石塔群とともに石塔部材が置かれている。				19 A-1
286	白山神社石塔群	正覚寺 台	戦国～近世初期	参道の石段を登りつめた脇に小型の板碑群が置かれ、本殿前の林の中に南北朝～室町期の三重塔をはじめ、戦国期の宝篋印塔、戦国末～近世初期の自然石塔婆群が近接して置かれている。自然石塔婆には銘文もみえる。	天文元(1532) 天正5(1577)		11	19 C-2
287	正覚寺五輪塔群	正覚寺	戦国	道路横の高い水田の畔に組合せが本来のものではない五輪塔と石灯籠が置かれている。				19 C-2
288	御許山石塔群	大元山	戦国～近世初期	奥の院から下る旧参道や陰陽石付近に自然石塔婆や板碑が存在する。自然石塔婆は銘がないものも多く、割石を利用している。紀年名資料は9例みられる。	明応4(1495) ～元和5(1619)		11・36	19 B-3
289	御許山町石	南宇佐 宇佐神宮宝物館	南北朝	宇佐神宮奥宮の御許山山頂にあつたと伝えられているが、町石であるため疑わしい。板碑形を呈している。	貞和6 (1350)	県史資料(町石)		12 F-1
290	勝光寺石塔群	安心院町 熊	戦国～近世初期	寺がある根尾の西斜面に二段の墓地があり、主に上段に石塔がある。宝篋印塔塔身の一つには元禄12年の刻字があり無銘のものも近世のものが多い。				19 C-2
291	大年社板碑群と周辺石塔群	安心院町 山蔵	南北朝～戦国	佐田から山香に抜ける道筋、米神山の南東麓に位置する道の北側に大年社があり、境内の周囲に中世・近世の石塔が並んでいる。うち、県有形指定の板碑のほか石塔部材が存在する。	建武元(1334) 建武元(1334) 寛正4(1463)	県有形(板碑)	36	19 E-3
292	西原寺跡宝塔と周辺石塔群	安心院町 山蔵	南北朝～戦国	堂に木造阿弥陀仏。完存宝塔は南に離れてあり、基礎石から高さ255cm。塔身に奉納孔がみられる。安山岩製。		市有形(宝塔)		19 E-2
293	京石	安心院町 熊	戦国	米神山の山麓に高さ2～3mもある安山岩の巨石群がみられる。うち、1基に「七月一日為道泉禅門逆修世文亀二壬戌年」の銘がみえたとされている。	文亀2 (1502)	市史跡		19 E-2
294	菩提寺跡石塔群	安心院町 且尾	戦国	文亀年銘をもつ羊・籠部が残る石幢をはじめ石塔群がみられる。	文亀元 (1501)			19 E-2
295	京石川石幢	安心院町 佐田	戦国	佐田温泉の北方水田中にある方形石積み中央に六角形の塔身が立つ。				19 E-2
296	且尾板碑と周辺石塔群	安心院町 且尾	南北朝～戦国	個人が菩提寺跡から宅地裏斜面に移設したと伝えられている。紀年銘をもち市有形に指定されている角柱塔婆である。	暦応2 (1339)	市有形(角柱塔婆)	40	19 F-1
297	佐田墓地自然石碑	安心院町 佐田	戦国	上記の東側に倒れ伏している。高さ98cm。追善後刻。	天正17 (1589)			19 F-2
298	佐田社板碑	安心院町 佐田	南北朝	佐田神社境内に3基の板碑と1基の角柱塔婆が並べられている。うち紀年銘をもつ板碑1基と角柱塔婆1基の計2基が県有形に指定されている。	正徳元(1332) 元弘3(1333)	県有形(板碑)	36・40	19 F-2
299	宝積寺址墓碑	安心院町 佐田 佐田小学校北隣	戦国	現在、丘陵斜面の敷に石材が集積されている。				19 F-2
300	三鳥島神社一石五輪塔	安心院町 古川	戦国～近世初期	神社建物の西側にある。高さ50cmの安山岩製で断面は隅丸方形。				19 F-4
301	岳切尾平五輪塔	院内町 定別当 尾平	戦国～近世初頭	岳切尾平の集落入口に近世以降の墓地があり、そこに五輪塔の水輪が1基置かれている。				25 C-8
302	定別当石幢	院内町 定別当 八丁	室町	院内川にかかる八丁橋のたもとに建つ。宝珠・笠・籠部のみ、中台から下を欠く。現在は基礎石の上に置かれ、六地藏として祀られている。像容は肉厚である。				25 C-8
303	岡田の観音堂石塔群	院内町 定別当 岡田	室町～近世初頭	院内川にかかる参道橋たもとにある階段を登った上にある観音堂の周囲に石塔群が置かれている。				25 C-8
304	山城板碑と周辺石塔群	院内町 池田	室町～近世初頭	院内中部小、院内中の西を通る県道バイパス沿いの日野氏宅の周囲3箇所に分かれて置かれている。1つは板碑、1つは五輪塔類、もう1つは宝塔である。		7・15		26 A-5
305	鶴亀堂宝塔	院内町 原口 矢上	室町	下五名から原口にかけての奥道沿い左側山手にある。鶴亀堂の前に宝塔と灯籠が建つ。宝塔は総高54cm。塔身の首部が二段になる特徴をもつ。		7・15		26 A-4
306	上出平板碑群	院内町 原口 矢上	室町～近世初頭	上出平橋を渡った先にある吉野氏墓地の山中に崖窟があり、その左手に総高87cmの地藏菩薩立像を陽刻した板碑がある。その下に種子と比丘形坐像を彫る。窟内にも小型の板碑が3基ある。		7・15		26 A-4
307	教蓮寺六地藏石幢	院内町 原口 西羽下	室町	原口にある教蓮寺の裏庭に建つ。六角石幢で像容は肉厚。中台は一段作り出で、下段にはローソク穴がある。総高160cm。		市有形(石幢)	7・15	26 A-4
308	近藤家石造宝塔	院内町 齊藤 市場	室町	齊藤の近藤家旧宅の裏庭に建つ。相輪上半は欠損しているが総高176cmの宝塔である。塔身に「ハ、バー、ハン、バク」の梵字を彫り、首部には納経のための孔をうかつ。		7・15		26 A-5

塔形及び個体数																									
五輪塔				宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇								
							1	1	1	1															
		4	3	3																					
																						1			
	6	2	9				1	1																	
	1		1																						
	1		1									3	1												
		1						1																1	
	13	9	16	10		9	6	3				15	2												
			2																						
	13	18	17	11		3	1	2	1			1	3	2						6					
	22	43	53	15					1			10	7	1										1	
	4		1	1		1	1	1				2	1												
	2											1													
	9	3	1	3								1									2				
			2									1													
		1	1				1	1					1												
	4	6	2	2				1					1	1										2	
																								3	
	1	1	1																						
					1																				
		5		2								1	2	2						2	3				
					1															29					三重塔1 自然石塔婆4
		3	3	3																					
																				1					自然石板碑8
																									町石1
	3	4	3			1	4	8	6	3		5	3	1										1	
	10	6	18	2								9								5	1				
	1	4	1				1	1	2		1			2	2										
																									自然石塔婆1
																								1	
																								1	
	1	3	2			1	1	1	1														1	1	
																				3			1		
	13		2			6	1																		
																							1		
			1																						
													1											1	
	8	14	15	24																					角宝塔1
	8	13	6	2							1	2	1	1						1				1	
				1									1	1	2	1									
																				4					
																								1	
											1														

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
309	中尾家墓地五輪塔	院内町 齊藤市場	戦国～近世初頭	齊藤市場の山際にある墓地に地蔵と並んで五輪塔が建つ。火・水輪のみ。横には相輪がある。				26 A-5
310	加来家墓地石塔群	院内町 中屋敷	戦国～近世初頭	中尾家墓地の南の山際にある買来家墓地で近世以降の墓に混じり、宝塔、一石五輪塔、五輪塔がみられる。				26 A-5
311	水雲大法寺跡石塔群	院内町 原口	室町～戦国	恵良川にかかる水雲橋を渡った先の山際に、水雲大法寺跡旧公民館の前に五輪塔があり、水路を挟んだ崖際に宝塔や無縫塔が建つ。			12	26 A-5
312	龍岩寺奥の院石塔群	院内町 大門	戦国～近世初頭	竜岩寺奥の院のきざはし下に宝塔が2基並ぶ。宝篋印塔は奥の院に向かって左奥の崖上に地蔵とともに建つ。				26 B-2
313	下道ノ上五輪塔	院内町 大門下道ノ上	戦国～近世初頭	大門の東端、竜門橋付近にある御堂の裏に五輪塔残欠がある。				26 B-2
314	宮原石幢と周辺五輪塔	院内町 宮原榎下	戦国	県道沿いの消防団倉庫付近にある御堂前に建つ。円形の中台上に龕部を乗せる。				26 B-3
315	齊藤石幢	院内町 齊藤丸山	室町	藤神社前の県道を上った右手に建つ。龕部八角で六地蔵と「キリク 南無阿弥陀仏」の文字を2面に彫る。総高190cm、室町時代の作。			11・12	26 B-4
316	岩屋観音堂宝塔と周辺石塔群	院内町 新九郎	室町	萬福寺横の石段を登ったところに岩屋が2カ所あり、左に宝塔と五輪塔が置かれている。宝塔の基礎は一段作り出し、やや下すまりの塔身は首部を二段とする。笠は軒口が二重の照り屋根。石段脇にも五輪塔が並べてある。			11・12	26 B-4
317	佐藤家墓地石塔群	院内町 寒水	戦国～近世初頭	齊藤の高橋バス停の山際にある佐藤家の墓地に集められた五輪塔が並ぶ。				26 B-5
318	大畑家墓地五輪塔	院内町 齊藤ソノミ	戦国～近世初頭	佐藤家墓地の南の山際にある大畑家の裏に建つ。自宅横の畑から掘り出したものを、現地に移したものの。				26 B-5
319	納持宝篋印塔と周辺石塔群	院内町 齊藤袖ノ木	戦国～近世初頭	齊藤集会所の山際の田畦に並べられている。地元では当地に寺があったとの伝承がある。宝篋印塔の隅飾突起は二弧でやや外に開き、月輪がある。				26 B-5
320	小野家墓地五輪塔群	院内町 齊藤ハゲ田	戦国～近世初頭	齊藤から岳切に向かう県道沿い右手にある小野家墓地に五輪塔部材がまとめられている。				26 B-4
321	門脇家横五輪塔群	院内町 齊藤川面	戦国～近世初頭	恵良川にかかる富士見橋の山際の崖下にコンクリートの墓壇の上に五輪塔が並べてある。周囲の田から出たものを集めたものとされている。				26 B-5
322	西光寺跡石塔群	院内町 月俣後藤	室町～戦国	西光寺橋（旧菟森橋）たもとの門脇氏宅角の西光寺跡に建つ御堂周辺に石塔群がある。相輪を欠く宝篋印塔のほか宝塔、板碑、石幢、五輪塔の部材がみられる。			11・12	26 C-2
323	西光寺跡前の石塔群	院内町 月俣後藤	室町～戦国	西光寺跡と道を挟んだ場所に旧菟森橋の親柱とともに、宝塔、五輪塔等が並べられている。				26 C-2
324	徳台寺境内石塔群	院内町 下恵良古城	室町～近世初頭	下恵良の徳台寺の庫裏周辺と裏庭に五輪塔や石幢の龕部等が置かれている。				26 D-3
325	下恵良権現宮五輪塔群	院内町 下恵良権現	戦国～近世初頭	下恵良権現社の社殿後ろに石祠とともに五輪塔が並べられている。				26 D-3
326	西宝寺境内五輪塔群	院内町 下恵良古立	戦国～近世初頭	西宝寺本堂脇の生け垣のなかに五輪塔が置かれている。				26 D-4
327	岩尾家脇堂石塔群	院内町 温見前	室町～戦国	温見の岩尾家裏にある脇堂前に置かれた石塔群。岩尾家宝篋印塔、東光寺跡板碑及び岩下石幢が含まれる。宝篋印塔は塔身を欠き、石幢は中台を欠く。板碑は頭部山形、2条の切り込み下は比丘形坐像を彫る。その他宝塔、五輪塔がみられる。			11・12	26 D-3
328	温見中江石幢	院内町 温見塚埃	室町～戦国	中江バス停前の鶴岡氏宅横に置かれている。基礎、竿、龕部は円形で、中台を欠く。龕部には上下二段で20体の比丘形坐像を彫る。その他五輪塔がみられる。				26 D-3
329	大畑本家墓地石塔群	院内町 齊藤町浦	戦国～近世初頭	藤神社脇の旧道から南の山に入った箇所に大畑本家の墓地があり、そこからさらに沢に沿って上がつていくと石塔の部材が点在する。				26 C-4
330	元永家墓地石塔	院内町 温見尾園	戦国～近世初頭	恵良川の上流を渡って、右手山際の田の中にある集合墓の周囲に宝篋印塔、五輪塔の部材が集められている。				26 C-4
331	宝蓮寺読誦石塔と周辺石塔群	院内町 下余堀切	戦国～近世初頭	宝蓮寺本堂の右手前に建つ市有形の自然石塔婆であり、表に「奉誦法華妙典一千部 當庵開山普公座元 天文十九年庚戌十一月八日」とある。その他宝塔、五輪塔等が参道左手に建つ。	天文19 (1550)	市有形 (自然石塔婆)	11・12 20	26 D-4
332	安倍家裏石塔群	院内町 下余門等	室町～近世初頭	安倍氏宅の裏山中にあり、円礫で4m程の方形基壇を作り、その上に石塔群がある。現状では宝塔、五輪塔の部材が点在する。				26 D-4
333	重見家石塔群	院内町 下余丸田	戦国～近世初頭	重見氏宅の庭にあり、宝塔、五輪塔の部材が認められる。				26 D-4
334	緒方家石塔群	院内町 土岩屋葛西寺	南北朝～室町	上恵良と土岩屋の境にかかる土岩屋橋のそばにある緒方氏宅の前庭に石塔群が並ぶ。市有形の五輪塔及び層塔がある。五輪塔の水輪には種子とともに「元徳四王七 三比丘尼」の銘がある。層塔は五重であるが、初重輪及び相輪を欠く。	元徳4 (1332)	市有形 (五輪塔 (層塔))	11・12 20	26 E-3
335	西椎屋田の中五輪塔群	院内町 西椎屋屋敷	戦国～近世初頭	ハイパスから西椎屋集落に降りてきた右手にある田の中に五輪塔等が集められている。				26 E-2
336	西椎屋墓地五輪塔群	院内町 西椎屋屋敷	戦国～近世初頭	田の中五輪塔群の奥にある集合墓地内にも五輪塔が点在している。				26 E-2
337	大龍寺跡宝篋印塔と周辺石塔群	院内町 西椎屋居屋敷	室町～近世初頭	集会所（大龍寺跡）の前に宝篋印塔が建ち、裏には近世墓とともに五輪塔が置かれている。宝篋印塔は塔身を欠き、上に宝塔の笠を乗せる。				26 E-2
338	西椎屋神社五輪塔	院内町 西椎屋居屋敷	戦国～近世初頭	西椎屋神社参道脇の岩の上に五輪塔が置かれている。				26 E-2
339	来鉢五輪塔群	院内町 来鉢平畑	戦国～近世初頭	来鉢の集会所先の角に墓地がある。そこにある庚申塔の周りに五輪塔の部材が積まれている。				26 E-2
340	滝貞石幢	院内町 滝貞タクミ	戦国	滝貞集落の上流に向かって左手にある衛藤氏宅の庭に建つ。八角形で、龕部には各面3体（上段2体、下段1体）ずつの計24体の比丘像を彫る。竿に「キリク 時永正五戊辰年 十月吉日敬白 本願 久次」の銘がある。総高165cm。	永正5 (1508)	県有形 (石幢)	11・12 20	26 F-5
341	滝貞観音堂五輪塔群	院内町 滝貞タクミ	戦国	滝貞石幢の奥にある観音堂の前に五輪塔が置かれている。				26 F-5
342	滝貞墓地石造宝塔	院内町 滝貞下ノ屋敷	室町	滝貞石幢から北に200m程の場所に墓地があり、入り口左手に建つ。相輪の下半を欠く。総高146cm。				26 F-5
343	和田石幢	院内町 和田ナシノ木	室町	和田集落の北西にある墓地の下、来鉢へ抜ける道の角に、石祠とともに建つ。笠と龕部は六角であるが、中台以下は円形である。			11・12	26 G-2
344	大厳寺石塔群	安心院町 龍王	戦国	本堂に向かい左に六角形石幢、右に五輪塔空風輪・宝塔笠・宝篋印塔身（細い梵字刻字あり）・石幢籠（八角形）とを組み合わせたものが立つ。				26 A-7
345	光勝寺石幢	安心院町 鳥越	戦国	本堂の前に高さ47cm、幅35cmの八角石幢竿（ ）を利用した凝灰岩製手洗鉢。			市有形 (石幢)	26 A-7
346	鳥越公民館五輪塔	安心院町 鳥越	戦国	公民館の東側の道の向こうに安山岩製の五輪塔部材が固まってある。				26 A-7
347	平等寺石塔群	安心院町 中山	戦国	本堂は寺域の北西部にあり、石塔は南部4箇所に分かれており、その中央部には宝篋印塔・層塔が集まる。すべて安山岩製。				26 B-6
348	塔の本宝塔	安心院町 鳥越	南北朝	安山岩製の宝塔である。高さ214cm。図報省略。				26 B-7
349	小野家墓地石塔群	安心院町 野山	戦国	現代墓新設時に一箇所にまとめたもの。五輪塔水輪は一箇所丸く窪めた中に仏像1体を削り出している。				26 B-7
350	聖光寺石塔群	安心院町 大村	戦国	本堂前に五輪塔・六地蔵、段下の水路西に五輪塔・宝篋印塔部材などが残されている。				26 B-7
351	剣星寺層塔と周辺石塔群	安心院町 大	戦国	寺の西入口に三層の層塔、北端に石塔が集積されている。				26 B-7
352	真徳寺石幢	安心院町 舟板	戦国	庭隅に仏像を薄く半円彫りした石幢の龕部が自然石や臼と組み合わせられてある。				26 C-6

塔形及び個体数																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇								
		1	1									1													
	2	3	3	1											2						1				
	9	13	41	19							1	1				1					2				
					1						2														
	2	1	3																						
	1	2																						1	
																								1	
	7	10	8	5							1	1													
		3	6	5											1										
	1	1	1	1																					
				13	2		1	2	1												1				
		2		3																					
	5	8	13	5																					
	8	14	9	10	1						1				1					1				2	
	10	14	8	1											1										
	1	3	6									1												1	
	2	4	3																						
	1	2	2	2																					
	13	11	9	7		1	1		1						1					1					
		3	3	1																				1	
	1	12	17	5			1					1		1	1	1									
		1	1	1			1	1														1			
		3	2	2		1	1	1	1						1										自然石塔婆1
	6		7	2											1										
	2	3	1												1		1	1							
	2	1	2	3											1			1	1						層塔1
	12	9	4	1																				1	
	5	3	4	2																					
	12	16	4	4			1		1	1					1										
		1	2																						
	5	1	5	4																					
																								1	
	2	3	3	3																					
											1														
																								1	
	1							1							1									2	
		1	2																					1	
		1	2																						
	23	45	35	6		5	4	1	4	1		20	1	7	5										層塔宝珠1・笠3・基礎1
											1														
	3		12									1		2	1	1									
	3	3	2			1																		身1	層塔1
	3	2	17	2		1	1					4		5	2										
																									2

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
353	南光寺石塔群	安心院町 松本	戦国	仁王像一対が建物内に安置される寺院で、背後の庭に五輪塔・宝塔・石幢がある。				26 B-8
354	多仏石幢と周辺石塔群	安心院町 釜の口	戦国	小さい尾根の先端部を削り出して平地を造り、市有形の石幢をはじめとした石塔群がみられる。寺院があったらしい。尾根の北東側の谷部にも石塔類が点在する。15世紀後半とされる。		市有形(石幢)		26 D-8
355	水車石塔群	安心院町 水車	戦国	県道脇の山斜面、水路の際、崖を削った場所に移転された状態。				26 E-7
356	上内河野山墓地石塔群	安心院町 上内河野	戦国	尾根の南斜面を二段に造成した場所に石塔部材が散乱する。宝塔身には細い梵字刻字がある。				26 E-7
357	寺の奥古間地墓地石塔群	安心院町 上内河野	戦国	移転されたもの。断面四角、上部が折れた「元亀三年壬申」の刻銘がみえる石塔があるが、後刻であろう。				26 F-7
358	上内河野宝塔群	安心院町 上内河野	戦国	圃場整備済の水田地帯の西縁の農道と川との間に移設されたもの。				26 F-7
359	西福寺東(薬師堂跡)石塔群	安心院町 壘石	戦国	50mくらい東に薬師堂があったが県道工事のため現在地の松本氏宅西側畑に石塔群を移転。3列24基がある。宝篋印塔には刻字がある。				26 F-7
360	西福寺石幢	安心院町 壘石	戦国	六角形六地蔵「掃道浄伏禅門道珍禅門各々靈位妙花善女寿位大永五天乙酉正月念日」の刻字がある。安山岩製、高さ175cm。	大永5(1525)			26 F-7
361	壘石橋西五輪塔群	安心院町 壘石	戦国	80m南東にあったが、圃場整備時に移転されたと伝えられている。				26 F-7
362	明治神社石塔群	安心院町 山ノ口	戦国	本殿の下段隅に集積されている。				26 G-6
363	御筆石塔群	安心院町 楢本御筆	戦国	近世以降の墓地の南西部に二次的に集積されている。				27 A-1
364	羅漢橋南石塔群	安心院町 楢本	戦国	圃場整備地区の一角に島状の高まりがあり、石塔が集積されている。梵字墨書のある地輪、四面の月輪面に仏像が浅く彫られた地輪程度の石塔部材がみられる。				27 A-1
365	楢本磨崖仏と周辺石塔群	安心院町 楢本岡	鎌倉～戦国	柱状節理気味の凝灰岩崖面に二段に半円彫仏像群がある。上段幅1280cm、下段幅1630cm。計45体(42?)「応永三十五年(1428)戊申二月」の墨書銘がある。石塔群は崖下部の岩の上、細長い範囲に置かれている。このほかに石塔群もみられ、元享年銘をもつ宝塔・五輪塔や大永年銘をもつ宝篋印塔も存在する。	応永35(1428) 元享元(1321) 元享元(1321) 大永7(1527)	県史跡	27 A-1	
366	楢本公民館石幢	安心院町 楢本	戦国	公民館の北東側に近世の地蔵2基と並んで六角形の石幢が置かれている。頂上部は別もの。				27 A-1
367	千福宝塔群	安心院町 楢本千福	鎌倉～戦国	二重基壇。上部には層塔の笠2個のり、1個が地上で割れている。塔身円筒形で首高く、宇佐市山口氏宝塔と同じ。首部周囲の環は一段の低い作出し。	元享2(1322)			27 A-1
368	教覚寺掛所五輪塔	安心院町 楢本	戦国	本堂北側の広場に水輪2個が重ねて置かれている。				27 A-1
369	桂昌寺跡宝塔	安心院町 東恵良	戦国	室町中期開基という寺院跡で、文政三年頃掘り抜かれた隧道状の地獄極楽の極楽前方に高さ150cmの宝塔がある。				27 A-2
370	尾立板碑	安心院町 尾立	南北朝	池の中に下部30cmが浸かった幅103cm、高さ165cm、表面中央上部・左右下部に極太の梵字刻字をもつ板碑。		市有形(板碑)		27 B-1
371	正福寺南西五輪塔	安心院町 尾立	戦国	畑の隅に五輪塔部材が積まれている。全て安山岩製。				27 B-1
372	大明神社宝篋印塔	安心院町 塔尾	戦国	上部相輪以上を欠く凝灰岩製宝篋印塔がある。				27 C-3
373	六郎丸庚申塔	安心院町 六郎丸	近世初期	凝灰岩製庚申塔3基が立つ。最古の1基は明暦元年。	明暦元(1655)			27 C-3
374	津房橋南東五輪塔群	安心院町 六郎丸	戦国	津房川土手北斜面末端に3基の安山岩製五輪塔が並べられている。				27 C-2
375	安養寺石塔群	安心院町 六郎丸	戦国	コンクリートブロックの小室内に宝塔宝珠1、石幢2、板碑状地蔵1があり、南側に野晒して宝塔・五輪塔部材がある。				27 C-2
376	板場お堂一石五輪塔	安心院町 板場	戦国	安部氏宅の北にある堂の北側、水田に接する石垣の上に2基並んである。安山岩製。高さは51cmと44cm以上。				27 D-1
377	板場橋南東石塔群	安心院町 板場	戦国	板場橋の南東側に五輪塔部材と組み合わさった六角柱石幢の窟がある。すべて安山岩製。				27 D-1
378	成就院石塔群	安心院町 板場	戦国	遠嶋氏宅の南部に平地があり、堂・近現代墓地・石幢群に分かれてある。宝篋印塔身の上に板碑状頂部で窟部に仏像を彫り出し、基礎をもつ物がある。				27 D-1
379	光厳寺石塔群	安心院町 六郎丸	戦国	本堂の南東側、庭の隅に六角形塔身の上に立体的な仏像を彫り込んだ四角い窟の組み合わせ2基、宝塔1基がある。				27 D-2
380	五郎丸石塔群	安心院町 五郎丸	戦国	遠嶋氏宅の南方水田に圃場整備の際に集めたように凝灰岩製の石塔部材が集積されている。				27 D-2
381	山田家石塔	安心院町 六郎丸	戦国	津房川左岸、民家の庭先に安山岩製の宝塔・五輪塔部材がある。				27 D-2
382	若林石塔群	安心院町 若林	戦国	圃場整備で現在地に移動集積した石塔群である。				27 D-2
383	佐々木家石塔群	安心院町 若林	戦国	佐々木氏宅南に道路を挟んで立つ。				27 E-2
384	丸田五輪塔群	安心院町 南畑	戦国	西村氏宅東側に道路を隔て部材が積まれている。				27 F-2
385	堂様五輪塔群	安心院町 南畑	戦国	小堂前に安山岩製の五輪塔部材が組まれている。地輪に墨書。				27 F-2
386	柳田家墓地石塔群	江須賀	戦国	整然と並べられた墓地中に石塔部材が組まれている。後補のものも多く、本来の組み合わせではない。				11 C-8
387	東林寺跡石塔群	上田	戦国	低い土壇状の上や歴代住職墓地の中に石塔部材が置かれている。中でも、一石で作られた笠塔婆には正面に地蔵を彫刻し、墨書がみられるが、判読不能である。				11 E-7
388	原岡家墓地石塔群	中原	戦国	近世墓地の一角に石塔が集められている。中でも永正銘の紀年銘をもつ笠塔婆は正面に地蔵3体を浮き彫りした特異なものである。	永正10(1513)			11 G-7
389	青森集落墓地石塔群	青森	戦国	墓地中に径8m、高さ1mの塚があり、その裾に石塔部材が集められているほか、墓地中に散在している。				12 D-3
390	青森集落墓地五輪塔群	青森	戦国	墓地中に五輪塔の部材が散在する。				12 D-3
391	仲月庵五輪塔群	刈生田	戦国	仲月庵の前に五輪塔火輪が1点あるほか、庚申塔横に五輪塔部材が組まれているが、組合せは本来のものではない。				12 E-3

塔形及び個体数																											
五輪塔					宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形				
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇										
	1	2	3	5								4		4	1	1											
	8	24	17	12			3	1				4	1	7	3	4								1		層塔笠1	
	9	15	10	17								6		3		4						1					
	12	21	14	6			3	1	2			7	2	5	3												
	24	18	15	19			5	2	2	2		3	2	6	2	2											
		1										1		2	2												
	15	12	17	8			2	2		2																	
			1											1												龕4	
	9	10	9	13																							
		4	1									1		1												笠1	
	1	5	4	2			1		1					1													
	1	8	13	11			1	4	9	2			1	1		1										3	
	8	14	13	17			2	1	2	6			1	7	3											1	
																										1	
														3	1	1											
		2																									
											1																
																						1					
	3	1	1	1																						1?	
							1	1	1																		
																										庚申塔3	
	2	3	2	3																							
	1			1								1		2	1											2	板碑状地藏1
																										2	
		2		2																						1	
	4	5	3	5			1	1				2		1	1											3	
												2		1	1											2	
	1	4	2	1			2																				
	1													1	1												
		6	15				2	2	1			1		3	1												
	2		2	4								1		3													
		3	1	4																							
		3	2	3																							
	2	3	3	2									2		1	1											
	4		5	1																						笠塔婆1	
	1														1											笠塔婆1	
		3	2	4																						3	
	1	1	2	1																							
	1	1	1	1																							

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	光徳寺横墓地五輪塔	西浜		墓地の中に五輪塔が1基置かれている。				1 H-2
2	善照寺西石塔群	鴨尾		田の中の小さな塚上に角柱塔婆（近世の可能性）が立ち、周囲に五輪塔部材が置かれている。				1 H-2
3	堀切墓地五輪塔	見目		墓地の中に一石五輪塔が置かれている。				1 H-3
4	徳永家墓地五輪塔群	臼野 時安		妙見社入口の墓地の端に五輪塔が並べられている。また、道を挟んだ下側にも転落した石塔がある。				5 D-8
5	木ノ下国東塔と海蔵寺跡石塔群	臼野 木ノ下	南北朝～戦国	丘陵の斜面のテラス上に、国東塔を中心として多くの石塔が並んでいる。中でも中型の板碑が11基も集中してあるのは珍しく、うち1基に文和2年銘がみられる。国東塔は、バランスの良い完存塔である。また、背後の丘陵先端の神社周辺に石塔部材が散在している。参道脇には大型の宝塔の笠がある。	文和2 (1353)	市有形 (国東塔)	4	5 D-8
6	西村東墓地石塔群	臼野 西村		集落南西の丘陵上にある広い墓地の至る所に五輪塔部材が点在している。宝塔の基礎と思われる反花座もある。				5 E-8
7	西村東墓地五輪塔群	臼野 西村		集落南東の丘陵上にある墓地の一角に五輪塔部材が集中している。				5 E-8
8	来迎寺石塔群	臼野 三友	鎌倉～戦国	参道、境内に石塔部材が散在する。また、裏山にある歴代住持の墓地等に石塔がある。中でも、寺墓地にある三重層塔は第一重の輪部を失っているが、格状間を刻む基礎に残る鎌倉期のものである。				5 E-8
9	阿弥陀寺裏山墓地石塔群	臼野 中村	南北朝～室町	丘陵をやや登ったところにある墓地の一角に中世石塔が立ち並ぶ。多くは当初の組み合わせを失っているが、2基の宝塔は当初のままと思われる。				5 E-8
10	萬年寺石塔群	臼野 中村	南北朝～室町	本堂裏の旧墓地に中世石塔が集められている。また、現在の墓地の中に宝篋印塔が1基立っている。宝塔としたものは小型の国東塔か。				5 E-8
11	中真玉米光邸五輪塔	中真玉		米光邸の庭に五輪塔部材が置かれている。				5 F-7
12	中真玉淵江邸五輪塔	中真玉		淵江邸隣接地に五輪塔が立っている。				5 F-7
13	真玉庁舎横墓地石塔群	中真玉		市役所真玉庁舎の西側にある墓地の中に、五輪塔や宝塔の部材が散在している。				5 F-7
14	中真玉佐藤家墓地五輪塔	中真玉		佐藤家墓地の中に五輪塔1基が立っている。				5 F-7
15	中真玉豊田家墓地石塔群	中真玉		墓地入口のところにコンクリートで固定されて五輪塔部材や相輪（宝塔か）が並べられている。				5 F-8
16	恵良墓地五輪塔群	中真玉		墓地の中に五輪塔群が点在する。また、板碑と思われる小型の塔婆がある。				5 G-8
17	西畑土谷邸前五輪塔群	中真玉 西畑		土谷邸前に五輪塔部材が置かれている。				5 F-8
18	地藏堂石塔群	西真玉	鎌倉～戦国	地藏堂があつたとされる場所に三重塔が立つ。その周囲には一石五輪塔や五輪塔部材などが集められている。				5 G-6
19	西真玉阿弥陀堂石塔群	西真玉		阿弥陀堂裏に大型の国東塔塔身と基礎（同一個体か）、五輪塔部材が置かれている。				5 G-7
20	西真玉墓地石塔群	西真玉		広い墓地内に、多数の一石五輪塔や五輪塔部材、さらに蓮華座を持つ国東塔基礎などが広く点在する。				5 G-7
21	真玉氏墓地石塔群	西真玉	室町～戦国、近世初頭	真玉寺（真玉氏館）の西方にある真玉氏墓地には、国東塔や宝篋印塔、五輪塔などの石塔が立ち並んでいるが、コンクリートで固定されるなど当初の景観では無い。		市有形 (国東塔)	4	5 G-7
22	大村御堂五輪塔群	西真玉 大村		御堂脇に一石五輪塔や五輪塔部材が集積されている。				5 G-7
23	真玉寺石殿	西真玉 大村	室町	真玉寺の外に立つ。二面に六地藏を彫刻する。他の二面には地藏と阿弥陀を彫刻する。	長禄3 (1459)	県有形	4	5 G-7
24	小泊家墓地五輪塔	西真玉 大村		真玉寺の南にある墓地の中に五輪塔部材が点在する。				5 G-7
25	真玉八幡社国東塔	西真玉		真玉八幡社の横にある池の畔に立つ大型の国東塔で、灯籠へ転用のために塔身が削りぬかれている。		市有形	4	5 G-7
26	徳六下五輪塔群	西真玉 徳六下		道路記念碑の裏に一石五輪塔や五輪塔部材が並べられている。				5 G-7
27	三井寺跡石塔群	中真玉 庄屋	南北朝～室町	庄屋集落の西外れにある三井寺跡の参道に2基の大型国東塔が立つ。基壇を欠くがほぼ完存。また、境内には大型の宝篋印塔の笠や五輪塔部材が点在する。		市有形 (国東塔)	4	5 G-8
28	庄屋墓地石塔群	中真玉 庄屋		丘陵先端にある墓地の中に、石塔が点在する。				5 G-8
29	庄屋井口家石塔群	中真玉 庄屋		井口家墓地に石塔が置かれている。				5 G-8
30	庄屋神社下石塔群	中真玉 庄屋		丘陵上の神社周辺に、五輪塔や小型宝塔の部材が点在している。				5 G-8
31	井ノ口家の宝塔	西真玉 湯原	南北朝	井ノ口家横にある平場に2基の完存の国東塔が立つ。		市有形	4	5 H-8
32	薬師堂石塔群	中真玉 常盤の京田	南北朝～室町	石祠内にある舟形光背の石像薬師像を中心に、周囲に大型の国東塔2基や板碑などが立て並べられている。コンクリートで固定。			4	5 G-8
33	安養寺国東塔と石殿及び石塔群	中真玉	南北朝～室町	安養寺参道両側に完存の国東塔と石殿が立っている。境内には小型宝塔の宝珠もある。		県有形(国東塔) 市有形(石殿)	4	5 G-8
34	貴船社五輪塔群	草地	室町～戦国	拝殿裏に一石五輪塔と五輪塔部材が置かれている。				5 H-6
35	猫石老人憩いの家前石塔群	草地	室町～戦国	元の「猫石学校跡」に五輪塔や板碑が集中している。何らかの御堂などがあつたと考えられる。板碑は小型。五輪塔水輪は四角の平面を残している。				5 H-6
36	牛迫墓地五輪塔	香々地 牛迫		墓地の中に五輪塔部材を集積している。				6 A-2
37	八坂社国東塔	見目 牛頭	戦国	参道を登った所にある。相輪上部を欠く。全体のバランスが悪いので、笠は別の個体のものか。				6 A-2
38	釈迦堂石塔群	見目	鎌倉～戦国	現境公民館横に、近世の石塔と共に国東塔と思われる反花座と五輪塔空風輪が置かれている。墨書で梵字を書いた板碑状の塔婆（近世か）もある。				6 A-2
39	新竹田橋南墓地五輪塔	香々地		墓地の中に五輪塔が置かれている。				6 A-2
40	樋ノ口国東塔	見目 樋ノ口	室町	田の一角に国東塔の基礎・基壇と蓮花部分が置かれている。「文明10年」の銘は現状で確認できない。	文明10 (1478)		30	6 A-2
41	大神宮下墓地五輪塔	香々地	戦国～近世初頭	大神宮下の墓地に一石五輪塔が2基ある。				6 A-2
42	今井家墓地五輪塔	香々地	戦国～近世初頭	今井家墓地に五輪塔が1基立っている。				6 A-2
43	樋ノ口観音堂石塔群	見目 樋ノ口	室町～戦国	観音堂横の斜面に国東塔が立ち、その裾に五輪塔が並べられている。堂裏の山にある墓地にも五輪塔が点在する。			30	6 A-2
44	叶淵観音堂石塔群	香々地 叶淵	室町	観音堂前に国東塔と五輪塔が並べられているが、国東塔は背後の丘陵中腹にあつたという。		市有形 (国東塔)	30	6 A-2

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
45	能丸神社石塔群	香々地	戦国～近世初頭	能丸神社の横に石幢が立ち、横の能丸家墓地には五輪塔が点在する。				6 A-2
46	今倉家厩塔	香々地 叶淵	室町	2層の厩塔で、榎木を表現した笠の反りが激しい。下の輪部には、格状間風の彫り込みの中に四仏の種子を刻む。		市有形	30	6 A-2
47	田中邸五輪塔	見目 田中	南北朝～室町	地名を名字とする田中邸に置かれている。火輪には四面に梵字を刻む。				6 A-2
48	田中五輪塔群	見目 田中	戦国	通称「やぶがみ様」と呼ばれる地点に五輪塔が集中している。動かすや祟りがあるという。			30	6 A-2
49	田中池板碑	見目 田中	南北朝～室町	田中五輪塔の横にある田中池の畔に、半分ほど地中に埋まって板碑が立っている。水源としての田中池を祭るものか。				6 A-2
50	旧町役場五輪塔群	見目	戦国	板碑や五輪塔などが旧役場前に並べられているが、県立歴史博物館調査時に比べ数がかなり減っている。多くは早田の殿屋敷国東塔周辺から移されたもの。			30	6 A-2
51	見目浜中西五宝塔	見目	室町	畑の角に宝塔部材を重ねて置いている。				6 A-3
52	宮庄橋南石塔群	見目		三界万霊塔の回りに石塔が集められている。ほとんど近世のものだが、1点五輪塔空風輪がある。				6 A-3
53	三安五輪塔群	見目 三安	戦国	田の中の一角に五輪塔が並べられている。			30	6 A-3
54	中山観音堂横墓地五輪塔群	見目 中山	室町～戦国	観音堂北側の墓地の一角に五輪塔が集積されている。				6 A-3
55	中山観音堂石塔群	見目 中山	室町～戦国	観音堂境内に大型の国東塔2基が立ち、他に両面板碑や五輪塔が点在する。			30	6 A-3
56	三光寺石塔群	見目 片山	南北朝～戦国	三光寺境内に石塔が点在している。主に、裏庭に並べられている。		市有形 (国東塔・板碑)	6	6 A-3
57	兼峰北墓地石塔群	見目 兼峰		曾我家墓地横の大岩の上に石塔が置かれている。また、大岩の少し上の墓地の一角に一石五輪塔が並べて置かれている。				6 A-3
58	兼峰南五輪塔群	見目 兼峰		墓地の中に五輪塔がある。				6 A-3
59	坂本家墓地石塔群	香々地 周年寺	戦国	宝篋印塔を中心として、多くの石塔が立ち並んでいる。板碑は小型で、宝塔は小型の国東塔か。		市有形 (宝篋印塔)	30	6 A-3
60	周年寺天満社五輪塔群	香々地 周年寺		安楽寺裏の天満社周辺に五輪塔部材が並べられている。大型の部材を含む。				6 A-3
61	安楽寺五輪塔群	香々地 周年寺		安楽寺境内の一角に五輪塔が集められている。香々地町誌では国東塔塔身があるとなっているが、確認できなかった。				6 A-3
62	安楽寺入口石塔群	香々地 周年寺		安楽寺参道横に、国東塔と思われる基礎と五輪塔が置かれている。安楽寺にあつたとされる国東塔塔身と組むものか。				6 A-3
63	中山横五輪塔群	香々地 周年寺		中山邸の横に一石五輪塔が2基ある。				6 A-3
64	五郎丸不動堂石塔群	香々地 五郎丸	戦国	不動堂横に石塔が並べられている。国東塔2基は軒の反りが強く、よく似ている。五郎丸国東塔と通称されるものである。			30	6 A-3
65	五郎丸墓地五輪塔群	香々地 五郎丸		集落からやや山に入った所にある墓地2箇所に五輪塔部材が点在する。				6 B-3
66	竹田津家墓地宝篋印塔	見目 伏原	戦国～近世初頭	東智庵裏の墓地に立つ。相輪下部の請花平面形が方形を呈する。		市有形	30	6 A-3
67	東智庵石塔群	見目 堂園	戦国	東智庵境内に五輪塔や宝塔が点在する。			30	6 A-3
68	堂園五輪塔群	見目 堂園	戦国	堂園家祖霊碑の横に2基の五輪塔が立つ。			30	6 A-3
69	見目中山邸入口石幢	見目 三安	近世初頭	道沿いに立つ。龕部は別材。				6 A-3
70	見目川橋横五輪塔	見目 堂園	戦国	橋の横に6基の一石五輪塔が集積されている。				6 A-3
71	徳丸国東塔	見目 徳丸	戦国	畑の端に相輪の下半と蓮華座以下を欠く国東塔と一石五輪塔が立っている。	天正2 (1574)		30	6 A-3
72	見目川南墓地五輪塔	見目		墓地の手前に水輪が置かれている。				6 A-3
73	堂園墓地五輪塔	見目 堂園	戦国	某家墓地内に五輪塔が1基ある。				6 A-3
74	見目水路脇五輪塔	見目		水路の脇に五輪塔が置かれている。				6 A-3
75	見目庚申塔群横五輪塔	見目		庚申塔が並び立つ横の墓地に一石五輪塔1基がある。				6 A-3
76	見目増田邸入口五輪塔群	見目		道沿いに五輪塔部材が置かれている。				6 A-3
77	見目長相ゲートボール場横五輪塔	見目 長相		ゲートボール場横に五輪塔が置かれている。				6 A-3
78	一ノ瀬薬師堂石塔群	見目 一ノ瀬	室町～戦国	薬師堂の前に、石塔部材が並べられている。			30	6 A-3
79	見目佐藤家墓地五輪塔群	見目 長相	戦国	墓地内に石塔部材が点在している。			30	6 A-3
80	長泉寺五輪塔群	見目 長相	戦国	長泉寺裏の墓地の一角に五輪塔が集積されている。			30	6 A-3
81	伽藍石塔群	見目 伽藍	戦国	構造改善センター前に、石塔が集められている。板碑は2連碑である。以前はさらに国東塔2基があったが、国東市国見竹田津の個人宅に移されている。			30	6 B-4
82	ガラバス停横五輪塔	見目 伽藍	室町	バス停横に五輪塔が置かれている。あまり風化していないので、最近持ってきたものか。墨書有り。				6 B-4
83	円通庵国東塔	羽根中	戦国	円通庵の境内に相輪を欠く国東塔が立っている。			30	6 B-1
84	榎本邸前五輪塔	羽根 小河内	戦国～近世初頭	道端の石垣の上に五輪塔が置かれている。				6 B-1
85	小河内墓地五輪塔群	羽根 小河内		集落の西外れにある墓地の中に五輪塔が点在している。				6 B-2
86	小河内五輪塔群	羽根 小河内		羽根川に沿った道沿いに一石五輪塔が2基が置かれている。				6 B-1
87	秋成五輪塔	羽根 秋成		羽根川に接する畑端に五輪塔部材が置かれている。				6 C-1
88	秋成御堂石塔群	羽根 秋成	室町	集落内の御堂の中に、板碑や五輪塔が置かれている。宝塔の相輪は大型で、国東塔のものか。また、横の家脇にも五輪塔がある。				6 C-2

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号	
89	池森家墓地五輪塔群	羽根中		墓地の端に五輪塔部材が置かれている。				6 C-2	
90	秋成墓地五輪塔群	羽根 秋成		墓地の中に五輪塔部材が集められている。				6 C-2	
91	琴平宮石塔群	上香々地	室町～戦国	琴平宮境内の3箇所に分かれて分布する。①地蔵堂脇には五輪塔や宝篋印塔部材、小型の板碑が集積されている。②堂裏の墓地に五輪塔、宝篋印塔、板碑、宝塔が集められている。③御堂西南の竹林中に五輪塔、板碑、角柱塔婆がある。			30	6 B-3	
92	早田御堂石塔群	上香々地 早田		早田公民館裏の御堂横に、宝塔の塔身と基礎、五輪塔部材が積み重ねられている。宝塔は国東塔と思われ、塔身(大型)と基礎(中型)は別個体。				6 B-3	
93	洲野邸横五輪塔群	上香々地 早田 殿屋敷		畑の一角に宝塔と五輪塔部材が置かれ、祀られている。				6 B-3	
94	殿屋敷上石塔群	上香々地 早田 殿屋敷	室町～戦国	殿屋敷背後の丘陵に並ぶ道沿いに板碑1基と一石五輪塔が並べられている。板碑には「アン」の種子を墨書する。				6 B-3	
95	殿屋敷国東塔及び五輪塔群	香々地 早田	南北朝～戦国	「殿屋敷」と呼ばれる一角に大型の国東塔(暦応2年銘)を初めとした3基の国東塔や五輪塔が並んでいる。調査時は数となっており全ては確認できなかったが、歴博の調査によると五輪塔は30数基となっている。	暦応2 (1339)		30	6 B-3	
96	早田天満社石塔群	香々地 早田	室町～戦国	早田の天満社裏に国東塔や五輪塔などがコンクリートで囲められて並んでいる。				6 B-3	
97	一丸邸石塔群	上香々地 篠子	戦国	もと石工であった一丸家の庭に石塔が散在している。				6 B-3	
98	秋本薬師堂石塔群	上香々地 秋本	室町～戦国	池の畔にある薬師堂跡に十五仏を刻んだ塔婆と三重層塔などがある。また、その南20mほどのところに野田様と呼ばれる場所があり、中世石塔が集積されている。	市有形 (十五仏石)		30	6 B-3	
99	下佐古石塔群	上香々地 下佐古	戦国～近世初頭	畑地の一角の2箇所に石塔が並べられている。すべて当初の組み合わせは失われている。板碑は幅広のもの。				6 C-3	
100	教證寺石塔群	上香々地 下佐古	戦国	教證寺境内に宝塔と宝篋印塔の部材を積み重ねた塔が立つ。				6 C-3	
101	施恩寺石造物群	上香々地 三角	室町～戦国、近世初頭	境内左手奥にある歴代住持墓地に大型の無縫塔がある。その横の室内には開山などの石造頂相2体、外には石造十王約20体がある。雲山の墓地には板碑や大型五輪塔がある。門前の参道脇には自然石塔婆が、門前には地藏立像2体がある。			30	6 C-3	
102	川原寺板碑	上香々地 洲上	室町	川原寺境内に立つ。額の出が浅く、塔身が厚い。			市有形	30	6 C-3
103	志善院裏臺地石塔群	堅来 今祥	戦国	志善院裏の台地上にある墓地の入口付近に五輪塔がある。墓地は近世墓地の景観を良好に残す。				6 C-1	
104	長谷寺跡石塔群	堅来 塔ノ本	南北朝～室町	三浦小学校校庭を見下ろす丘陵上の長谷寺跡に、三重層塔や国東塔、宝篋印塔などが集中して立っている。宝篋印塔上部は別の層塔の相輪か。			30	6 C-1	
105	梅木邸五輪塔群	堅来 中村		梅木邸の庭端に五輪塔部材が置かれている。				6 D-1	
106	御霊社五輪塔群	堅来 中村	戦国	御霊社下の斜面に一石五輪塔が並べられている。				6 D-1	
107	寛泉寺墓地石塔群	堅来 中村		寛泉寺裏の墓地の中に五輪塔部材が点在する。				6 D-1	
108	中村地藏堂石塔群	堅来 前田	南北朝～近世初頭	地藏堂横に宝篋印塔や板碑などが集められている。石幢は近世初頭か。	市有形 (宝篋印塔)		30	6 D-1	
109	請五輪塔群	堅来 請	戦国	妙宝院跡から川を挟んだ南側の丘陵斜面にある墓地周辺に五輪塔と小型宝塔の部材が散在している。五輪塔とした中に宝塔が混じっている。			30	6 D-2	
110	妙宝院跡五輪塔群	堅来 請	戦国	妙宝院跡に五輪塔部材が置かれている。				6 D-2	
111	ヒヨドリ石塔群	小畑 ヒヨドリ		堅来川に向かって延びる小さな丘陵先端部(水源地水槽あり)に、多くの五輪塔が群をなしている。地中に埋もれているものも多い。			30	6 E-2	
112	梅林庵石塔群	小畑 古寺	室町～戦国	現「梅松寺」の前身の庵跡と言われる場所に、小型の国東塔や五輪塔が残されている。梅松寺の宝篋印塔はここから運ばれたものという。				6 D-2	
113	梅松寺石塔群	小畑 大平	室町期	市有形の宝篋印塔は小字「古寺」の梅林庵から持ってきたもの。境内には他に五輪塔がある。	市有形 (宝篋印塔)		30	6 D-2	
114	儀丁場宝篋印塔	羽根 儀丁場	戦国	宝篋印塔の部材か?基分散している。			市有形	30	6 D-2
115	秋葉社石塔群	小畑 板迫	室町～戦国	秋葉社階段下、さらに社殿裏の丘陵上の3箇所に石塔がある。			30	6 E-2	
116	秋葉社横臺地石塔群	小畑 板迫		秋葉社横の臺地に五輪塔部材が点在する。				6 E-2	
117	玉泉寺石造物群	臼野 横山	室町	寺裏の墓地に一石五輪塔が、本堂横に五輪塔部材がある。また、境内にある石造阿彌陀如来三尊像(法衣垂下式)は中世のものか。				6 E-2	
118	小門家地藏板碑	臼野 横山	戦国	玉泉寺入り口の丘陵先端に単独で立つ板碑で、前面を舟形に彫り窪めた中に地藏立像を浮き彫りにする。今も住む小門家の名が「大願主」として刻まれている。	天文18 (1549)	市有形	4	6 E-2	
119	小門家板碑下五輪塔	臼野 横山	戦国	小門家板碑がある丘陵下の道端に五輪塔が1基立っている。				6 E-2	
120	久保宝篋印塔と周辺の石塔群	臼野 久保	戦国	金比羅宮のある丘陵先端に完存の宝篋印塔がある。登り口や宝篋印塔の一段下の平場、あるいは金比羅宮鳥居周辺に石塔が点在する。			市有形 (宝篋印塔)	4	6 F-2
121	横山消防車庫横五輪塔	臼野 横山	戦国	消防車庫脇に五輪塔火輪が置かれている。				6 F-2	
122	山口弥勒堂石塔群	臼野 横山		弥勒堂脇に宝塔と五輪塔の部材が置かれている。				6 F-2	
123	山口弥勒堂上石塔群	臼野 横山		弥勒堂の上にある田の一角に石塔が並べられている。				6 F-2	
124	根引地藏堂石塔群	臼野 横山	室町～戦国	地藏堂横から延びる尾根の上に、多くの五輪塔がある。多くは倒壊しているが、板状安山岩の石椁状の遺構も10箇所ほど認められ、良好な中世墓地遺跡と考えられる。			30	6 F-2	
125	越路五輪塔群	上香々地 越路		集落の西側川向こうにある。五輪塔を中心として多数の石塔が並べられている。隣の近世墓地にも五輪塔がある。五輪塔部材とした中に宝塔のものも含む。				6 D-3	
126	日枝神社西墓地石塔群	上香々地 長小野	戦国	広い近世墓地の一角に小型国東塔や板碑などの中世石塔が集中するところがある。国東塔は相輪を欠く。一石五輪塔の一つに双体となったものがある。				6 D-3	
127	柿ノ木五輪塔群	上香々地 宮ノ本	室町～戦国	松本邸裏に2.5m×4m程の墓壇状の高まりの上に石塔が並べられている。ほとんどが後の組み合わせと考えられる。			30	6 D-3	
128	日枝神社国東塔	上香々地 長小野 国政	南北朝～室町	日枝神社の灯籠に国東塔部材が転用されている。塔身2つと境内隅に置かれている相輪2つは当初のものであろう。			30	6 D-3	
129	大力坊国東塔および石塔群	上香々地 長小野	室町	平成25年に壊された観音堂のあった場所に立っていた国東塔は、今は倒壊している。周辺に五輪塔部材が点在する。			30	6 D-3	
130	愛宕社地藏石仏と石塔群	上香々地 今井	南北朝～室町 戦国	地藏石仏を納める石祠の周辺、およびその背後の丘陵上に多数の石塔部材が点在する。			30	6 D-3	
131	今井薬師宝篋印塔と磨崖碑	上香々地 長小野	戦国	山中の岩陰のある平場に宝篋印塔2基が立つ。2基とも一部部材を失っている。崖面には方形の痕の中に薬師、阿彌陀、釈迦の種子と永禄9年銘を陰刻する。	永禄9 (1566)			6 D-3	
132	クド屋敷阿彌陀石仏	上香々地 石仏	平安～鎌倉	江戸期の観音を納める御堂の脇に置かれている。自然石(高さ72cm)に定印の阿彌陀如来を浮き彫りにする。			30	6 D-3	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
133	垣副家墓地石塔群	上香々地野上ノ平	室町～戦国	中山家墓地のやや上側にある墓地に、大型国東塔2基を初めとした中世石塔が多数認められる。			30	6 D-3
134	中山家国東塔群	上香々地野上ノ平	戦国～近世初頭	長小野の集落と竹田川を挟んだ反対側（西側）の山裾にある中山家墓地に、国東塔が4基立つ。1基は塔身下部に蓮弁を彫り出す。			30	6 D-3
135	大山祇社五輪塔	夷 前田	室町～戦国	大山祇社の石祠に並んで一石五輪塔が立っている。				6 E-3
136	前田磨崖仏周辺石塔群	夷 前田	戦国～近世前期	集落から山に入った所にある崖面に小さな四角の龕を4箇所彫り、中に人物像を浮き彫りにする。墨書で「元和九年」と記す。周辺に五輪塔や板碑がある。	元和9(1623)			6 E-4
137	夷前田五輪塔	夷 前田	室町～戦国	あぜ道沿いに五輪塔部材が置かれている。				6 E-3
138	隈井邸宝塔	夷 前田	室町～戦国	裏庭に宝塔石材が積まれている。塔身には小さく梵字が彫られる。香々地町誌では「前田国東塔」とする。				6 E-3
139	前田墓地石塔群	夷 前田		得万坊跡と言われる前田集落の墓地に、小型の国東塔や五輪塔などが散在する。				6 E-4
140	清厳寺跡石塔群	夷 楽庭	戦国	清厳寺跡と言われる平場の崖際に宝塔が並べられている。墨書のある安山岩板石がある。			30	6 E-4
141	楽庭国東塔	夷 楽庭	南北朝	現在は大力邸庭に移されているが、もとは若宮八幡社のあった「楽庭」にあったもの。神社移転に伴い移設。基礎が無く、相輪は後補であるが、古相を持つ。				6 E-4
142	坊落磨崖仏・五輪塔	夷 坊落	戦国	県道南側斜面に突きだした岩に磨崖仏が浮き彫りされ、周囲に五輪塔部材が点在する。			30	6 E-4
143	中山仙境入口五輪塔群	夷 坊落		竹田川と西夷川に挟まれた丘陵の先端部に五輪塔がある。				6 E-4
144	道園石塔群	夷	室町～戦国	道園線刻板碑登り口手前に五輪塔や小型国東塔が並べられている。				6 E-4
145	道園線刻板碑・磨崖五輪塔と石塔群	夷	戦国～近世初頭	竹田川と西夷川の合流点に近い丘陵崖面に、月輪と線刻の49連碑（三面にわたると、磨崖五輪塔が刻まれ、その前面に宝篋印塔（慶長10年の墨書があるとされる）や板碑、五輪塔などが集中的に並べられている。ただし、多くは倒壊している。	慶長10(1605)		30	6 E-4
146	谷ノ迫磨崖像・磨崖板碑と石塔群	西夷 道園 谷ノ迫	南北朝～室町	丘陵の先端部の凝灰岩露頭部分に、2対の男女像と僧形坐像を浮き彫りにする。横には磨崖の5連碑と梵字種子碑があり、周囲には五輪塔や宝篋印塔部材がある。俗形男女像には墨書で応安7年と記されているとされる。	応安7(1374)		30	6 E-4
147	堂園観音堂国東塔	西夷 道園 堂園	室町～江戸初期	観音堂境内に2個体分の石材を組み合わせた国東塔が立つ。相輪から塔身は中世、基礎は江戸期か。			30	6 E-4
148	梅ノ木磨崖地蔵・磨崖碑と五輪塔群	西夷 梅ノ木		覆い屋の掛けられた部分に地蔵他4体を浮き彫りし、その左手には線刻の連碑（21基か）と磨崖の五輪塔11基、覆い屋の右手に6基が認められる。周辺には五輪塔が散在する。		県有形(磨崖仏と線刻板碑)	30	6 F-4
149	日懸宝篋印塔	夷 日懸	室町期	西夷川を挟んで集落とは反対側（西側）の山際の大石の上にある大型の宝篋印塔。現在は倒壊し、相輪の一部が見当たらない。			30	6 F-4
150	坊中石塔群	夷 岩屋	戦国	坊中岩屋の西100mにある崖の下部に小さな龕を彫り、中に五輪塔を2基並べる。周囲にも一石五輪塔が点在する。				6 E-4
151	坊中岩屋宝塔群	夷 岩屋	鎌倉	集落から比高差40mほどの急崖下に開く大きな岩屋の上方平場にある。望月1975によれば、倒れていた部材を望月が組み合わせたものという。古相を示す宝塔である。			30	6 E-4
152	十連石塔群	夷 十連	室町～戦国	平野を望む高さ10mほどの岩上に五輪塔や小型板碑が集積し、その岩下にも板碑(2連碑)や五輪塔が見られる。			30	6 E-4
153	夷耶馬農村公園横崖上国東塔	夷 影平	室町	崖上に笠より上部を失った国東塔が立っている。香々地町誌で円徳国東塔とするものか。				6 E-4
154	雲仙寺石塔群	夷 東南弘	室町～戦国	墓地から持ってきたとされる国東塔を初め、五輪塔や宝篋印塔が境内に置かれている。五輪塔形塔婆が1基ある。			30	6 E-4
155	実相院石塔群	夷 東南弘	鎌倉～江戸初期	実相院境内に大型の国東塔がある。笠と塔身の間に別材を挟む。境内には他に五輪塔部材が点在し、裏山の墓地には板碑がある。また、実相院裏手の墓地の中に1基の板碑が立つ。やや反りを持ち、尖頭形で古相である。			30	6 E-4
156	六所神社石造物群	夷 下坊中	戦国	六所神社右手の岩に龕を彫り、中に三尊像を浮き彫りにする。また、六所神社上の岩陰横の岩に中世と思われる磨崖僧形が彫られ、周囲に五輪塔が散在する。町誌では薬師堂磨崖仏とするもの。		市有形(磨崖三尊像)	30	6 E-4
157	雲仙寺墓地石塔群	夷 影平	室町～近世初頭	雲仙寺向かいの崖下部にテラスを作って石塔が並べられている。風雨が当たらずにはあまり風化していないが、多くは倒壊している。埋まっているものも多く、現状では正確な数は把握できないが、県立歴史博物館調査時には五輪塔は160基分、宝塔13基とされる。板碑は連碑2、通碑2基(歴博は板碑1とする)。他に近世初頭の磨崖碑4基。			30	6 E-4
158	影平宝篋印塔	夷 影平	室町	雲仙寺墓地の手前、川に向かって古くに崖から剥がれ落ちた巨岩の上に1基の宝篋印塔が立てられている。			30	6 E-4
159	上坊中五輪塔群	夷 上坊中		最近出来た道の横に、江戸期の石塔と共に五輪塔が置かれている。				6 F-5
160	前花墓地石塔群	夷 前花	戦国	近世墓地の中に五輪塔や小型宝塔の部材が点在する。			30	6 F-5
161	焼尾塔ノ本石塔群	夷 焼尾塔ノ本	南北朝	平野を望む丘陵先端部に国東塔が立ち、その周囲に五輪塔がある。		県有形(国東塔)	30	6 F-5
162	末長邸前五輪塔	夷 前花		道端の記念碑のところに空封輪が置かれている。				6 F-5
163	船ヶ迫五輪塔群	夷 船ヶ迫	戦国	船ヶ迫から石河内池の北側に抜ける道沿いに五輪塔部材が点在する。今回調査では確認できず。			30	6 F-5
164	焼尾公園入口墓地五輪塔	夷 焼尾		焼尾公園の入口にある墓地に五輪塔がある。				6 F-5
165	志太波家国東塔	夷 焼尾	室町	志太波邸の庭に置かれている国東塔。蓮弁はかなり簡略化されている。			30	6 F-5
166	田の口五輪塔	夷 田の口	室町	近世の墓標が集められた中に、一石五輪塔が1基ある。				6 F-5
167	夷谷展望広場石塔群	夷		展望所の一角に中世石塔が集められている。何処のものかは未確認。宝篋印塔は相輪を欠く。				6 F-5
168	夷温泉入口前墓地五輪塔	夷 東狩場		墓地の中に一石五輪塔が1基ある。				6 F-5
169	山神社板碑	夷 平所	室町期	集落からやや山に入った所にある山神社参道横の岩上に板碑が立つ。総高128cm。			30	6 G-5
170	古稚堂石塔群	夷 東狩場	室町～戦国	古稚堂の境内に国東塔や五輪塔がある。国東塔は相輪を欠く。			30	6 G-5
171	西畠寺横臺地石塔群	中真玉 西畑		西畠寺横の山にある墓地に石塔部材が置かれている。				6 F-1
172	西畠寺跡石塔群	中真玉 西畑	南北朝末期～室町	廃寺になった西畠寺境内に国東塔と宝篋印塔各1基が立っている。		市有形(国東塔)	4	6 F-1
173	多宝院宝塔	大岩屋 有氏	戦国～近世初頭	多宝院境内脇に江戸期の墓碑と共に、相輪を欠く宝塔が置かれている。退化した調花と反花座を持つ。				6 G-3
174	田ノ口観音堂前五輪塔群	中真玉	戦国	観音堂周辺に五輪塔部材が点在する。				6 G-1
175	山田家墓地国東塔と石塔群	中真玉 常盤田ノ口	室町	山裾にある山田家墓地内に国東塔や小型宝塔、五輪塔などが立っている。石塔の立つ範囲は疎敷きとなっており、国東塔と宝塔1基は、礎で方形に囲まれている。		県有形(国東塔)	4	6 H-1
176	重野岩窟仏前五輪塔群	城前 下城前	戦国	岩屋（元禄年間建立）前に、五輪塔部材や一石五輪塔が点在している。				6 H-1

塔形及び個体数																																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形																		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇																							
	26	37	38	25								4	2	5	2	2			2			7																		
																			4																					
																						1																		
	1	3		2																1																				
	2	1	1																																					
												1		1	1																									
	2	2	2																1			4																		
											3			1																										
																																								磨崖仏
3																						3																		
	2	3	1	1																		1																		
	28	22	29	17															1			9																		
	3	12	8	8	1								4								9	1																		
	3	8	6	4			1						2									4																		
																				2																				
	5	8	7	12																		5																		
					1																																			
														2	3							5																		
	19	18	17	10																	2	1																		
																			1																					
	11	9	9	9															1			6																	五輪塔形塔婆	
	1	3	3	2																1	2																		磨崖三尊像 磨崖僧形	
		2	1	1																																				
	22	31	33	37															3	4	32																		磨崖五輪6	
					1																																			
		1	1	1																		3																		
		2	2										1	2																										
	4	4	3	4															1			8																		
	2																																							
6																						2																		
																						1																		
		3	2	2	1																																			
																						1																		
	2	6	2	2															1																					
	1	5	4	2									1	3								5																		
					1															1																				
													1	1	1																									
	1	2	1	1																																				
	1	3									3								1			2																		
		3	1	1																		3																		

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
177	愛宕社石塔群	城前 下城前	室町～戦国	愛宕社の境内の一角に石塔が並べられている。地元の人話では、近所の工事中に出たものを、持ってきて並べたものという。				6 H-1
178	湯前公園石塔群	西真玉 湯原		もと別府市安部氏宅にあったもの(別府市有形)を、旧在の真玉町に移設、並べたもの。当初の組み合わせを保つものはない。		市有形(宝塔群)		6 H-1
179	三社権現宝篋印塔と五輪塔群	城前 下城前	室町～戦国	弥勒寺裏の岩屋前に完存の宝篋印塔1基が立つ。その横や、弥勒寺の並びに五輪塔が多数ある。内、一石五輪塔の1基には、陽刻の四方門種子が彫り出される。		市有形(宝篋印塔)	4	6 H-1
180	愛宕神社登り口石塔群	城前 下城前	室町～戦国	愛宕社登り口の所に石塔が並べられている。この場所は、廻国聖を葬った場所であるという。				6 H-1
181	宮本家五輪塔群	城前 下城前	戦国	宮本家裏崖下や庭に五輪塔が点在している。				6 H-1
182	安藤家墓地五輪塔	城前	戦国	墓地の中に一石五輪塔と五輪塔部材がある。				6 H-2
183	薬師堂石塔群	城前	室町～戦国	薬師堂の周辺に石塔群がある。国東塔は細身で相輪が長く伸びる。				6 H-2
184	西真玉堀内家石塔群	西真玉		丘陵斜面にある堀内家墓地に国東塔と五輪塔部材がある。		市有形(国東塔)	4	6 H-2
185	清台寺石塔群	城前	南北朝～室町	臨濟宗清台寺参道両側に宝塔と宝篋印塔(相輪宝珠別材)が立つ。その背後には板碑(1基は連碑)や五輪塔が、さらに境内や裏山に五輪塔がある。宝塔は大型で古式である。		市有形(宝塔)	4	6 H-2
186	城前フチ石塔群	城前	南北朝～戦国	清台寺東側の丘陵中腹(県道で削られた)や、からしん様西側の発掘調査で出土した石塔を1箇所に集めている。宝塔や大型の五輪塔、6連碑や3連碑、一石五輪塔などがある。五輪塔は墓坑の上に立っていたものもある(城前遺跡)。			4	6 H-2
187	からしん様と城前遺跡石造物群	城前	室町～戦国	旧道に沿った崖面の裾に間口2.4mの龕を穿ち、内部に丸彫りの男女像や僧形像を置く。男像は烏帽子を被る。岩屋前には五輪塔が置かれている。また、県道で削られる前は、左手の崖に磨崖板碑(49連碑?)があり、五輪塔や板碑が立ち並んでいた(城前遺跡)。出土石塔は城前フチ石塔群にあり。				6 H-2
188	清台寺向かい墓地石塔群	城前	室町～戦国	清台寺向かい側にある道沿いの墓地に石塔が並べられている。				6 H-2
189	別十字堂磨崖宝塔と石塔群	城前	南北朝～室町	清台寺向かいの丘陵の北面する斜面の大山に高さ96cmの磨崖宝塔がある。その下や周辺に一石五輪塔や五輪塔部材が点在する。何らかの施設があったものだろう。			4	6 H-2
190	堀内家墓地石塔群	城前	室町～戦国	清台寺向かい側の山際にある墓地に、反花を基礎と一石で作った宝塔がある。			4	6 H-2
191	応曆寺石造物群	大岩屋 小河内	鎌倉～戦国	応曆寺には本堂周辺に市有形の宝篋印塔や相型とされる一石五輪塔などの石塔群がある。特に本堂南側に多く集められている。		市有形(宝篋印塔)	4	6 H-2
192	堂の迫磨崖仏	大岩屋 小河内		奥の院へ登る途中右手に十王や六地藏などの磨崖仏群がある。		県史跡(磨崖仏)	4	6 H-2
193	応曆寺奥の院国東塔、宝塔	大岩屋 小河内		奥の院には国東塔などの石塔群がある。国東塔は笠以上が落下している。				6 H-2
194	上真玉小学校跡地五輪塔群	黒土 下黒土		小学校跡地の裏にある谷地に一石五輪塔や五輪塔部材が点在している。平場が形成されており、何らかの施設があったものであろう。				6 H-2
195	中之坊磨崖仏・磨崖板碑と石塔群	黒土 下黒土		谷を少し入ったところの平場の崖に磨崖地藏像・磨崖観音像と石仏を並べ、向かい側には磨崖の連碑を彫る。また、周囲には板碑や五輪塔などの石塔も多数ある。また、やや下った家の裏にも五輪塔部材が見られる。		市史跡	4	6 H-2
196	敵の院明王堂五輪塔群	黒土 下黒土		明王堂横に五輪頭部材や一石五輪塔がコンクリートで固められて置かれている。				6 H-2
197	身濯神社磨崖種子と磨崖宝塔及び石塔群	黒土	南北朝～室町	身濯神社神殿横の崖面に「キリク」の梵字を刻む。また、神社右上の崖面には二つの龕を彫り、中に宝塔を6基半肉彫りする。また、神社境内には大型の国東塔と宝篋印塔部材を重ねた塔が立つ。周囲に小型宝塔の塔身もある。			4	6 H-2
198	身濯神社東磨崖仏と石塔群	黒土 下黒土	室町～戦国	県道沿いにある崖面に、6箇所の小さな龕を彫り窪め、中に仏像を浮き彫りにする。ほぼ原形を留めておらず像容は不明である。また、その前面には墨書のある4連碑を初めとした石塔が並べられている。				6 H-3
199	椿堂入口石塔群	黒土	室町～戦国	椿堂入口の「一休庵」横の崖際に多数の石塔が集中している。集められたものもあるかもしれないが、当初のものが大部分であろう。また、椿堂手前の家脇にも五輪塔がある。				6 H-3
200	椿堂横五輪塔群	黒土	室町～戦国	椿堂本堂手前の脇に五輪塔が並べられている。				6 H-3
201	無動寺石塔群	黒土	室町～戦国	山門脇に五輪塔や宝塔が集められているが、多くは当初の組み合わせを欠いている。本堂脇には板碑や宝篋印塔、五輪塔が集められている。			4	6 H-3
202	身濯神社石塔群	黒土 上黒土	南北朝	上黒土の身濯神社本殿裏の岩上と下に大型の国東塔と宝篋印塔の部材が散乱している。				6 H-4
203	大杉堂石塔群	黒土 上黒土	南北朝期～戦国	大杉堂と呼ばれる御堂の境内に宝篋印塔などの中世石塔が立てられている。宝篋印塔は塔身を欠く。板碑は2連碑。				6 H-4
204	小河内山神社宝篋印塔	黒土 上黒土	戦国	山神社階段下参道脇に立つ。宝珠を欠く。塔身に金剛界四仏の種子を刻む。	永正13(1516)	県有形	4	6 G-4
205	玉津山神社石塔群	玉津 志手町	南北朝	国道213号沿いにある玉津地区の山神社境内に五輪塔・一石五輪塔が点在。	暦応4(1341)			12 B-5
206	馬場邸石塔	玉津 志手1区		志手町の旧道沿いにある長岡家の庭先に存在。請花・相輪を欠き、笠は別物か。				12 B-5
207	長岡邸石塔	玉津 志手2区	南北朝初期	文献2によると、智恩寺と同じ形式の国東塔と、二重基壇で塔身無地の差込式の宝篋印塔があると記述。				12 C-5
208	法華寺石塔群	玉津 下町		桂川右岸にある法華寺の参道入口にある石殿や祠に混在。				12 C-5
209	中之島旅館石殿・石塔群	御玉 中之島	南北朝	中之島旅館の敷地に並べた石塔群。全て移設したもので、一部都甲荘から持ち込んだ話を聞く。特に文献2・19によれば暦応4年(1341)の石殿は天念寺本坊対岸の伽藍に所在したが、洪水で流出したと記述。	暦応4(1341)			12 C-5
210	光厳禅手石塔群	鍛冶屋町		鍛冶屋町の臨濟宗寺院光厳禅寺の境内に点在する石塔群である。				12 C-5
211	本町2区集会场南石塔	本町		桂川沿いの本町2区集会場の南にある五輪塔残欠である。				12 C-5
212	稲荷大明神社石塔群	新地		豊後高田市中部の主要地方道豊後高田安岐線沿いにある西日本土木橋の東にある稲荷神社内にあり。				12 C-5
213	野地石塔群	来縄 野地		野地地区内の御堂とその脇に石塔類がある。				12 D-5
214	正福寺裏墓地内石塔群	来縄 本名		正福寺北側に隣接している近世墓地内に五輪塔・一石五輪塔が並ぶ。				12 D-5
215	正福寺境内石塔群	来縄 本名		来縄地区の寺院である正福寺の参道と本堂周辺に五輪塔などの石塔が点在。石幢は龕のみ。				12 D-5
216	楢林入会墓地石塔群	来縄 界		楢林集落の東北隅にある近世墓地内にある混在する石塔群。				12 E-4
217	三次荘東南隅一石五輪塔	玉津 志手町3区		市道沿いの三次荘の裏にある近世城郭の土塁との間にあり。				12 B-5
218	長円寺の石塔	玉津 時上町254		豊後高田市の中心街を見下ろす台地の南側の墓地内に点在。				12 C-5
219	草地墓地その1五輪塔群	草地		墓地の中に五輪塔部材が置かれている。				12 A-6
220	黒松墓地石塔群	黒松	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材が広く点在している。中に、五輪塔を抱いた地藏像を浮き彫りにした塔婆(墓標?)がある。時代は近世か。				12 A-7

塔形及び個体数																										
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形				
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
	10	19	12	24									3	13	2				1	11						
					1						1							2								
10					1																2					
	15	12	17	5									1	1					2	4						
	1		2									1								10						
	1																			1						
	1	1																2		4						
		1	1															1								
2		1			1						1								3	5						
	23	25	26	23							1		2		1				8	14						
	1	3	2	2																3					丸彫り人物像6	
	2	2	1	3							2		1													
	4	7	7	4							1									3						
					1																					
	18	23	22	6									1	1						25					磨崖仏	
													1					1								
	5	2	3																	18						
	12	14	8	2															1	10					磨崖仏 磨崖板碑	
	1	1	6	3																2						
							1		1						1	1				2					磨崖種子 磨崖宝塔	
	3	5	7	3		1	1	1											1	8					磨崖仏	
17	27	41	36	20									1	4	1			1		8						
3																										
4	4	5	3	2		2	2					1		2	3				2							
						1	1	1	1			1	1	1	1	1										
						1	1		1	1										1	1					
	2	2	2																		1				1	
																			1							
					1														1							
	2																				2					
		1			1										1									1	1	
	1	3	1				1					1			1	2				1				1		
			1	1																						
	1		1																	1						
	3											1												1		
	8	4	1																	1						
	9	6	5										1	1						1				1		
	1	1		1																						
	1																				1					
1			1																	1						
	1	1	1																							
	14	23	13	5																						

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
221	春日神社五輪塔	草地 古城		春日神社境内に一石五輪塔が立っている。				12 A-7
222	函養舎石塔群	草地		函養舎東側に五輪塔部材と宝塔（国東塔）の蓮華座が置かれている。				12 A-6
223	焼野墓地五輪塔	新栄 焼野		墓地の中に空風輪が置かれている。				12 B-6
224	近広共同墓地石塔群	草地		墓地入口の六地蔵側に宝篋印塔や五輪塔が置かれ、墓地内の一角に五輪塔部材が 集積されている。				12 B-6
225	海神社板碑	草地		海神社拝殿横に板碑（h=108、w=44cm）が立っている。				12 B-6
226	安藤邸横五輪塔	草地 近広		安藤邸の横に火輪が置かれている。				12 B-6
227	草地墓地その2石塔群	草地		墓地の入口に石塔部材が並べられている。相輪は宝篋印塔に含めている。				12 B-7
228	美和下野部五輪塔群	美和 下野部		下野部集落の中央部の十字路近くに並ぶ。近世の可能性強い。				12 C-6
229	貴布祢神社石塔群	美和 美和		神社境内と裏手の畑の中に埋没しているのを散見。				12 C-6
230	伊東国弘氏北石塔群	美和 美和		美和の丘陵上から南の水田部へ下る道路の右手の土手の上にある。近世の庚申塔 などと立つ。				12 C-6
231	善幸寺裏石塔群	美和 上野部		善幸寺裏の五輪塔を中心とした石塔群。一部近世を含む。				12 C-6
232	善幸寺石塔群	美和 上野部		曹洞宗善幸寺の境内に立ち並ぶ石塔群。南の壁沿いに板碑が4基並ぶ。				12 C-6
233	上野部山神社境内 石塔	美和 上野部		美和の水田部を見下ろす丘陵の南端にある山神社境内に積上げ状態で確認。				12 C-6
234	青宇田画像石周辺 石塔群	美和 羅漢ノ下 1004番地	室町～戦国	青宇田画像石を展示収蔵する施設の周辺に五輪塔などが散見。磨崖仏・磨崖板碑 は崖面の岩に刻まれる。	明徳2(1391) 明徳4(1393) 至徳2(1385) 天正13(1585)	県有形 市有形		12 D-7
235	雷阿弥陀堂阿弥陀仏	美和 雷	室町～戦国	集落の外れにある阿弥陀堂内に石造阿弥陀如来が安置されている。国東塔の蓮華 座に座る。				12 C-7
236	都甲家墓地石塔	払田	戦国	払田の丘陵地上にある都甲家の墓地内に宝塔や五輪塔が点在。	天正6 (1578)			12 C-7
237	払田石塔群	払田		文献19の分布図に宝塔・五輪塔が所在と記載。畑地造成のため未確認。			19	12 C-7
238	貴船社五輪塔群	払田		都甲川沿いの払田の圃場を南に見下ろす丘陵上の神社の境内に散見。				12 C-7
239	北崎家墓地石塔群	荒尾 屋敷田		文献2の分布図に記載。都甲川流域の水田を南に見下ろす近世墓地に点在。				12 B-8
240	北崎氏邸前宝篋印塔	荒尾 八坂神社下		北崎氏邸の庭先に宝篋印塔の笠などが点在する。				12 C-8
241	八坂社石塔群	荒尾 八坂神社 牛願宮	戦国	八坂社参道の石段の左側に並べて置く。笠塔婆に年紀。	天文8 (1539)			12 B-8
242	薬師堂石塔群	荒尾		薬師堂の裏手の山林の中に一部埋没しながら多数点在。				12 B-8
243	寺ノ上殿臺板碑群	荒尾 寺ノ上50番地	戦国	妙覚寺裏山の頂上部に板碑が林立している。都甲狂地頭であった都甲氏の墓所と 言われ、「殿臺」の通称がある。	天文4(1545)天文18(1553) 天文11(1546)天正4(1576)	市有形		12 B-8
244	都甲氏墓地(妙覚寺) 石塔群	荒尾 妙覚寺		妙覚寺本堂西側の墓地内に点在。都甲氏の墓所。国東塔の反花と基礎部分も存在。				12 C-8
245	妙覚寺石塔群	荒尾 妙覚寺		妙覚寺(曹洞宗)山門周辺に点在。国東塔は、反花の上に塔身が乗り、笠と相輪の間 に宝篋印塔の笠が挟まる。				12 C-8
246	築地石塔群	築地		圃場内に架設の施設があり、その周辺に石塔を集積。圃場整備で移動した可能性 が強い。				12 C-8
247	鶴寄合所石塔群	荒尾 鶴		鶴寄合所の前に点在。周辺は圃場整備を実施。				12 C-8
248	鼎貴船社の石塔	鼎		鼎地区の貴船社の社殿の石垣下に点在する石造品の残欠。				12 C-8
249	東見庵国東塔・ 五輪塔群	鼎		文献19で国東塔・一石五輪の報告があるが、五輪塔12基分の内6基は一石五輪塔。 現状は鶏舎・山林・宅地造成等で確認できず。			19	12 C-8
250	大聖神宮寺内石塔群	来縄 北部		豊後高田・安岐線沿いにある大聖神宮寺の境内に石塔群が点在。				12 D-5
251	徳間池東入会墓地内 石塔群	来縄 雲林		徳間池のほとりにある貴船神社の東側の近世墓地内に五輪塔の空風輪を主体とし た部材が集積。				12 E-5
252	北の迫農道横石塔群	一畑 北の迫		北ノ迫地区の圃場整備後の圃場周辺の農道横の崖面に窪みを刻み五輪塔を置く。				12 E-5
253	泰雲寺石塔群	来縄 南部		泰雲寺の駐車場と境内に分かれてある。周辺は圃場整備事業が完了しており、駐 車場の石塔群はその際に出土したものを集積。境内の石塔類も集められたと想定。				12 E-5
254	古池西側の入会墓地 内石塔群	来縄 雲林		古池西側の大規模な入会墓地内に点在する。				12 D-6
255	森石塔群	森 中央部		森地区の集落北側の農道沿いに石槽類が集積し、立ち並ぶ。				12 D-7
256	智恩寺石塚五輪塔群	鼎 堂山		智恩寺墓所石塔群の農道を挟んで北側の竹藪の中に石塚があり、頂部と裾に五輪 塔の残欠。周辺の山林・畑にも五輪塔の残欠が点在。				12 D-7
257	智恩寺院主墓所 石塔群	鼎 堂山	戦国	文献19に智恩寺歴代院主の墓所。宝篋印塔塔身に梵字と年紀、板碑と自然石碑 (近世)に梵字と法名が陰刻と記述。	天文24 (1555)		19	12 D-7
258	智恩寺国東塔・ 石塔群	鼎 堂山	南北朝	智恩寺と山神社の境内に国東塔などの石塔が立つ。完全形の塔身には納経用の穿 孔がある。			県有形 (国東塔)	12 D-7
259	大利山報恩寺 宝篋印塔	来縄		文献18に応利山山頂の報恩寺観音堂横に相輪の先端を欠く宝篋印塔が1基と報告。			18	12 F-6
260	安東邸石塔群	佐野 丸山		丸山地区の安東邸の東北隅に宝篋印塔を最上部に水輪2個他を積上げ設置。				12 E-6
261	丸山三叉路石塔群	佐野 丸山		丸山地区の東側圃場中の三叉路の路傍にあり。				12 E-6
262	宮野邸入口 石塔群	佐野 西川		桂川の支流丸山川の左岸沿いの西川集落の南端にある宮野邸の前に立つ。				12 F-6
263	光門邸東墓地内 石塔	佐野 西村		光門邸の東の近世墓地内に水輪等の石塔部材が点在。				12 F-7
264	河内保育園東南隅 五輪塔	佐野 大村下		河内保育園の南東部に隣接す祠と記念碑周辺にあり。				12 E-7

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
265	塔ノ御堂石塔群	小田原 下平	鎌倉～室町	県道地蔵峠小田原線沿いに石段の入口がある。小田原の水田を南に見下ろす御堂の周辺に巨大な国東塔と板碑を中心に、五輪塔が散在する石塔群。国東塔は相輪・笠の一部と基礎・基礎を欠く。室内には中世に遡ると考えられる地蔵像2体がある。	延暦3(1310)	県有形市有形		12 E-8
266	白鳥神社境内石塔	小田原 寺田		寺田地区の桂川沿いにある白鳥神社の境内に建つ。移築石塔か。				12 E-8
267	内野入会墓地内五輪塔群	小田原 内野		小田原の内野地区を東に見下ろす入会墓地内に点在する。				12 E-8
268	浄周寺境内石塔群	小田原 上村		主要地方道豊後高田安岐線が上村集落で大きくカーブする道沿いにある浄周寺境内や周辺に点在する。				12 E-8
269	下黒土庚申塔脇石塔群	黒土 下黒土	室町	県道で削り残された丘陵上にコンクリートで固められて並べられている。				13 A-3
270	福真磨崖仏	黒土 下黒土	南北朝	真玉川の南岸にそそり立つ小高い岩場の中腹のテラスに磨崖仏がある。全て浅い彫りで不動明王・六観音・六地藏・毘沙門天像などを刻む。		県史跡	4	13 A-3
271	堀岩屋石仏・五輪塔群	大力 堀岩屋		堀岩屋普賢窟には象に乗った普賢菩薩を中央に単体丸彫りの3尊像を安置する。岩窟の入口には一石五輪塔を中心とした石塔群がある。				13 C-1
272	龍雲寺跡石塔群	築地		龍雲寺(曹洞宗)跡で、文献19に五輪塔類は境内、相輪の下部を欠く国東塔は門前の民家であると記述。寺域は草木が繁茂し、接近できず。				13 C-1
273	泉入会墓地五輪塔群	大力		県道地蔵峠小田原線で都甲川に流域の水田地帯に下りる道沿いの北側斜面の近世墓地内に点在。枯葉に埋没するが30基ほどある。				13 C-1
274	崇法寺石塔群	大力		大力の崇法寺の境内に石塔群が散見。国東塔の反花と基礎・相輪部分も存在。この国東塔と大きさが異なる請花部位もあり。				13 C-1
275	橋本宅石塔	大力		県道地蔵峠小田原線沿いの橋本邸の庭先に散見。				13 C-1
276	河野宅石塔	大力		県道地蔵峠小田原線沿いの河野邸の入口周辺に散見。				13 C-1
277	十王岩屋石仏・五輪塔群	大力		都甲川に合流する日平川にかかる県道地蔵峠小田原線の大力橋の上流にある十王洞内とその周辺に点在。				13 C-1
278	地持庵石塔群	大力	室町～戦国	大力の出口地区から西に丘陵の中腹を通る山道沿いに地持庵がある。石塔類はその周辺に林立・集積する。板碑は2連碑を含む。板碑と角塔婆に銘。	心永3(1396) 天正8(1578)			13 C-1
279	出口五輪塔群	大力		文献19に集落の東端の崖上に五輪塔5基分散乱と記述。現状は市道改良や草木繁茂のため確認できず。			19	13 C-2
280	都甲八幡宮国東塔	松行		国東塔の塔身と反花を再利用し、神社の拜殿前の手水鉢として存在。				13 B-1
281	松行国東塔	松行		文献19の分布図で都甲八幡社の東北方向の山中で確認されているが、現在は数で接近できず。			19	13 B-1
282	金宗院跡石塔群	松行 金宗院		大友氏の家臣で、屋山を居城とする吉弘氏の菩提寺。本堂は戦後倒壊し、石造物のみ残る。				13 B-2
283	テラ五輪塔群	松行 堀ノ内		戴星学園敷地の北側隅に点在。完存はなく、残欠が散乱。				13 B-2
284	戴星学園前の石塔群	新城 松行		戴星学園前の県道地蔵峠小田原線を挟んで南側の水田の畦に並ぶ石塔の残欠群。				13 C-2
285	花ノ木国東塔	長岩屋 花ノ木		文献19に、長岩屋川の北側の山中に立地、1基は相輪欠と記述。樹木繁茂のため確認できず。		19		13 B-2
286	福田庵跡五輪塔群	長岩屋 行園		福田庵は曹洞宗金宗院の末庵。現状は竹藪中で石塔の部材が積まれている。文献19に板碑は7連碑を含むと記述するが確認できず。				13 B-3
287	仏堂坊跡五輪塔群	長岩屋 行園		文献19に天念寺十二坊の仏堂坊跡と記述。現地は新しい家屋が建ち南西隅に石塔がある。			19	13 B-3
288	天念寺駐車場一石五輪塔	長岩屋 下長岩屋		天然寺前の長岩屋川沿いにある西側駐車場と道路の間に2基あり。				13 B-3
289	岩竹石塔群	長岩屋 岩竹		長岩屋の天然寺に通じる旧道と地蔵峠小田原線の交差点の北側にある。草に埋もれており、さらに多く埋没の可能性あり。				13 A-3
290	西の坊跡磨崖碑	長岩屋 下長岩屋	戦国	文献19では天念寺十二坊の西ノ坊跡で、道路に面した崖面に、三面の連続した仏龕に永禄5年・天正8年の年紀と5名の法名が陰刻または墨書されたものと、四面の仏龕の2カ所あると記述。今回調査のため確認できず。	永禄5(1562) 天正8(1580)		19	13 A-3
291	門の坊跡五輪塔群	長岩屋 下長岩屋		天念寺十二坊の門ノ坊跡推定地で、杉林内に五輪塔の部材が散乱。草木繁茂のため、不明部分もあり、確認された点数以上が埋没。				13 A-3
292	川中不動尊	長岩屋 上長岩屋	室町	岩屋川の巨石に不動明王を中心に狛狛羅童子・制迦童子の三体が刻まれる。				13 A-3
293	大満坊跡五輪塔群	長岩屋 下長岩屋 大満坊		文献19に天念寺十二坊の大満坊跡に塚状に積まれている。通称七郎ヶ迫五輪塔群。下部に石棺があると記述。			19	13 A-3
294	県道地蔵峠小田原線沿石塔群	長岩屋 下長岩屋		県道地蔵峠小田原線の北側、天念寺の駐車場の脇に建つ。工事中に発見されたものか。				13 A-3
295	妙仙坊跡磨崖碑	長岩屋 下長岩屋		文献19に天念寺十二坊の妙仙坊跡。磨崖碑は横長の仏龕を4区に分け慶長15年の年紀や法名を陰刻と記述。山林中で接近できず。			19	13 A-3
296	二本坊跡五輪塔群	長岩屋 下長岩屋		文献19では天念寺十二坊の二本坊跡で、五輪塔22基分、内31基(3基?)が一石五輪塔、宝篋印塔2基分の残欠、角柱塔婆1基と報告。草木繁茂のため確認できず。			19	13 A-3
297	天念寺本坊石造物群	長岩屋 下長岩屋	室町	講堂に向かって左手の崖裾に役者像が薄肉彫り、その前に五輪塔と宝塔で組まれた石塔が立つ。文献19では対岸まで含め、板碑・一石五輪塔・自然石板碑を加えているが、市有形の不動種子石碑以外は確認できず。	建武5(1338)	市有形(不動種子石碑)		13 A-3
298	忌堂岩屋石塔群	長岩屋 下長岩屋		文献19に忌堂周辺の石窟群と記述。円重坊跡の奥に位置するが今回は接近できず。			19	13 A-3
299	円重坊跡国東塔・五輪塔群	長岩屋 下長岩屋 円重坊	室町	文献19に天念寺十二坊の円重坊跡に四列に並び残ると記述。	建武5(1338)	市有形	19	13 A-3
300	龍門岩屋の宝篋印塔	長岩屋 下長岩屋		文献19に忌堂周辺の石窟群と記述。円重坊跡・忌堂の奥に位置するが、接近できず。			19	13 A-3
301	要坊跡宝篋印塔	長岩屋 下長岩屋		天念寺十二坊のひとつ要坊跡推定地。小堂内に木彫仏を中心に石仏4体が並び、両端の石仏が中世仏。周辺は文献19の調査時から整備され小堂は建替え。				13 A-3
302	重蓮坊跡石塔群	長岩屋 下長岩屋		文献19に天念寺十二坊のひとつ要坊跡と記述。長岩屋川に架かる重蓮坊橋の南側で、井ノ口氏宅の裏山。山林のため接近できず。				13 A-4
303	田口板碑	長岩屋 上長岩屋		文献19に長岩屋川の南側。薬師堂の前と記述。鹿除けの欄のため確認できず。			19	13 A-4
304	一ノ払五輪塔	長岩屋 一ノ払		文献19の分布図に県道地蔵峠小田原線沿いで確認されているが、現在は数で接近できず。			19	13 A-4
305	岩丸家墓地五輪塔群	長岩屋 一ノ払		文献19で県道地蔵峠小田原線沿いの岩丸家墓地内で確認されているが、現在は数で確認できず。			19	13 A-5
306	大國石塔群	新城		主要地方道豊後高田国東線沿いで、農道と里道に挟まれた空き地に置かれる宝篋印塔の笠と一石五輪の石造物群。				13 C-3
307	仏照寺五輪塔	新城		仏照寺を囲む土手の北西隅に立つ大型の一石五輪塔。				13 C-3
308	新城入会墓地西側五輪塔群	新城		新城地区の近世墓地が集落の北側斜面に形成される。その中でも西部の墓地群内に点在する五輪塔群。				13 C-3

塔形及び個体数																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形			
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇								
10																		1	1						石仏2
1		3				1	1		1	1															
	1																						2		
1	1	2	1	2							2	2		1	1										
	5	3	1	2															1	7					
																									磨崖仏
	1																						6	1	石仏3
	3	7	5	4														1	3						
																							1		
		3	2															1							
			2												1										
1			2																						
3	3	1	1	2							1								1	1					石仏多数
	4	17	12	3	1						7								3	2	1	1			
																		1							
20	3	2		1							3								3	1			2		
	1	3	1																	2	3				
	3	5	1	2				1																	
																			2						
	3	1	2	1																3	4				
	1	1																					7		
																							2		
																							2		
																									磨崖碑2
3	2	4	5	3																		2			
																									磨崖仏
	50	50	50	50																					
2	1	2	2	2																		2			
1																				1	1				磨崖碑1
																						3		1	
	2	2												2						1	1				磨崖仏 自然板碑 1
																		1	2	1					
44												1	1	1	1	1		8				19			
1					1																				
	1					1	1															1			石仏2
1	1		1															1	1	1					
1																				1					
1																									
2																									
							1																2		
																							1		
	5	5	5	5																					

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
309	新城入会墓地五輪塔群	新城		新城の長賢寺裏の斜面にある近世墓地の中に点在。				13 C-3
310	長賢寺九文代跡石塔群	新城		石塔群は本堂右側の裏手の畑。本堂前の石殿は文献5に1970年代に長安寺の登山口から移設と記述。			5	13 C-3
311	尾畑邸前石塔群	新城		主要地方道豊後高田国東線の旧道沿いの尾畑信義氏邸前にある一石五輪塔と板碑。				13 C-3
312	末田家五輪塔群	加礼川		長賢寺北側の丘陵斜面に営まれた末田家の墓地内に点在する石塔群。新城入会墓地の東に隣接する。板碑は春日社板碑を移設か？				13 C-3
313	春日社板碑	加礼川		春日社内では未確認。末田家五輪塔群内にコンクリートで固められた板碑があり、1993年以降に移設？。				13 C-3
314	鶴入会墓地磨崖碑	加礼川 鶴		文献19に岩肌に龕を掘り、2連碑を線刻と記述。今回は場所を特定できず。				13 C-3
315	岩男邸上石塔群	大力 浜田		都甲川にかかる浜田橋から南に見上げた、丘陵の北側斜面にある石塔群。				13 C-3
316	敷田五輪塔群	大力		浜田神社下。岩男家の北側に大量の五輪塔が集積。園場整備以前はさらに北側にあったが、南の現位置に移設。板碑は3基か2連基。				13 C-3
317	長安寺参道入口石造物	加礼川 屋山		長安寺参道の入口の鳥居周辺の石造物群。近世か？				13 B-4
318	長安寺谷の坊跡石塔群	加礼川 屋山		屋山地区入会墓地に通じる山道周辺に石塔類が散在。道路整備の影響か、文献19の板碑は不明。				13 B-4
319	長安寺オト様板碑群	加礼川 屋山	近世初頭	長安寺参道の石垣の上に同じ年紀の墓標風の板碑2基を含み数基乱立。	慶長15 (1610)			13 B-4
320	長安寺千蔵坊跡五輪塔群	加礼川 屋山		文献19に千蔵坊は長安寺末坊と記述。石殿に浮彫五輪塔。今回は立ち入れず。				13 B-4
321	長安寺引寺跡宝篋印塔残決	加礼川 屋山		長安寺参道北側に造成された長安寺末坊跡と想定される平場隅に残る。				13 B-4
322	長安寺外園五輪塔群	加礼川 屋山		文献19に長安寺北方100mの間道脇と記述。祖の推定地は現在駐車場・霊園になっており、確認できず。ただ、長安寺の北側にある駐車場を見下ろす墓地の入口に2基あり。数量は文献19参照。			19	13 B-4
323	長安寺六所権現園東塔	加礼川 屋山	鎌倉末～南北朝初期	長安寺の北側にある六所権現社の境内に立つ。完全形であるが、塔身の下は反花のみで、請花を欠く。		県有形		13 B-4
324	長安寺駐車場の浮彫五輪塔碑	加礼川 屋山		長安寺の北側にある駐車場の本堂側の巨石の岩陰に浮彫五輪塔と板碑がある。田染の安養寺と大応寺の参道にも簡略化した同様の碑あり。板碑には墨書の種子。				13 B-4
325	長安寺六所権現参道五輪塔群	加礼川 屋山		長安寺本堂北側の六所権現社に続く参道周辺に一石五輪塔が点在。文献19に五輪塔14基分とあるが確認できず。				13 B-4
326	長安寺本堂脇石塔群	加礼川 屋山	戦国	長安寺本堂の北側に並ぶ完全形の石塔群。宝篋印塔に紀年銘で市有形。	天正12 (1584)	市有形 (宝篋印塔)		13 B-4
327	長安寺屋山入会墓地五輪塔群	加礼川 屋山		長安寺下の屋山地区の南端の尾根上に入会墓地があり、その中に五輪塔類が散在。				13 B-4
328	琴の組石塔群	梅ノ木 琴の組		琴の組集落の上にある近世墓地内に点在。				13 D-3
329	琴の組一石五輪塔	梅ノ木 琴の組		文献19の分布図では宝篋印塔であるが、現状は林道沿いに一石五輪塔が1基立つ。			19	13 D-3
330	甘木集会所一石五輪塔	新城 甘木		主要地方道豊後高田国東線沿いにある甘木集落の中央にある集会所前にある一石五輪塔。				13 D-3
331	阿形家板碑と宝篋印塔	新城 甘木		甘木集落の東北隅にある阿形家の東側の旧道の傍に宝篋印塔と板碑が並び立つ。				13 D-4
332	姫塚五輪塔群	新城 百塚		文献19に佐屋ノ元農協支所の裏山中腹に塚状に一群をなすと記述があるが、山の斜面中腹に径約30mの範囲に石塔の部材が散在する。				13 D-4
333	百々塚五輪塔群	新城 百塚		文献19に姫塚五輪塔群の東側山裾に五輪塔6基分が塚状をなすと記述。農地整備と砂防事業のためか位置確認できず。			19	13 D-4
334	グリンダ石塔群	梅木		都甲川にかかる県道新城山香線の天川橋の南側、河野邸の前の小屋周辺に数基ある石塔類。				13 D-4
335	ゆずりは両面板碑	梅ノ木 樺	鎌倉末期～南北朝	県道新城山香線沿いに立つ弥陀釈迦種子両面板碑。安山岩製で、両面に3文字の梵字が刻まれる。道路工事に伴って本来の場所からは少し動いている。		県有形		13 D-4
336	樺の岩上五輪塔	梅ノ木 樺		樺集落内の巨岩の上に立つ。				13 D-4
337	大師堂石塔群	梅ノ木 樺		県道新城山香線沿いの大師堂から田染寄り。道路沿いに五輪塔・宝塔・宝篋印塔がまとまって立つ。また小堂前の道路切り通し上にも板碑と五輪塔群。現状は道路改良工事で変化している。2ヶ所の石塔群。				13 D-4
338	樺山神社宝篋印塔	梅ノ木 樺		文献19に山神社の参道沿いにあると記述。山林化して接近できず。				13 D-4
339	山口古壘石塔群	梅ノ木 樺		長安寺の外坊、西ノ坊推定地に南隣。自然石による基壇上に五輪塔3基を中心に五輪塔・板碑が配置される。文献19では中央の空風輪を欠く五輪塔に梵字を陰刻し、水輪内に火葬骨を納めると記述。				13 D-4
340	ヤゴロウ板碑	梅ノ木 庵ノ迫		庵ノ迫地区の西側を流れる谷川の西に園場整備された水田が広がる。この水田を囲む農道の西側に板碑があり、基部で折れ、倒れている。				13 D-4
341	庵ノ迫お堂石塔群	梅ノ木 庵ノ迫		庵ノ迫集落の西側の谷を渡った場所にある御堂の周辺に石塔類が点在。				13 D-4
342	庵ノ迫入会墓地五輪塔群	梅ノ木 庵ノ迫		庵ノ迫地区の奥にある近世墓地内に点在する。				13 D-4
343	中州の山五輪塔群	梅ノ木 庵ノ迫		庵ノ迫集落の西側の谷を渡った位置にある小山の山頂部。五輪塔類が枯葉に埋もれている。石幢は基礎のみ。				13 D-4
344	庵ノ迫板碑	梅ノ木 庵ノ迫	南北朝	庵ノ迫集落の西側の谷沿い旧道があり、その道沿いに二連碑板碑1基と単板碑2基が立つ。旧道は近年使用されておらず、周辺は山林化。二連碑板碑の梵字は墨書である。二連碑の銘は都甲地域最古。	正中2 (1325)	県有形		13 D-4
345	河野家板碑・五輪塔群	梅ノ木 庵ノ迫		庵ノ迫集落の東側尾根。文献2に庵ノ迫集落の中世墓かと記述。山林で接近できず。				13 D-4
346	道脇寺墓所五輪塔群	加礼川 中平	戦国	文献19と文献26に報告があり、入口の無縫塔に天正5年の年紀。集落が終わる位置に建つ御堂の東側山道を登ると山林の入口。	天正5 (1577)		19・26	13 C-4
347	中平一石五輪塔	加礼川 中平		高田国東線沿いにある下ノ坊石塔群横から上に続く里道と斜面沿いに東西に延びる里道との三叉路にある一石五輪塔。				13 C-5
348	下ノ坊跡石塔群	加礼川 中平		安藤邸前の主要地方道豊後高田国東線沿いにある石塔群。長安寺の外坊である下ノ坊跡の伝承がある。				13 C-5
349	尾上鼻栗堂石塔群	一畑 夏吉		文献19に板碑2基に梵字の陰刻あり。都甲川に東から突出した尾根上である。園場整備で景観が変化しており、ブロック造りのお堂が建ち、板碑2基を確認。			19	13 C-5
350	葦の坊跡五輪塔群	加礼川 新田		集落の北斜面にある入会墓地の上方に観音堂ある。石塔群はさらに約50m上方の山林中に立つ。観音堂周辺をはじめ石塔群の周辺には一石五輪塔が点在する。五輪塔群は落葉や土砂に埋没している。				13 C-5
351	加礼川新田五輪塔	加礼川 新田		五輪塔が1基建つが、道路新設で当地に移転の可能性が高い。				13 C-5
352	三島社参道五輪塔群	加礼川 新田		参道階段の周辺と隣接する墓地内に点在。				13 C-5

塔形及び個体数																													
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形							
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇												
10	10	10	10	10																		10							
	7	9	7	6									1	1	1	1						1					1		
																						1	1						
10	10	10	10	10																		1							
																													線刻板碑
	5	2	3																										
50																						4	10						
													1															1	
	3	8	8	7																		2							
																						2							
																						2	6					1	
										1																			
	10	10	10	10																			8						
																						1							
																							1						浮彫五輪塔
																							7						
1		1	1		2	1					1											2	1	1					
	4	1	1	1																			4						
	3	1	3																				1						
					1																		1						
					1																	1							
	6	14	7	6																			1						
	3	1	1	1																			1						
																						1							
1																													
10	5	5	5	5	2							2			1						2	2	5	2					
					1																		1						笠塔婆
3	7	7	1	5								1										6			1				
																						1							
	1						1																						
	10	10	10	10																			5				1		
	5	5	5	5		1	1																				1		
																							3						
																							4	9					
10	5	5	5	5																			1	2					
																							1						
	1	1	2																				4	1			1		
												1				1						3	1						
1	10	10	10	10									1										5						
1																													
1	1	1	2	1																			10						

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料 の年号	指定 区分	参考 文献	掲載 地図 番号
353	北の迫石塔群	加礼川 北の迫		主要地方道豊後高田国東線の並石隧道の西側の交差点にあり。				13 C-5
354	北の迫農道横石塔群	一畑 北の迫		北ノ迫地区の圃場整備後の圃場周辺の農道横の崖面に窪みを刻み五輪塔を置く。				13 C-5
355	原・迫田川沿い 石塔群	小田原 原		仲井邸の南側に社があり、周辺に十王像、北側の仲井邸の壁沿いに五輪塔の残欠群が並ぶ。				13 E-1
356	原国東塔・石塔群	小田原 原		原集落の北側、県道地蔵峠小田原線との間の圃場中に塔身を欠く国東塔の残欠を中心に五輪塔・一石五輪塔が立ち並ぶ。通称「殿墓」。				13 E-1
357	原集落内石塔群	小田原 原		原集落の市道沿いに並ぶ染田・市丸氏宅とその周辺に点在。				13 E-1
358	山ノ下石塔群	蔭 山ノ下		桂川の支流茂原川沿いにある山ノ下集落の山神社裏の五輪塔群。別材が組みあわされて2基立つ。石幢は地蔵のみ。				13 E-1
359	地藏堂石造物群	蔭 宮ノ前・中村		桂川の支流蔭川沿いの宮ノ前集落にある。お堂内に地藏を中心に三体の仏像を刻む磨崖仏があり、その横に板碑をおいている。				13 F-2
360	宮ノ前石塔群	蔭 宮ノ前・中村		桂川の支流蔭川沿いの宮ノ前集落の西端にある。巨岩に梵字を刻み、その周辺に五輪塔・一石五輪塔を置く石塔群。				13 F-2
361	了源庵五輪塔	蔭 堀口		文献9に中村のお堂（了源庵？）に五輪塔数基と報告。			9	13 E-2
362	其ノ田板碑	蔭 其ノ田	南北朝	板碑2基と五輪塔8基で構成。圃場整備と河川改修で蔭川沿いの当地に発掘調査後に移設。	建武1 (1334)	県有形		13 E-2
363	南之坊跡石造物群	蔭 中村	戦国	富貴寺と川を挟んで南側にある。板碑を確認したが、浮彫五輪塔碑は未確認。	永禄10(1567) 天正15(1587)			13 E-3
364	釈迦堂跡五輪塔群	蔭 中村		富貴寺の西側に位置し、食堂駐車場から斜面を登った中腹にある石塔群。地上には板碑や五輪塔があるが、さらに埋没している可能性が高い。また、下の道路沿いの民家の裏庭にも宝塔の部材があり、斜面を転落したものであろうか。				13 E-2
365	富貴寺石造物群	蔭 中村	鎌倉～近世初頭	富貴寺の参道に石殿や石幢、国宝の大堂の西側に国東塔・笠塔婆が配置され、裏側や東側には数多くの五輪塔や一石五輪塔が点在する。大堂外に十王像、内部に地藏像（応安元年）があるが、何れも近くから持ち込まれたもの。	仁治2(1241) 仁治4(1243) 文永5(1268) 延文5(1361) 応安3(1368) 応安3(1370) 明応6(1497) 慶長8(1603)	県有形		13 E-2
366	妙蔵坊五輪塔群	蔭 中村		旧道から入る山道を少し登った位置にある一石五輪塔と五輪塔で構成される石塔群。多に比較すると整っており、五輪塔は12基あり、6基のみ空風輪を欠く。				13 E-3
367	富貴寺西之坊跡 石塔群	蔭 中村		蔭川を挟んで、富貴寺の対岸にある西ノ坊の石塔群。近世墓の中に五輪塔・一石五輪塔があり、周辺に石造品の部材が積み、草や落葉・土に覆われている。				13 E-3
368	柏木家石塔群	蔭 中村		県道新城山香線沿いの富貴寺入口から300m東に過ぎた場所にある柏木氏邸の庭先に石塔の一部が点在。				13 E-3
369	陽平平野園板碑	蔭 陽平	南北朝	県道新城山香線を富貴寺方向から進み、集落過ぎから左の旧道に入り、尾根を回るカーブの切り通しの裏に板碑を中心に石塔類が散在する。多くは埋没している可能性が高く、2基に紀年銘がある。	建武2(1335) 建武4(1337)			13 E-4
370	蔭陽平の一石五輪塔	蔭 陽平		県道新城山香線沿いの南側水田中に立つ。空風輪部を欠くが、他の部位は、立体的に刻まれている。				13 E-4
371	稲荷社一石五輪塔	横嶺 岩脇		主要地方道豊後高田安岐線から分岐し田染横嶺の山麓を通り、田染小崎に抜ける新設道路の池部入口バス停の南東の稲荷社の傍にある一石五輪塔。				13 F-1
372	七田宝篋印塔・ 五輪塔群	池部 七田		桂川北側の丘陵裾部の林中に五輪塔の集まった場所があり、少し離れたところに宝篋印塔が1基立つ。				13 F-1
373	岩脇寺石造物群	横峰 岩脇	室町	岩脇寺の裏の六所権現に磨崖仏と宝篋印塔1基があり、五輪塔や宝塔の部材が積み込まれている。	応永33 (1426)			13 F-1
374	岩脇五輪塔	横峰 岩脇		田染横嶺の岩脇の芹川邸の庭先に立つ五輪塔。空風輪と火輪の間に露盤が入る。国東型五輪塔とも言う説あり。周辺にも五輪塔の部材が積み散乱する。				13 G-1
375	泉源寺観音堂 石造物群	横嶺 泉源寺		都甲邸前に室町期の石造観音像を祀るお堂があり、その周辺に五輪塔が点在する。観音像は、岩座の上に蓮華座を置き、別石の観音像を据える。				13 G-1
376	貴福庵五輪塔群	横嶺 泉源寺		田染横嶺の泉源寺にある貴福庵の前に組合された五輪塔が数基立つ。				13 G-1
377	泉源寺五輪塔	横嶺 泉源寺		桂川の支流小崎川沿いにあつたと伝えられる泉源寺の石塔群が残存。その中に五輪塔を含む。				13 G-1
378	泉日庵石塔	横嶺 横嶺		泉日庵跡伝承地に国東塔の残欠がある。山林のため未確認。				13 G-1
379	清福堂五輪塔	池部 荒平		文献9では松ノ木集落内の清福堂に五輪塔1基。周辺にも五輪塔群とあるが、位置を確認できず。			9	13 G-2
380	荒平薬師堂石幢	池部 荒平	南北朝	文献9では松ノ木集落内の西北端の薬師堂に年紀入りの石幢とあるが、場所を確認できず。	永和3 (1377)		9	13 G-2
381	河野邸前 五輪塔残欠群	池部 荒平		注連縄を張ったコンクリート貼りの神地に五輪塔の部材が点在。				13 G-2
382	大平自然板碑	池部 大平		路に通じる県道新城山香線沿いの田染池部大平地区に立ち並ぶ。近世か？				13 G-2
383	大師堂石塔群	池部 松ノ木		田染池部の桂川右岸の大師堂横の祠の台に水輪が混在し、脇にも水輪と一石五輪。				13 G-2
384	楳林渡辺家墓地 五輪塔群	田染横嶺 楳林		集落西側の山林斜面に営まれた近世・近代墓地内に五輪塔の部材が点在。				13 G-1
385	河野邸横石塔	小崎 小崎		田染小崎の河野邸東にある五輪塔の残欠。				13 H-1
386	河野家古壘石塔群	小崎 小崎	戦国	田染小崎の生活改善センター西横のゲートボール場の西に隣接する古壘。石塔類が積上げられる。	天文9(1540) 弘治2(1556)			13 H-1
387	延壽寺石塔群	小崎 小崎	戦国	田染小崎の集落内にある浄土真宗本願寺派の延壽寺の北側に並ぶ石塔群。石殿は応仁2年の紀年銘があり、県有形である。	応仁2 (1468)	県有形 (石殿)		13 H-1
388	元宮磨崖仏	真中 宮田	鎌倉～南北朝	県道新城山香線と主要地方道豊後高田安岐線の交差点北側100mの位置にある国指定の5体の磨崖仏。				13 G-2
389	安養寺石塔群	真中 中原	戦国	田染真中の中村に所在する安養寺境内の石塔群。東側に桂川が流れる。平成26年8月現在は無住化。	永禄10 (1567)			13 G-2
390	大門坊跡石塔群	真中 大門		本堂跡の南側と北側の2群に分かれて立てられている。北側は近世の石造地藏を中心に五輪塔・一石五輪塔・板碑が立ち並び、南側は三体の磨崖仏のある岩の周辺に五輪塔・一石五輪塔・板碑が立つ。				13 H-2
391	大応寺石塔群	真中 大門	戦国	参道入口に安養寺と類似する五輪塔板碑（文献9で長野観音寺跡旧在と記述）があり、本堂北側を中心に境内の各所に五輪塔・一石五輪塔・石幢などが点在。平成26年5月現在無住。	天正15 (1587)			13 H-2
392	長野観音寺跡石塔群	真中 長野	戦国	桂川の支流小崎川を西に見下ろす丘陵斜面、田染真中と小崎の境界にあつた観音堂の石塔群。	天正9(1581) 天正11(1583) 天正14(1586)			13 H-1

塔形及び個体数																													
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形							
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠									塔身	基礎	基壇				
			1								1			1						4									
		2	2																										
	3	2	3								2									1								十王像・地藏像	
	1	7	15	9											1				1	2									
2		1	1	1																									
2		1	1																	1						1			
																				1								磨崖仏	
	2	4	3																		3							磨崖梵字	
		1		1																									
8																					2								
																					1								浮彫五輪塔碑
2	1	1												1							2								
50																			2	4					1	1		笠塔婆5(在銘)・地藏像・十王像	
12																					7								
1	10	10	10	10																	3								
		1	1											1															
1	2	5	4	4							1	1								8	2								
																					1								
																					1								
	5	5	5	5	1																								
		1	1		1									1	1													磨崖仏	
1	10	10	10	10																									
		4		1																									石仏
	2	3	5	5																									
3																													
																				1									
5																													
																											1		
	5	1	1																		1								
																					4								
																						1							
5	1		1	1																									
1																													
10																													
	1	2	1		2						1										4						1		
																													磨崖仏5
																					1					2			浮彫五輪塔碑
20																					4	15							磨崖仏4
10																			1	4	10			1	1	1		浮彫五輪塔碑	
4											1																		線刻五輪塔

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
393	穴井戸観音堂一石五輪塔	真中 間戸		田染間戸の穴観音のお堂に1基のみ一石五輪塔。				13 H-1
394	間戸の宝篋印塔	真中 間戸		田染真中の間戸地区生活改善センターの西側に横に立つ小型の宝篋印塔。同地区の江藤家から移設の伝承あり。				13 H-2
395	間戸寺跡石塔群	真中間戸園地内		田染真中の二宮八幡宮東側の広場内にある二重塔を中心に点在する石塔群。				13 H-1
396	宝珠院跡五輪塔	田染小崎		文献9では寺院跡の石垣・礎石が残る。国東塔は昭和初年に売却と記述。山林樹木繁茂のため未確認。			9	13 H-1
397	釈迦堂跡石塔群	真中 草場	南北朝	田染真木の桂川左岸の畔に立つ宝篋印塔を中心に五輪塔の残欠等が点在。宝篋印塔の塔身は近世か。	永和5(1379)	市有形(宝篋印塔)		13 H-2
398	金福寺跡石塔群	上野 鶴居		田染上野の東側の丘陵上の集落内にあった寺院跡。現在は御堂のみが建つ。石塔は、その周辺の近世石塔群の中に点在。				13 H-2
399	中恩寺石塔群	相原 中屋敷		田染相原の西原集落の東端にある御堂が中恩寺名残で、室内には石造十王像や観音像が祀られる。境内に宝篋印塔や石幢はじめ、五輪塔部材が残る。				13 G-3
400	吉多家宝篋印塔	相原 内原	戦国	田染相原の本谷集落内の吉多邸の西側畑中に1基のみ建つ。	天正11(1583)			13 H-3
401	聖楽寺跡石塔群	相原 下村	南北朝	田染相原の下村集落にあった聖楽寺跡の参道の南側斜面が三段に造成され、多様な石塔類を数多く設置。				13 G-3
402	大内岩屋宝篋印塔・五輪塔群	一畑 並石		並石ダムの上流、並石集落の東方に崖面があり、その裾に五輪塔、前に宝篋印塔が立ち、周辺に水田中にも五輪塔。				13 B-6
403	梅遊寺板碑と周辺石塔群	一畑 かげ平	室町	無住となつている。本堂の西側に建武元年・応永21年の在銘の板碑、北側に墓所があり五輪塔が多数点在。	建武1(1334) 応永21(1414)	県有形(板碑)		13 B-6
404	護摩堂跡五輪塔群	嶺崎 大堂		文献9では五輪塔と一石五輪塔が13基散在と記述しているが、木材の伐採と林道建設のため、重機が動いており確認できず。				19 A-8
405	烏帽子観音堂宝篋印塔	平野 陽平		文献9では烏帽子岳山頂近くに観音菩薩立像が祭られた方二間半の堂宇があり、周辺に石塔が点在しているようである。山林樹木繁茂のため未確認。			9	20 A-1
406	福寿寺薬師堂磨崖国東塔	平野 陽平	室町	田染平野の陽平にある磨崖国東塔と周辺の五輪塔の残欠。	永享5(1433)	県有形		20 A-1
407	真木大堂古代文化公園内石塔群	真木 真木		田染真木大堂内の古代公園内に設置された石塔群。本来の所在は不明。	永禄10(1567) 天正6(1578) 天正20(1592)	市有形(国東塔・庚申塔)		20 A-2
408	真木大堂周辺石塔群	真木 真木		田染真木大堂古代公園の南側の山林内に点在する五輪塔を中心とした石塔群。草叢に隠れるものを含めるとさらに多数と推定。				20 A-2
409	真木大堂前五輪塔群	真木 真木		県道新城山香線沿いにある真木大堂前五輪塔の残欠。				20 A-2
410	随願寺跡石塔群	真木 真木		田染真木の県道新城山香線沿いにある田染盆地を見下ろす随願寺跡に建つ御堂の周辺に点在する石塔群。				20 A-2
411	黒草地蔵堂五輪塔	真中 黒草		文献9には昭和20年銘の石祠中に木造漆色の地藏菩薩立像と五輪塔5基散在と記述があるが、確認できず。			9	20 A-2
412	間魔堂跡石塔群	真木 真木		田染真木大堂の駐車場南側の水田中に積み上げられた石塔の部材群。圧倒的に空風輪が多く50個以上。				20 A-2
413	城山薬師堂石造物群	真中 城山	南北朝～室町	田染上野の水田地帯の南にある城山の中腹に、四面に仏像が刻まれ巨石(市有形)があり、その周辺に国東塔(県有形)・宝篋印塔・五輪塔が立ち並ぶ。		県有形(国東塔) 市有形(四面石仏)		20 A-2
414	上野高取五輪塔群	上野 高取		田染で最大の水田面積を占める上野地区の南端の農道の端に並べられた石塔群。圃場整備中出土。				20 A-2
415	上野阿弥陀堂宝篋印塔	上野 櫃樋口		田染で最大の水田面積を占める上野地区の南端にあるブロック堀の覆屋の石塔群。				20 A-2
416	慈恩寺入口石塔群	平野 大曲		田染平野の大曲の桂川南側にある慈恩寺入口の三叉路の畑の斜面に五輪塔の部材が点在。				20 A-2
417	平野地蔵堂一石五輪塔	平野 大曲		田染上野地区の南端から桂川を渡り、田染平野地区に入った場所にある岩屋利用の地蔵堂にある一石五輪塔。				20 A-2
418	鍋山磨崖仏	上野 高取	平安後期	桂川を南に見下ろす位置の崖面に彫られた不動明王・矜羯羅童子・制多迦童子の三体がある。		国史跡		20 A-3
419	金高墓地石塔群	平野 大曲	南北朝～戦国	田染平野の大曲にある薬師堂前の石塔群。国東塔を中心に五輪塔多数。中に風輪に蓮弁文があり宝塔に分類。	永和1(1375) 応永27(1420) 文明9(1477) 文明11(1479)	県有形(国東塔)		20 B-2
420	高岩五輪塔群	平野 高岩		文献9には、県道新城山香線が通る熊野磨崖仏のある谷の西側の尾根を挟んだ谷の西側尾根上に「高岩五輪塔群23基」と記述があるが、該当山中の尾根沿いを探索するが確認できず。			9	20 B-2
421	後藤栄吉氏墓地石塔群(熊野庄屋墓地石塔群)	平野 登尺	室町	県道新城山香線から直線的に南に続く熊野磨崖仏の参道の左手の尾根上の石塔群。後藤氏邸の前にあり、管理している。	応永33(1426)			20 C-2
422	熊野墓地石塔群	平野 近道	南北朝・戦国	熊野磨崖仏の駐車場の西側の尾根の山林の中にある国東塔を中心に、五輪塔・一石五輪塔・宝篋印塔・二連板碑2基を含む板碑が立ち並ぶ古墓。胎蔵寺墓地と隣接。	応安8(1375) 天永7(1527) 天文6(1537) 天文10(1541) 天正15(1587)	県有形(国東塔) 市有形(国東塔)		20 C-2
423	熊野磨崖仏	平野 熊野	平安後期	田染平野にある熊野地区の山中の南西向きの岸壁に、巨大な不動明王と大日如来が刻まれている。		国史跡		20 C-2

塔形及び個体数																												
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形				
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎									基壇			
																					1							
					1																							
2																						1					二重塔1	
1															1						1							
5											6															1		
		20	8	7	1																					1	1	自然石板碑
					1																							
5	1	2	1		1																9	8			1	1	笠塔婆1	
1	5	8	3	1	1																	1						
1	3	5	2	1								1	5	5	6	5	5	3			4	2	2					
																											1	
					1																					1	自然板碑笠塔婆	
	2																				1						磨崖国東塔	
18		7	5	1	1						2										2	7	7			1	1	
50																												
		1	3																									
		2		1			1															1						
5																												
	50	5	3																									
1			1								1										1	2					巨石に四面磨崖仏	
	3	3	1	1																		1						
2							1			1												1						
	5	2	1																									
																						1						
																											磨崖仏3	
30												2									1	1					3	
23																												
10					1						1												5					
42					3																5	3					4	
																											磨崖仏	

番号	名 称	所 在 地	造 立 時 期	概 要	在 籍 資 料 の 年 号	指 定 区 分	参 考 文 献	掲 載 地 図 番 号
1	清正公神社宝篋印塔	松原	南北朝～室町	達磨山の山頂に存在する完存の宝篋印塔である。清正公神社の背後に位置する大型品である。基礎前には相輪の残欠がみられ、この宝篋印塔の破片とは別のものも存在する可能性がある。			8	2 C-1
2	虎ヶ塔宝篋印塔	松原	南北朝～室町	八衢神社が存在する海を見下ろす小高い丘に完存の宝篋印塔が存在する。塔身には牽納孔がみられる。			8	2 C-2
3	松原石塔群	松原	戦国	道路脇の畑中に石塔部材が重ねられている。				2 C-2
4	海岸寺石塔群	北浦	戦国～近世初期	本堂横の墓地内や墓地の石垣下に石塔部材がみられる。				2 C-2
5	真戒寺石塔群	南	南北朝～戦国	真戒寺境内に石塔部材が散在する。				2 C-2
6	須賀宝篋印塔	須賀	南北朝～室町	3～4基の宝篋印塔の部材が重ねられている。笠の段型のみ部材は分割整形によるものである。これらは真戒寺から持ち込まれたと伝えられている。			8	2 C-2
7	城山五輪塔	北浦	戦国	集落から城山へ登る山道横の畑の石積みの中に五輪塔火輪が積まれている。				2 C-2

塔形及び個体数																															
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形							
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇														
					1	1																									
					1																										
	1		1					1																							
	2										1		1							1											
	1	1	1		1	2	1	1					1	1																	
						2		1	1																						
		1																													

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
1	竹田津家国東塔と周辺石塔群	国見町 竹田津	戦国	竹田津家の墓地に石塔群が並べられている。市有形の国東塔3基は相輪が本来のものか疑わしい。2基は組合せが本来のものと思われるが、他の1基は笠が別材である。		市有形(国東塔)		1 H-5
2	祇園社五輪塔群	国見町 竹田津 祇園社	戦国～近世初期	社地の一角に石塔が集められている。他所から集められたものであろう。				1 H-4
3	武多都神社宝篋印塔	国見町 武多都神社	南北朝～室町	拝殿横の石鳥居の袂に苔むした大型の宝篋印塔の笠のみが置かれている。他所から持ち込まれたものであろう。				1 H-5
4	伊美集落墓地石塔群1	国見町 伊美	室町～戦国	集落墓地にある地藏堂の地蔵の両側に3組のものと思える丸彫りの石造十王が置かれ、地藏堂の周りに中世石塔の部材が置かれている。				1 G-7
5	慈雲寺裏墓地五輪塔群	国見町 伊美	戦国	慈雲寺裏の丘陵斜面に平坦地を造成し、歴代住職墓地や野田家墓地が営まれているが、墓地中に中世石塔の部材が散在する。野田家墓地の石幢は龕部のみ、国東塔は基礎反花・請花のみである。				1 G-7
6	慈雲寺国東塔	国見町 伊美	室町～戦国	慈雲寺裏の丘陵斜面に平坦地を造成し、石祠とともに並べて立てられている完存の国東塔である。塔身の首には奉納孔も見られる。		市有形(国東塔)		1 G-7
7	別宮社国東塔	国見町 伊美	鎌倉	境内の林中に単独で立てられている県有形の国東塔である。明治の廃仏毀釈で解体され、放置されていたものを、昭和初期に復元され、基礎・基壇が補われたものである。	正応3 (1290)	県有形(国東塔)	24	1 G-7
8	伊美集落墓地石塔群2	国見町 伊美	戦国	集落墓地の最下段に2基の石塔が並べられている。				1 H-6
9	伊美集落墓地石塔群3	国見町 伊美	戦国	整理されて並べられた近世墓碑中に中世石塔が並べられている。				1 H-7
10	中村家石塔群	国見町 中 東中	戦国	累代墓の横に石塔部材が重ねられている。				1 H-7
11	東中石殿と周辺石塔群	国見町 中 東中	戦国～近世初期	観音堂境内端に市有形の石殿が3基並べられている。各石殿とも表裏2体ずつ、左右1体ずつの合計6体の十王が陽刻されている。このほかに堂の横や裏に石塔部材が散在する。		市有形(石殿)		1 H-7
12	秋葉神社参道石塔群	国見町 中 東中	戦国	秋葉神社参道横に石塔部材が置かれているが、本来の位置ではないものと思える。				1 H-7
13	中集落墓地石塔群	国見町 中	戦国	整理された近世墓地中に石塔が並べられている。板碑のうち1基は3連碑である。				1 H-6
14	池田家石塔群	国見町 中	戦国	個人宅の一角に石塔部材が重ねられている。				1 H-6
15	田中神社板碑と周辺石塔群	国見町 中	南北朝～近世初期	本殿横に市有形の連碑とともに石塔部材が置かれている。連碑は「城屋敷」から持ち込まれたと伝えられており、墨書がみえる。		市有形(連碑)		1 H-7
16	東中五輪塔群	国見町 中 東中	戦国	小堂横の近世石造物群の中に中世の石塔部材が積み重ねられている。				1 H-7
17	櫛来社国東塔	国見町 古江	南北朝	境内に単独で立てられている市有形の国東塔である。岩戸寺国東塔の退化型式の形態をもつ国東塔である。		市有形(国東塔)		1 H-8
18	竹田津集落墓地五輪塔群	国見町 竹田津	戦国～近世初期	近世の墓碑の並びの奥に中世の石塔が集積されている。				6 A-4
19	竹田津家五輪塔群	国見町 竹田津	戦国～近世初期	個人宅の一角に石塔部材が集められている。				6 A-4
20	大光寺墓地石塔群	国見町 竹田津	戦国～近世初期	大光寺に隣接する墓地中に石造物が点在したり、集められて並べられているが組合せは本来のものでない。国東塔の数は基礎のみである。				6 A-5
21	大光寺石塔群	国見町 竹田津	南北朝～近世初期	山門横に国東塔と宝塔、参道横に宝篋印塔、本堂裏の崖上に国東塔がそれぞれ完存の石塔が置かれている。このほかに、参道横に市有形の近世の国東塔があるが、基礎のみ南北朝期の宝篋印塔の基礎を再利用している。		市有形(国東塔)		6 A-5
22	竹田津家石塔群	国見町 竹田津	戦国～近世初期	庫裏の一角に小さな地藏堂があり、その周辺に石塔部材が置かれている。				6 A-4
23	吉田家国東塔	国見町 竹田津	戦国	庭先に同規模・同型式の国東塔が2基建てられている。1基は完存、もう1基は相輪の一部が欠損している。塔身にはいずれも奉納孔が穿たれている。		市有形(国東塔2)		6 A-4
24	井上地藏堂石塔群	国見町 竹田津	戦国～近世初期	小堂の後ろに近世の石造物群とともに並べられているが、組合せは本来のものではない。1基のみある戦国期の国東塔は完存で組合せも本来のものである。				6 A-4
25	一石六地藏	国見町 竹田津	戦国	近世の石造物とともに市有形の一石六地藏が置かれているが、石幢の龕部である。		市有形(一石六地藏)		6 A-4
26	鬼籠国東塔と周辺石塔群	国見町 鬼籠	室町～戦国	墓地中に市有形の国東塔と石塔部材が存在する。国東塔は相輪を欠く完存で、塔身には奉納孔が穿たれている。		市有形(国東塔)		6 A-5
27	普門寺国東塔と周辺石塔群	国見町 鬼籠	戦国	普門寺の歴代住職墓地が丘陵根先端に狭い平坦地を造成して営んでいるが、この中に市有形の完存の国東塔2基と戦国期の石造物群がみられる。		市有形(国東塔3)	26	6 A-5
28	普門寺宝篋印塔と周辺石塔群	国見町 鬼籠	戦国	普門寺の境内の一角に石壇を築き石祠や石仏とともに石塔を並べているが、この中に紀年銘をもつ市有形の完存の宝篋印塔1基と戦国期の石造物群がみられる。	永祿5 (1562)	市有形(宝篋印塔)	26	6 A-5
29	愛宕様石塔群	国見町 西方寺	戦国	愛宕様と呼ばれる小堂の横に大岩があり、その上に石塔が置かれている。また、その上の段に明王像の石仏の頭部だけが置かれている。中世のものであろうか。				6 C-5
30	西方寺下墓地石塔群	国見町 西方寺	戦国	丘陵根先端に安山岩の板石を2m四方敷きつめた上に国東塔と無縫塔を並置しており、その下方の丘陵斜面に造成した平坦地に石塔部材が大量にみられる。計上した数より、枯葉に埋もれているものも多く、実数ははるかに上回るものと思える。無縫塔は完存1と塔身3、国東塔は完存1と蓮華座基礎3である。				6 C-5
31	西方寺上墓地石塔群	国見町 西方寺	南北朝～戦国	丘陵根斜面に狭い平坦地を造成し、近世墓地を営んでいるが、墓地中に戦国期の石塔が散在する。なお、この墓地の入口付近に上部が缺られ、また、奉納孔をもつ国東塔と思われる宝塔塔身が単独でみられる。				6 C-5
32	清浄光寺宝篋印塔と周辺石塔群	国見町 西方寺	南北朝～戦国	西方寺講堂跡の空間の参道石段横に市有形の宝篋印塔と国東塔・板碑等がある。国東塔には奉納孔があり、相輪は横に置かれているものが本来のものであろう。このほかにも社殿横の石灯籠に宝塔塔身が再利用されている。		市有形(宝篋印塔)	23	6 C-5
33	中の谷不動堂石塔群	国見町 西方寺	戦国	小堂境内の端に石塔部材が集められている。戦国期の国東塔は相輪を欠く完存であり、笠塔婆は笠を失い、碑面に地蔵2体を陽刻している。				6 D-6
34	鬼籠当中石塔群	国見町 鬼籠	戦国	丘陵斜面の畑地中に石塔群が並べられていたが、開発に伴い発掘調査が行われ、他所へ移された。			29	6 B-5
35	山本家五輪塔群	国見町 榑海	戦国	民家の庭先に五輪塔が並べられているが、本来の組み合わせではない。				6 A-6
36	万福寺石塔群	国見町 榑海	室町～戦国	境内の本堂斜め前および本堂裏にそれぞれ市指定国東塔が存在する。このほかに境内に石塔が散在する。		市有形(国東塔)	27	6 A-6
37	妙吉寺石塔群	国見町 中	戦国	境内や歴代住職墓地に部材が散在する。町有形の一石六地藏は石幢の龕部である。石幢は龕部のみ、無縫塔は竿のみ、国東塔は基礎のみである。		市有形(一石六地藏)		6 A-6
38	妙吉寺一石五輪塔と周辺石塔群	国見町 中	鎌倉～近世初期	水田の一角に石造物が並べられているが、多くは周辺から集められたと伝えられている。県有形の一石五輪塔は水輪部に孔を穿っている。石幢は龕部のみ、国東塔は基礎のみである。		県有形(一石五輪塔)	24	6 A-6
39	河野家墓地石塔群	国見町 野田	近世初期	近世墓地の一角に中世石塔を置いている。笠塔婆には地蔵を陽刻している。笠塔婆の一つは一石でつくられている。				6 A-6
40	長尾家横五輪塔群	国見町 野田	南北朝～近世初期	段々畑の石垣の上に五輪塔部材が置かれている。				6 A-6

塔形及び個体数																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
	5	6	2	4							3	1	3	5				3		1					
		1	1																	2					
							1																		
	3	2	2																	6					十王14
	6	8	7	6							1		2	6				1					1		笠塔婆3
																		1							
																		1							
		1	1																						笠塔婆1
																				3					笠塔婆2
	3	4	3	3							1		1	1						1					
	1	1	1	1																				3	笠塔婆1
		2																							笠塔婆1
	4	7	1	2															2	4					
	2										2		2												
	1	1																		1					笠塔婆3
	9	10	5	1																2					
																		1							
	2	1	1																	5				1	
	4	1	2																						
	25	17	15	18							1	6	13	12				6		2					
					1			1		1								2							
		1	1										1							1					笠塔婆1
																		2							
	28	20	20	17							1		3	2	3			1	1	18		1			笠塔婆1
																							1		
	1	2		3							1	2	1	1	3					1					
	1	7	3	2								2	1					4	3	6					
	2	3	4		3													1		1					
	1																	2							石仏1
	59	124	107	105								2	30	13	2			4	1	16	4				
	1	8	2	3														1		7					
					1						1		1	1				1	2						
	2	5	5	5														1				2			笠塔婆1
	3	2	3	5									3	2											
	2	2	2	2																1					
	16	31	14	4							2				1			2	2	9					
	2	6	2	1									3	2				2			1		3		
	28	27	23	24							3	1	2	2				1		17			1		
	1																			1					笠塔婆3
		1																		1					

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
41	原田家横五輪塔群	国見町 野田	戦国～近世初期	個人の屋敷の一角に五輪塔の部材が集められている。				6 A-6
42	古森家横石塔群	国見町 野田	戦国～近世初期	個人の屋敷の入口の畑の畔に石塔の部材が散在する。				6 A-6
43	岩井家墓地石塔群	国見町 野田	戦国	墓地の一角に石塔部材が置かれている。				6 A-6
44	下松板碑	国見町 野田	室町～戦国	丘陵斜面に存在する5m程度の大岩に5連の板碑が陽刻されている唐崖板碑である。		市有形(板碑)		6 A-6
45	森田家墓地国東塔群	国見町 野田	戦国	山中に営まれている近世墓地に2基の完存の国東塔がみられる。部材が入れ替わっている可能性もあるが、2基の部材のみであろう。				6 A-6
46	下松跡石塔群	国見町 野田	戦国～近世初期	丘陵斜面に近世の庚申塔があり、その周辺に石塔部材が散在する。石幢は笠のみである。				6 A-6
47	野田集落墓地石塔群2	国見町 野田	戦国～近世初期	近年整理された墓地に近世墓地とともに建てられている。				6 A-6
48	谷口家横石塔群	国見町 野田	戦国～近世初期	畑の畔に近世の石造物とともに集められている。				6 A-6
49	荒木家墓地宝篋印塔	国見町 野田	戦国	畑の中にある近世墓地中に相輪が一部折損している完存の宝篋印塔がみられる。塔身の一面には地藏を陽刻している。				6 A-6
50	野田集落墓地石塔群	国見町 野田	戦国～近世初期	近年整理された墓地に石塔部材が並べられている。				6 B-6
51	石堂宝篋印塔	国見町 野田 石堂	戦国	郷司家の敷地の一角に宝篋印塔が単独で立てられている。その横の民家の一角にも石塔部材が存在する。		市有形(宝篋印塔)		6 B-6
52	伊美別宮元宮石塔群	国見町 野田	室町～戦国	畑の中に伊美別宮の元宮と伝えられる一角があり、石祠とともに石塔が置かれている。				6 B-6
53	野田石塔群	国見町 野田	戦国	車道横に近世の石造物群があり、その後ろに石塔部材が散在する。				6 B-6
54	平等寺石塔群	国見町 野田	南北朝～近世初期	平等寺本堂下の平坦地に数多くの石塔類が並べられているが、いずれも本来の組合せではなく、後世、整理されたものであろう。南北朝後半～室町期の2基の大型宝篋印塔に関しては、完存で組合せもよい。完存の宝塔は一石でつくられており、国東塔は基礎部材のみの数である。		市有形(宝篋印塔)	32	6 B-7
55	小平板碑	国見町 野田 小平	南北朝	平野を見下ろす丘陵尾根先端上に市指定板碑が単独で立てられている。		市有形(板碑)		6 B-6
56	小深田家墓地石塔群	国見町 野田	戦国	水田中に営まれている近世墓地中に中世石塔の部材が散在する。このほかにも小深田家の庭に集石をし、上に石塔部材が置かれている。				6 B-6
57	日出迫石塔群	国見町 野田 日出迫	戦国	平野を見下ろす丘陵尾根先端上に戦国期の石塔部材が散在する。国東塔は基礎が1点、塔身が2点みられる。				6 B-6
58	白禿板碑と周辺石塔群	国見町 野田 白禿	南北朝～戦国	平野を見下ろす丘陵尾根先端上に南北朝期の2基の完存板碑（市有形）が立てられており、その前面に南北朝期の宝篋印塔と戦国期の石塔部材が散在する。		市有形(板碑2)		6 C-6
59	行平家横石塔群	国見町 野田	戦国	道路横の一角に近世石塔とともに並べられているが、組合せは本来のものではない。				6 B-7
60	十王堂板碑と周辺石塔群	国見町 野田	南北朝～近世初期	丘陵裾の平坦地に石室に納められた十王8体と奪衣婆の石仏や、紀年銘をもつ県有形の板碑をはじめとした石塔群がみられる。	文和4(1355)	県有形(板碑)	24・35	6 B-7
61	了源法師碑横五輪塔群	国見町 野田	戦国	了源法師碑が存在する近世の石塔群の横に五輪塔部材が散在する。				6 B-7
62	野田集落墓地五輪塔群	国見町 野田	戦国	平野と丘陵の境目に平坦地を造成し、形成している近世墓地中に五輪塔部材がみられる。				6 C-6
63	真覚寺跡国東塔と周辺石塔群	国見町 野田	南北朝～戦国	丘陵斜面に狭い平坦地をつくり、2段にわたって石塔を造立している。下の段に県有形の国東塔を、また、上の段に石塔群を造立しているが、本来の組み合わせではない。国東塔も本来の組み合わせでなく、表中の数は部材の中で最多の塔身の数である。	正平7(1352)	県有形(国東塔)	24・31	6 C-7
64	請宝篋印塔	国見町 柳来 請	南北朝	請集落をのぞむ丘陵尾根に単独で立てられている市有形の宝篋印塔である。隅飾りのひとつが別石であり、塔身には円形孔が穿たれている。		市有形(宝篋印塔)		6 A-7
65	一石六地藏と周辺石塔群	国見町 柳来	戦国～近世初期	民家の一角に市有形の石幢（一石六地藏）と一石五輪塔が岩上に置かれている。石幢は竿を欠く完存であるが、当初から存在しないものかもしれない。		市有形(一石六地藏)		6 A-7
66	小串家墓地石塔群	国見町 柳来	戦国～近世初期	永明寺に隣接する丘陵斜面にある小串家墓地に中世石塔が存在する。この墓地の下壇の竹敷内にも石塔部材が存在し、数か所に集積されている。国東塔は基礎の個体数のみである。				6 A-8
67	綾部墓地石塔群	国見町 柳来	戦国～近世初期	車道横の畑に石塔が並べられている。板碑や連碑が多く確認できることは特徴的である。角柱塔婆は六面体を呈し、特異な形態をもつ。		市有形(板碑・角柱塔婆)		6 A-8
68	河野家石塔群	国見町 千燈 下払	戦国	民家の庭先に完存の石塔が2基建てられている。いずれも戦国期のものであるが、他所から移転させられたものであろう。				6 C-7
69	下払坊国東塔	国見町 千燈 下払	鎌倉	坊の一角に県有形の完存の国東塔が単独で立てられている。		県有形(国東塔)	24	6 C-7
70	千燈寺石造宝塔	国見町 千燈	平安～鎌倉	相輪を欠く宝塔であり、かつては旧千燈寺奥の院の岩屋に安置されていたものが、一時、盗難に合ったことにより、千燈寺に保管されるようになったものである。塔身の中はえぐられ、蓋を嵌めるように設えられた特異なものである。		県有形(宝塔)	24	6 D-7
71	千燈石仏	国見町 千燈	鎌倉	丘陵緩斜面に平坦地を造成し設けた小室内に単独で安置している県史跡の石仏である。		県史跡(石仏)	22・24	6 D-7
72	匠の里石塔群	国見町 千燈	南北朝～戦国	2か所に分かれて石塔が集められている。中でも、寛文年間銘をもつ宝篋印塔に寄り添うように置かれている板碑は南北朝期に遡るものである。				6 D-7
73	千燈五輪塔	国見町 千燈	室町	近世以降の石造物とともに五輪塔が置かれている。				6 D-7
74	西行戻し宝篋印塔と周辺石塔群	国見町 千燈	南北朝～戦国	「西行戻し」と呼ばれる角礫凝灰岩の露岩上に市有形の宝篋印塔をはじめとして小型の板碑・宝篋印塔が置かれている。板碑は2連～4連である。宝篋印塔の塔身の梵字種子が中央を膨らませる箱字彫りであることは特異である。		市有形(宝篋印塔)	22	6 D-7
75	千燈寺奥の院五輪塔	国見町 千燈	中世	千燈寺奥の院に置かれている五輪塔であり、一石であることや火輪が四面体であることが特徴的である。奥の院にはこのほかに現千燈寺に保管されている鎌倉期の宝塔の旧在地でもある。				6 D-7
76	仁間国東塔および周辺石塔群	国見町 千燈	南北朝～近世初期	丘陵斜面の平坦地にある弘法堂跡の周辺に県有形の仁間国東塔のほか数多くの石塔群が置かれている。いずれも組合せは本来のものではない。		県有形(国東塔)	22	6 D-7
77	仁間菩薩墓地石塔群	国見町 千燈	南北朝～近世初期	弘法堂跡に隣接する墓地であり、3個の巨石のある丘陵緩斜面に五輪塔・一石五輪塔が千基を超える数で造立されている。中には、板碑・角塔婆・国東塔・宝塔などもみられるが、きわめて少数である。これらの石塔群は室町期以降で戦国期を主体とするものであろうが、中には、南北朝期に遡る可能性をもつ五輪塔もみられる。				6 D-7
78	大不動宝篋印塔と周辺石塔群	国見町 千燈	戦国～近世初期	大不動岩屋前の角礫凝灰岩の岩上に九輪が切損する市有形の完存の宝篋印塔が1基みられる。その隣の岩上には笠を欠く笠塔婆が1基あり、2体の尊像を半肉彫りしている。		市有形(宝篋印塔)		6 E-6
79	植野家五輪塔群	国見町 岐部 次郎田	戦国	民家の庭先に石塔部材が重ねられている。他所から持ち込まれたものであろう。				6 C-8
80	坊中五輪塔群	国東町 岩戸寺	鎌倉末～戦国	岩戸寺の参道から東に外れた林中に五輪塔が並べられている。			25	6 E-8

塔形及び個体数																												
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形						
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇											
	1		4	3																								
	1	1	1	1																							笠塔婆2	
	4	7	4	4										2													磨崖碑1	
																			2									
	2	4	3	2																					1			
	1	2	1										1	2	1												笠塔婆2	
					1																							
	6	2	6	1																							笠塔婆2	
	1		1		1									1	1													
4											1																	
	1	3	3	1										1														
	101	130	120	108	3	1	1				1		2	17	11	3			2	2	68	2					笠塔婆1	
																					1							
	2	3	3	1																	1	1					笠塔婆3	
	8	5	1	3															3		5							
	4	15	5	3			1														13							
	2	2	2																		3		1				笠塔婆1	
	18	20	13	8									1						1	6	12						十王8、尊衣婆1	
	1	2	1	1																	1							
		1																			1							
	9	7	3	4															9		1							
					1																							
																					1			1				
	33	33	27	24			1	1	1	1		1	1	4	3				1	2							笠塔婆4	
	27	33	27	13																	14	5		2				
1					1																							
																					1							
											1																	石仏1
																					1	2						
	1	1	1																									
					2																27							
																						1						
	31	31	28	26		1	6	9	3											8	83		1					
					1																							笠塔婆1
			1																			1						
	41	32	32	19																								

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
81	岩戸寺宝塔と石塔群	国東町 岩戸寺	鎌倉末～近世初期	講堂前の岩上に弘安6年と最古の紀年銘をもつ完存の国東塔(国重文、総高3.29m)がみられるほか、岩の付近に文明10年銘をもつ完存の石幢(県有形、総高2.53m)がみられる。このほか、奥の院前に元和4年銘をもつ石灯籠(市有形、総高1.97m)や参道に文明10年銘をもつ仁王像(県有形、阿形総高1.4m・吽形総高1.35m)がみられる。このほか、参道入口から講堂に至る参道脇や境内地に石塔や唐崖碑が散在する。	弘安6(1283) 文明10(1478) 元和4(1618)	国重文 (国東塔) 県有形 (仁王、石灯籠) 市有形 (石灯籠)	24・25	6 E-8
82	向畑角塔婆	国東町 岩戸寺	南北朝	岩戸寺南の山中から原位置に降ろされたと伝えられている。総高145cmを測り、各面上部に1字ずつ金剛界四仏の種子が彫られている。		県有形 (角柱塔婆)		6 E-8
83	文殊仙寺石塔群	国東町 大恩寺	鎌倉～戦国	県有形に指定されている永和4・5年銘の石造十王像や石段横の石造仁王のほかに、参道の石段横や六所権現に石塔がみられる。石造仁王は南北朝期後半のものと思われる、県下最古の石造仁王である。	永和4(1378) 永和5(1379)	県史跡 県有形 (十王、仁王)	23・24	6 G-8
84	芋尾観音堂跡石塔群	国東町 成仏	戦国	山林中の草むらに埋もれて五輪塔・一石五輪塔・宝塔などの部材がみられるが、総数20基程度の部材であろう。			27	6 H-8
85	朝日観音堂跡宝篋印塔	国東町 成仏	南北朝	段々畑の一角に近世の石塔群とともに存在する総高335cmを測る完存の宝篋印塔である。		市有形 (宝篋印塔)	27	6 H-8
86	城山国東塔と周辺石塔群	国見町 岐部	戦国～近世初期	丘陵裾に平坦地を設け、上段に市有形の4基の国東塔を置き、その下に整理した石塔群を並べている。4基の国東塔は完存であるが、本来の組合せではない。		市有形 (国東塔4)		7 A-1
87	岐部神社裏石塔群	国見町 岐部	戦国～近世初期	岐部神社境内の北側の一角に石塔が並べられているが、本来の組合せではない。神社南側の園地整備において発見したものを寄せ集めたものと伝えられている。				7 A-1
88	胎蔵寺石塔群	国見町 岐部	戦国	胎蔵寺参道横の防火水槽の横に石塔部材が集められており、また、境内にも1基、角柱塔婆が存在する。いずれも他所から持ち込まれたものであろう。				7 A-1
89	丸小野家宝篋印塔	国見町 岐部	南北朝～室町	庭の泉水横に相輪下半のみを欠く完存の宝篋印塔が存在する。他所から持ち込まれたものであろう。				7 A-1
90	金丸家石塔群	国見町 岐部	戦国～近世初期	民家の敷地の一角に石塔部材が集められている。				7 A-1
91	仲家墓地石塔群	国見町 岐部	戦国～近世初期	山中にある累代墓の横に石塔部材を集めている。				7 B-1
92	岐部氏裏石塔群	国見町 岐部	戦国	造成したミカン畑の最上部に造成時に集められた石塔群である。ミカン畑の中には宝篋印塔笠も1基残されている。				7 A-1
93	岐部石塔群	国見町 岐部	戦国	宅地横に4×5mの方形区画をつくり扁平な川原石を敷き並べ近世墓碑とともに石塔を並べているが本来の組合せではない。中でも、2基の戦国期の国東塔は完存であるが、これについても本来の組合せではない。				7 A-1
94	古森家宝篋印塔と周辺石塔群	国見町 岐部	南北朝～戦国	個人の宅地横に市有形の宝篋印塔と石塔部材が存在する。		市有形 (宝篋印塔)		7 A-1
95	ヨシハラ池石塔群	国見町 岐部	南北朝～戦国	池の堤の横に石塔部材が集積されている。中でも、下半が折損した南北朝期の相輪は県下最大級である。				7 B-1
96	常念寺石造十王	国見町 岐部	戦国	境内の一角にある十王堂に近世以降の石造物とともに、完存で状態の良い石造十王像が置かれている。				7 B-1
97	松林寺石塔群	国見町 上岐部	南北朝～戦国	松林寺境内に県有形の石造地藏(永徳元年銘)と石造比丘尼(永徳2年銘)や、市有形の宝篋印塔・無縫塔をはじめ、数多くの石塔群が並べられている。石幢は鹿部のみである。	永徳元(1381) 永徳2(1382)	県形 (徳比咩) 市有形 (無縫塔)		7 C-1
98	天満社層塔と周辺石塔群	国見町 上岐部	戦国～近世初期	天満社の一角に市有形の七重塔と石塔群が集められている。七重塔の最上層の笠は後補である。		市有形 (層塔)		7 C-1
99	吉武家石塔群	国見町 上岐部	戦国～近世初期	天満社に隣接する民家の倉庫横に石塔が集められている。本来は天満社に存在するものと一群をなしていたものが。				7 C-1
100	常光寺宝篋印塔	国見町 小熊毛	南北朝～室町	常光寺参道両側に市有形の完存の宝篋印塔が2基建てられている。		市有形 (宝篋印塔2)		7 A-2
101	龍潜寺宝篋印塔	国見町 大熊毛	戦国	門前の石段下に比較的大型の完存の宝篋印塔が1基みられる。				7 B-2
102	龍潜寺石塔群	国見町 大熊毛	戦国～近世初期	本堂南側の丘陵斜面に石塔が組まれているが、本来の組合せではない。				7 B-2
103	日吉神社石塔群	国見町 大熊毛	戦国～近世初期	山王宮北の山中にある石鳥居の横に石塔が集積されている。				7 B-2
104	大熊毛石塔群	国見町 大熊毛	戦国	集落内の畑の群に石塔部材が集積されている。組合せも本来のものでなく、周辺から集められた様相をもつ。				7 B-2
105	向田上集落墓地石塔群	国見町 向田	戦国～近世初期	車道で分断された近世墓地中の岩上に置かれた宝篋印塔をはじめとして石塔がみられる。宝珠塔が存在するが、近世の所産であろう。				7 C-3
106	向田石塔群	国見町 向田	南北朝～戦国	水田と丘陵の境界の林中に近世の石造物とともに完存の宝塔や石塔部材が置かれている。特に、大型の宝珠は造りもよく南北朝期に遡る可能性をもつものであろう。				7 C-3
107	福蔵寺宝篋印塔	国見町 向田	南北朝	福蔵寺境内に市有形の完存の宝篋印塔が1基建てられている。南北朝期後半のものであり、国東半島でも最大級である。		市有形 (宝篋印塔)		7 B-3
108	向田下集落墓地石塔群	国見町 向田	戦国～近世初期	砂丘上に営まれた近世墓地中の中央に石塔部材が集められている。				7 B-4
109	永明寺十王堂石仏群	国見町 櫛来	室町～戦国	境内の十王堂の中に十王や石造地藏・船形光背に6体ずつの十二神将像を陽刻したものや、地藏・宝塔などを陽刻したものがみられる。				6 A-8
110	郷司家前石塔群	国東町 岩戸寺	戦国～近世初期	近世墓地中に宝塔部材と五輪塔部材が3基に組み合わせられて立っている。				7 E-1
111	郷司家東石塔群	国東町 岩戸寺	戦国	宝塔部材と五輪塔部材が2基に組み合わせられて立っている。				7 E-1
112	中之坊宝篋印塔	国東町 岩戸寺	南北朝～室町	「中の坊」と伝えられる吉武家の庭に馬頭観音の石祠と並べられている完存の宝篋印塔である。		市有形 (宝篋印塔)	25	7 E-1
113	迫坊宝篋印塔と周辺石塔群	国東町 岩戸寺	鎌倉末～戦国	「迫坊」と伝えられる迫家の入口に市有形の完存の宝篋印塔(総高212cm)がみられるが、昭和49年、家屋の東側に埋没していたものを掘り出し現在地に移動したとされている。この宝篋印塔の周辺や庭の東側に石塔部材が集められている。		市有形 (宝篋印塔)	25	7 E-1
114	長慶寺石塔群	国東町 岩戸寺	戦国	境内地に石塔が散在するが、いずれも本来の組合せではない。				7 E-1
115	観音堂宝篋印塔	国東町 来浦	室町	観音堂前に近世以降の石造物群と一緒に並べられている完存の宝篋印塔であり、総高225cmを測る。				7 E-1
116	長福寺跡石塔群	国東町 来浦	鎌倉～戦国	観音・阿彌陀・薬師の石造を納めた近世の石殿横に板碑・六角笠塔婆・五輪塔などが並べられており、その前に五輪塔・一石五輪塔などが草むらに埋もれている。				7 E-1
117	上園延命地藏堂石塔群	国東町 来浦	南北朝～戦国	一石五輪塔と南北朝期のものと考えられる五輪塔地輪がみられる。				7 D-2
118	来浦宝篋印塔	国東町 来浦	南北朝	民家の庭先に単独で立つ総高206.5cmを測る完存の宝篋印塔である。3段の段形を造り出す基礎下に2段の基壇がある。塔身には四仏の種子を薬研彫りし、笠は下部3段、上部3段の段形を造り出している。相輪は国東塔と同型式であるが、宝珠に火輪はない。		県有形 (宝篋印塔)		7 D-2
119	明石家横石塔群	国東町 来浦	戦国	2基の近世の石祠の横に本来の組合せではない五輪塔が2基みられる。				7 D-2
120	大聖寺石塔群	国東町 来浦	南北朝～戦国	山門横の池の上や本堂横に石塔がみられる。中でも本堂横の宝篋印塔は南北朝期のものであり、池の上に存在する3基の板碑も南北朝期に遡るものである。				7 D-2

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔						宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇							
					1													4	1	1		1	仁王1対 磨崖碑3	
																					1			
5	7	6									1									1			十王、仁王	
					1																			
35	7	20	24			1						9	2	2	2			4						
10	30	14	21										1	2					2	2			笠塔婆2	
10	1																				1			
					1																			
7	10	5	5																					
4	1		1									2		1					1	1			笠塔婆1	
25	22	22				1													1	11				
36	32	33	22											2				2		2				
14	26	10		1																4				
19	14	6	2			1					1									8				
																							十王10	
34	37	34	32	2									2	5					1	9	1	1	石仏2	
3	3		4								1	3	4	5	4					1			笠塔婆1	
3	4	3	5								1		2	2						4				
					2																			
					1																			
2	2	1	1								1									1				
2														2	1				2	3				
20	21	17	9																1	4				
5	7	6	4	1										1						8				
		3									1	1							2					
					1																			
	2	1	1																	3				
											1												石仏16	
					1																			
19	22	21	16	1							1								3	12				
8	7	7	5																1	6				
					1																			
8	8	2																	1	3			笠塔婆1	
					1						8									1				
					1																			
2	1	2	1																					
16	14	12			1														3	7				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
121	金剛寺石塔群	国東町 来浦	南北朝～戦国	門前参道入口と山門横、境内の一角の3箇所に石塔が散在する。中でも、参道入口の宝篋印塔（南北朝期）は相輪と笠のみが残るが、元存であれば総高2mを超える優品である。				7 D-2
122	石村家前小堂五輪塔群	国東町 来浦	戦国	小堂の横に石塔部材が重ねられている。				7 D-2
123	大聖寺石塔群	国東町 来浦	南北朝～戦国	来浦川に面した畑の中の大聖寺跡とされる12×17.5mの範囲に石組を施し、縁辺に2～3列の多数の石塔が並べられている。大多数が明治以降に周辺から集められたと伝えられている。		市史跡		7 D-2
124	奥観音堂石塔群	国東町 来浦	南北朝～戦国	観音堂裏に石塔部材が集積されている。南北朝後半～室町期の板碑以外はいずれも戦国期のものである。				7 D-3
125	八坂神社石塔群	国東町 来浦	戦国	境内地に石塔部材が散在する。				7 D-3
126	梅村家横五輪塔群	国東町 来浦	戦国	人家横の倉庫の脇に組合せの異なる五輪塔が組まれている。				7 D-3
127	大日堂石塔群	国東町 浜	南北朝～戦国	大日堂の入口に南北朝期に遡る相輪を欠く宝篋印塔と、その周辺に戦国期の石塔部材が散在している。相輪は、宝篋印塔の基礎の横に置かれている。				7 D-4
128	安養寺一石五輪塔	国東町 東堅来	戦国	境内に一石五輪塔が1基ある。				7 E-3
129	東堅来板碑	国東町 東堅来	鎌倉末～南北朝	2基の連碑である。1基は中央を陰刻線で分けたもので、向かって右が高さ160cm、左が高さ145cmを測る。他の1基は裏面に3本の陰刻線を引いている特異なものである。		市有形(板碑)		7 F-3
130	深江板碑と周辺石塔群	国東町 深江	鎌倉～戦国	薬師堂跡に所在する県有形の板碑であり、碑面にキリークの種子を薬研彫りし、その下に偶文を陰刻している（総高133cm）。その後ろに石塔の部材が集められているが、組合せは本来のものではない。	嘉徳2(1327)	県有形(板碑)	35・38	7 E-5
131	政友板碑	国東町 東堅来	鎌倉末～南北朝	水田の畦畔に大小の板碑が並べて立てられている。両者ともマンの梵字種子であり、大が薬研彫り、小が墨書であらわされている。				7 F-4
132	長木家宝塔・鳴板碑と周辺石塔群	国東町 東堅来 鳴	南北朝～戦国	元亨元年銘をもつ国重文の国東塔、元亨2年銘をもつ県有形の板碑をはじめ、元亨2年銘をもつ板碑、文和3年銘をもつ板碑など数多くの銘文をもつ石塔がみられる。この周辺や隣接する墓地にも石塔が散在する。	元応3(1321) 元亨元(1321) 元亨2(1322) 文和3(1354)	国重文(国東塔) 県有形(板碑)	24 35・38	7 F-4
133	吉祥寺五輪塔群	国東町 浜崎 寺山	戦国	境内に石塔部材が集められている。				7 G-5
134	成仏寺石塔群	国東町 成仏	南北朝～戦国	歴代住職墓地にアンの梵字種子が入る南北朝期の板碑や、奥の院に完存の宝篋印塔があるほか、石塔部材が散在する。			27	7 H-1
135	山神社横板碑	国東町 成仏	南北朝	山神社境内西側の奥道のすぐ上に総高147cmを測る板碑が存在する。南北朝期後半のものであろう。				7 H-1
136	金脇家横石塔群	国東町 成仏	戦国	丘陵裾の民家横に石塔が並べられている。組合せは本来のものではないが、笠塔婆は完存である。				7 H-1
137	下成仏五輪塔群	国東町 下成 仏	戦国	丘陵裾の水田に面した場所に石塔が並べられている。前面に広がる水田の圃場整備の際に出土し、整理移転されたものと伝えられている。				7 H-2
138	下成仏自然石塔婆	国東町 下成 仏	戦国～近世初頭	山中の杉林に存在する1m程度の山石に山型二条線をもつ板碑形を刻み、銘文を入れている自然石塔婆がみられる。				7 H-2
139	小野石塔群	国東町 下成仏 小野	南北朝～戦国	車道横の杉林に石塔が散在する。				7 H-2
140	竹の上板碑	国東町 下成 仏 竹の上	鎌倉	県道工事のため、基礎の大岩とともに高台に移設されている。銘文の墨書はほとんど消えかき判断が困難になってきている。	元弘3(1333)	県有形(板碑)	35・38	7 H-3
141	見地宝篋印塔	国東町 見地	南北朝～室町	小田原家裏の丘陵裾部に単独で建てられている総高3mを超える宝篋印塔である。本来は、山中に存在していたものを移転したと伝えられている。相輪のみ候補であるが、他は完存であり、塔身には奉納孔がみられる。				7 H-3
142	小田原家一石五輪塔	国東町 見地	戦国	一石五輪塔が民家横に置かれているが、県道建設に伴い移転したものと伝えられている。このほかにも数基存在していたとされるが、現在は散逸してしまっている。				7 H-3
143	岡板碑	国東町 見地	南北朝	丘陵急斜面に単独で立てられている県有形の板碑である。総高2.7mを測る大型品で、碑身にはキリークの梵字種子が薬研彫りされ、その下に刻銘がみられる。	建武元(1334)	県有形(板碑)	35・38	7 H-3
144	見地公民館一石五輪塔	国東町 見地	戦国	近世の石造物群中に一石五輪塔の残欠が置かれている。他所から持ち込まれたものであろう。			26	7 H-3
145	重木家裏石塔群	国東町 見地	南北朝～戦国	重木家裏の道沿いに石塔部材が散在して置かれている。多くが戦国期のものであるが、五輪塔部材の中には南北朝期に遡るものもみられる。国東塔は基礎のみがみられる。				7 H-3
146	見地五輪塔群1	国東町 見地	戦国	丘陵裾に積み石の段をつくり、近世以降の石塔とともに五輪塔の部材を並べている。				7 H-4
147	中屋敷板碑(堀部板碑)	国東町 見地	鎌倉	民家の庭に立てられている県有形の板碑である。高さに比較して幅が広い特徴をもつ。碑面上部にマン（文殊）の梵字種子し、その下に刻銘がみえる。	正中2(1325)	県有形(板碑)	35・38	7 H-4
148	見地五輪塔1	国東町 見地	戦国	集落背後の丘陵斜面裾に完存の五輪塔が1基、集石上に置かれている。				7 H-4
149	見地五輪塔群2	国東町 見地	戦国	畑横の水路に面した石積み上に石塔部材が置かれている。				7 H-4
150	玉林寺宝篋印塔と周辺石塔群	国東町 見地	鎌倉末～戦国	本堂横に市有形の完存の宝篋印塔（南北朝後半）とともに、鎌倉末に遡る大型板碑や石塔残欠が置かれている。石幢は麓部のみである。		市有形(宝篋印塔)		7 H-4
151	見地石塔群	国東町 見地	南北朝～戦国	丘陵尾根先端に南北朝～室町の塔身を失う完存の宝篋印塔があり、その周囲に戦国期の石塔が散在する。		碑(国東塔)		7 H-4
152	見地五輪塔2	国東町 見地	戦国	玉林寺と小松神社を結ぶ細い道に隣接する畑に五輪塔部材が置かれているが、他所から持ち込まれたものであろう。				7 H-4
153	浜崎相型五輪塔群	国東町 浜崎	平安?～戦国	水田に面した丘陵裾部の林中に一石で彫成された大型の五輪塔が8基並べられているほか、戦国期の五輪塔部材や一石五輪塔が置かれている。		県史跡		7 H-6
154	照山家墓地五輪塔群	国東町 浜崎	戦国	近世墓地中に集石墓があり、その前に五輪塔部材が散在する。				7 H-6
155	両子石殿・石幢	安岐町 両子 山内	室町	両子寺下手の県道沿いの民家庭先に、石殿・石幢が各1基ずつある。石殿は、軸部の正背面に4体ずつ、右側面2体の十王像及び左側面に地藏像を浮き彫りにする。室町期の作と思われる。石幢は六角形の龕部各面に六地藏が浮き彫りにされている。龕部と竿に各々「応仁二年（1468）三月」「応仁戊子二天三月」の紀年銘がある。	応仁2(1468)	市有形(石殿・石幢)	17・37	13 B-7
156	両子寺石塔群	安岐町 両子	鎌倉～戦国	六郷山寺院の両子寺境内には、国東塔のほか多数の五輪塔が境内各所に点在する。大講堂から奥ノ院へいたる石段下に大型の国東塔（県有形）がある。総高345cmで、相輪は後補だが、型式のうえでは正応3年（1290）銘の伊美別宮国東塔に近い古式の様相を呈する。塔身に「奉納如法書写一乗妙法蓮華經」の陰刻がある。また、石段を登った崖上には、南北朝期の作と思われる国東塔（市有形）がある。		県有形(国東塔) 市有形(国東塔)	17・24 26・37	13 B-8
157	大吉堂国東塔と周辺石塔群	安岐町 諸田	南北朝～室町	諸田集落の北方の道路脇にある大吉堂境内に、国東塔、五輪塔がある。		市有形(国東塔)	17・37	13 E-7

塔形及び個体数																							
五輪塔				宝篋印塔					宝塔						国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇						
	20	6	10			1	1															1	
	1	4	2																				
	267	256	270				3	3	3			5		42	18	14				10	3	1	笠塔婆3
	10	7	11	2								1				1			1	1			
	2	2	2	2																			
	8	2	2	4	1															2			
																				1			
																				2			
	6	11	9	4															1	5		1	
																				2			
	18	23	18	15														1	5	10			
		1	1																	5			
	6	6	6		1							5		8	9			1					
																				1			
	12	10	6	6										2	2				1	2			笠塔婆1 地藏陽刻碑1
	13	22	15	14																10			自然石塔婆1
	12	18	16	19										1	1						13		
																				1			
					1																		
																					1		
																				1			
																					1		
	6	1	3	3														1	1	5			
	1	4	3	2																			
																				1			
1																							
	1	2																			2		
	5	5	5	2															1	18		1	
	1	7	4	4											1				1	12			
		1																			1		
			2																		9		
	3																				1		
																						1	1
	46	46	42	37		1	1		1		1	2						2		20			
	1	2	2	1															1				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
158	大日堂宝篋印塔	安岐町 明治 諸田	南北朝～室町	諸田集落北方背後にある大日堂境内に宝篋印塔1基がある。総高210cmで、塔身正面に兼師像が浮き彫りにされ、残る三面に釈迦(バク)、観音(サ)、勢至(サク)の種子が薬研彫りされる。			37	13 E-7
159	江口家墓地石塔群	安岐町 明治 諸田	室町～戦国	諸田集落西方の山中にある墓地で、平光盛墓と伝えられる石塔がある。板碑、一石五輪塔各1基がみられる。				13 E-7
160	報恩寺石塔群	安岐町 明治 諸田 寺田	室町～戦国	現在、報恩寺境内正面に室町～戦国期の作と思われる宝篋印塔2基がある。しかし、うち1基は奥道建設のため失われた参道登り口にあった。また、本堂南側には石塔が集積されており、無縫塔3基、石殿1基、五輪塔ほかがみられる。石殿については竿と考えられる方柱碑があり、側面に「于時応永廿五(1418)龍戊辰三月二日」の紀年銘がある。	応永25(1418)	市有形(無縫塔)	17・26 34・37 39	13 E-7
161	末弘山石塔群	安岐町 明治	室町～戦国	中畑集落北方の末弘山にある。総高100cm余の小型の国東塔で、相輪を省略し空風輪をのせ、格狭間を連子文様にするなど形式的に変化が著しい。室町～戦国時代の作であろう。			17・37	13 E-7
162	益前家石塔群	安岐町 明治 諸田	室町～戦国	屋敷内に五輪塔部材が集積されている。				13 E-8
163	寺園板碑と周辺石塔群	安岐町 明治 小侯 寺園	南北朝～戦国	木造大日如来像を安置した小堂の脇に南北朝期の作と思われる板碑1基がある。また背後の墓地に、頂部に切妻屋根状の庇がつかう板碑1基がある板碑には「安室/天正十三年(1585)乙酉三月七日」の銘が陰刻される。このほか周辺に一石五輪塔が散在する。	天正13(1585)	市有形(板碑)	17・35 37	13 E-8
164	金剛院跡笠塔婆と周辺石塔群	安岐町 明治 小侯 中台	南北朝～室町	中台集落の背後地に金剛院があり、境内には板碑、笠塔婆、五輪塔などがある。このうち笠塔婆の左右側面に「永正十六(1519)□□二月九日」「□寿位 源 高直」の陰刻銘がある。	永正16(1519)	市有形(笠塔婆)	17・37	13 E-8
165	柳井田板碑	安岐町 明治 柳井田	鎌倉～南北朝	丘陵上に所在する。2基とも折損しているが、このうち1基は復元高202cmで、碑身に文殊種子(マン)と「元享元年(1321)八月彼岸」の銘がみられる。また、他の1基にも「大願」の陰刻がある。	元享元年(1321)		17・37	13 F-8
166	柳井田石塔群	安岐町 明治 柳井田	戦国	柳井田板碑が所在する丘陵へ登り口の道路脇に、五輪塔の部材などが集積している。				13 F-8
167	市ノ尾墓地石塔群	安岐町 明治	室町～戦国	近世以降の墓群がみられる墓地に五輪塔の部材などが散在する。				13 F-7
168	成道宝篋印塔	安岐町 朝来 成道	室町～戦国	成道集落の屋敷地内に宝篋印塔がある。宝篋印塔は塔身四面に阿弥陀、兼師、観音、釈迦が各々浮き彫りにされる。室町時代の作であろう。			37	13 G-8
169	成道石塔群	安岐町 朝来 成道	室町～戦国	成道集落の奥にある屋敷地に隣接する斜面部に五輪塔、板碑などがみられる。				13 G-8
170	護聖寺石塔群	安岐町 朝来 広舞	鎌倉～戦国	曹洞宗護聖寺内に各種石塔がみられる。参道入口南側に石殿1基があり輪部に地藏、十王像を浮き彫りする(室町期)。本堂に向かって左側に板碑が2基ある。1基は総高200cmで、額部以上が別材となる。碑身に阿弥陀三尊種子(キリーク、サ、サク)を薬研彫りし、「正応四年(1291)卯月廿七日/孝子敬白/□□□」の銘が陰刻される。他の1基は総高195cmで碑身に阿弥陀三尊種子が薬研彫りされ、「嘉暦四年(1329)三月九日」の銘が陰刻される。宝篋印塔は参道入口にあったものを原位置に移したもので、室町期の作である。市指定の一石五輪塔は南北朝期の作であろう。このほか、境内から浦山の住職墓地にかけ宝篋印塔2基のほか、一石五輪塔や五輪塔などが散在する。	正応4(1291) 嘉暦4(1329)	県有形(板碑・石殿) 市有形(一石五輪塔・宝篋印塔)	17・26 35・37	13 G-8
171	歳神社板碑	安岐町 朝来	戦国	護聖寺に南隣する歳神社参道北側にある。総高150cmで、碑身正面に3体つつ2段にわたり六地藏を浮き彫りにする。左の縁に「弘治二年(1556)□□」の墨書銘があったといすが、現在は判読できない。	弘治2(1556)	市有形(板碑)	26・36	13 G-8
172	京徳石塔群1	安岐町 朝来 京徳	室町～戦国	旧朝来小学校裏の山林内に五輪塔、宝篋印塔の部材などが散在する。				13 H-8
173	京徳石塔群2	安岐町 朝来 京徳	室町～戦国	旧朝来小学校裏の屋敷跡に一石五輪塔などが散在する。				13 H-8
174	岩屋板碑	安岐町 朝来 若名田	南北朝	旧安岐町役場朝来支所から両子谷に抜ける道路から山林に登った場所にある。総高196cmの幅広のもので、碑身に阿弥陀三尊種子(キリーク、サ、サク)が大きく薬研彫りされる。その下に「元享四年(1324)七月十二日/紀近定/同願主/僧侶費/己上□□□□/大願主末弘」の銘がみられる。	元享4(1324)	県有形(板碑)	17・35 37	13 H-8
175	生目神社石塔群	安岐町 朝来 弁分	室町～戦国	西白寺門前集落の背後の山中にある。神社参道の石垣に多くの五輪塔部材が転用されている。				13 H-8
176	大蔵一石五輪塔	安岐町 朝来 弁分 大蔵	鎌倉末～南北朝	西白寺門前集落の屋敷地内にある。総高125cmの一石五輪塔であるが、空風部は別材である。水輪に四方仏の種子が墨書されていたという。		市有形	17・37	13 H-8
177	三枝家墓地五輪塔群	国東町 横手 高良	室町～戦国	整理された墓地中に石塔部材が重ねられて置かれている。集落背後の山中の旧墓地から移されたものと伝えられている。				14 A-2
178	高良阿弥陀堂石塔群	国東町 浜崎	南北朝～戦国	阿弥陀堂前に並べられている石造物群中に室町～戦国期の完存の国東塔と宝珠・笠を欠く完存の石殿があり、その横の岩窟内に戦国期の石塔群を数多く並べている。				14 A-2
179	神宮寺国東塔と周辺石塔群	国東町 横手 大嶽	鎌倉～戦国	六所権現前の石積みに県有形の国東塔をはじめ鎌倉期に遡る可能性をもつ三重塔その他の石塔が並べられている。		県有形(国東塔)	23・24	14 A-2
180	神宮寺石塔群	国東町 横手 大嶽	戦国	境内の本堂前に近世以降の石造物とともに石塔部材がみられる。				14 A-2
181	河野家墓地五輪塔群	国東町 横手 大嶽	戦国	集落背後に営まれた近世墓地の前に集石があり、その上に石塔部材が置かれている。				14 A-2
182	行入集落墓地五輪塔群	国東町 横手 行入	戦国	尾根上に段を設け営まれた墓地の最下段の端に五輪塔の部材が積まれている。				14 B-2
183	不動堂跡石塔群	国東町 横手 行入	南北朝～戦国	岩屋周辺の岸壁に段を設け石塔を並べたり、周辺に部材が散在したりしている。また、石段を下りた所に板碑がみられる。板碑の一部に南北朝期に遡るものがあるほか、その他は戦国期のものである。無縫塔は重制で完存のものと塔身のみが残るものがみられる。			27	14 B-2
184	法泉院跡墓地五輪塔群	国東町 横手 行入	戦国	法泉院跡と伝えられる敷に隣接した墓地内に石塔部材がみられる。			27	14 B-2
185	行入五輪塔群	国東町 横手 行入	戦国	行入ダム公園横の道路に面した石垣上に石塔部材が置かれているが、道路の敷設に際し、移設されたものと伝えられている。				14 B-2
186	行入集落墓地石塔群	国東町 横手 行入	戦国	近世墓地中の集石墓上に五輪塔部材が置かれている。				14 B-2
187	行入寺石塔群	国東町 横手 行入	南北朝～戦国	整理された境内の一角に南北朝後半～室町期の大型の宝篋印塔をはじめとした石塔がみられる。中でも、宝篋印塔は一石で彫成されたものに相輪を嵌め込むものである。			27	14 B-2
188	馬爪五輪塔群	国東町 横手 馬爪	戦国	水田に面した車道の横に石塔が並べられている。				14 A-3
189	馬爪小堂一石五輪塔	国東町 横手 馬爪	戦国	小堂前に一石五輪塔が置かれている。				14 A-3
190	小川五輪塔群	国東町 横手 小川	戦国	車道横に石塔が集められている。				14 A-3
191	泉福寺開山無縫塔及び周辺石塔群	国東町 横手 馬場	南北朝～戦国	泉福寺開山無縫の墓塔である無縫塔(国重文、室町期)が開山堂に納められている。また、境内西側の15m四方の平地に石塔が並べられている。このほかにも歴代住職墓や大雄殿にはる渡廊下の横にも散在する。ほとんどが戦国期のものであるが、中でも、渡廊下の横に所在する塔身と相輪を欠く大型の宝篋印塔は南北朝期に遡るものである。無縫塔の数は部材数、国東塔の数は基礎の個体数である。		国重文(無縫塔)		14 A-4

塔形及び個体数																											
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形					
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇										
					1																						
																				1	1						
1	1		1		2		1		1													3			1		
																			2								
	1	10	1	6																							
																				2	4						
		10	10																	1	3					笠塔婆1	
																				2							
	2	1	1																		1						
	2	1	5	2																							
											1																
	5	18	11	10																1	10						
	7	2	1	2	2															2	4				1		
																				1							
	1	2	2	3			1																				
		1																			2						
																				1							
	1	20	10	10																	3						
																					1						
	6	8	2																		8						
	11	20	13	15								1	1						1	1	16				1		
	1												1						3	3				1		三重塔1	
	1	5						1	1										1								
	1	1																			2						
	2	3	2	1																	4						
	4	6	3	3									2	1						5	1	2					
			2																		1						
			1																		1						
		1																			2						
					2								1								1						
	1	1	3	1																	5						
																					1						
	7	4		1																	11						
	23	44	49	19	1	1	3	1	3				3	11	12	3			8	6	20	25			2	笠塔婆1	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
192	伝平重盛墓五輪塔群	国東町 見地	戦国	重盛墓と伝えられている石塔は、一石2段の基壇上に国東塔の基礎がのり、その上に五輪塔水輪がそれぞれの。屋根は宝塔のものであり、相輪は上半が欠失している。いずれも戦国期の部材であるが、組合せは異なるものであろう。この伝重盛墓の下段に石塔部材が並べられている。		市有形(五輪塔)		14 A-4
193	中田一石五輪塔群	国東町 中田	戦国～近世初期	車道横に段を設け一石五輪塔を3基並べている。				14 A-4
194	松月寺石塔群	国東町 中田	南北朝～戦国	境内に南北朝期の板碑と石殿が存在する。石殿は竿が失われ、屋根は後補である。龍部には表裏面に5体ずつの十王が、また、左右面に地藏と阿弥陀が刻まれている。				14 A-5
195	飯田家旧宅跡五輪塔群	国東町 中田	戦国	コンクリートで区画された一角に五輪塔部材が並べられている。				14 A-5
196	小畑石塔群	国東町 横手小畑	戦国	水田畔の巨木下に石塔部材が置かれているが、近接する本護寺に関連する石造物であろう。				14 B-4
197	本護寺石塔群	国東町 横手小畑	戦国	境内西側の一角に石造物が集められているが、埋没しているものも多いものと想定できる。				14 B-4
198	本護寺横石塔群	国東町 横手小畑	戦国～近世初期	本護寺に隣接する小川家墓地横の畑に石造物群がみられるが、本来は本護寺の石造物と一連のものであったと考えられる。				14 B-4
199	帝釈寺石仏群	国東町 横手	室町～戦国	境内入口の両側に2体の十王の奇坐像が置かれている。このほかにも参道入口の石仏群中にも1基みられる。				14 B-4
200	栗師堂石塔群	国東町 中田下中田	戦国	小堂前の山の斜面に平坦地を造成し、2段に石塔を置いている。下段の石塔群は藪に埋もれているため確認数より多いものと思われる。				14 B-5
201	友成家墓地石塔群	国東町 中田	戦国	友成家累代墓の裏に石塔が並べられている。組合せは本来のものではなく、戦国期のものがほとんどであるが、基礎と墓壇が当初のものである宝篋印塔は南北朝後半～室町期に遡る良品である。				14 B-5
202	東光寺石塔群	国東町 中田	室町～戦国	本堂裏に石塔部材が集められている。国東塔の数は基礎の数であり、その他の部材数は宝塔の部材数にまとめた。				14 B-5
203	萱嶋家無縫塔と周辺石塔群	国東町 岩屋	戦国～近世初期	丘陵急斜面に2段の平坦地を造成し、配石墓上に石塔を立てている。上段には塔身が失われた市有形の重刹無縫塔と共存の宝塔が、下段には既存の国東塔と相輪・塔身を欠く宝篋印塔がみられる。このほかに墓地にいたる山道の入口に一石五輪塔が1基置かれている。		市有形(無縫塔)		14 B-4
204	岩屋集落墓地五輪塔群	国東町 岩屋	戦国	墓地の整理された近世墓碑裏に石塔が集められている。このほかに隣接する熊野社にも少数例みられるが、一連のものであろう。				14 C-5
205	岩屋五輪塔群	国東町 岩屋	戦国	農道に沿って山の斜面の平坦地に離れてある2か所の墓地に五輪塔がみられる。				14 B-4
206	堀之内観音堂石塔群	国東町 岩屋	戦国	観音堂周辺に石塔が散在する。				14 B-4
207	栗林家墓地石塔群	国東町 岩屋	戦国～近世初期	整理された近世墓地中に地藏陽刻板碑と一石五輪塔が並べられている。				14 B-5
208	岡田家墓地五輪塔群	国東町 岩屋	戦国	近世墓地の一角に石塔部材が集められている。				14 B-5
209	下観音堂石塔群	国東町 赤松下	南北朝～戦国	観音堂の下段に石塔が集められているが、組合せは本来のものでない。				14 C-5
210	左荘板碑	国東町 赤松	鎌倉	集落から山に入った林中に立てられている県有形の両面板碑である。碑身には正面にハン、裏面に力の梵字種子が薬研彫りされており、表面には刻銘もみられる。	正中3(1326)	県有形(板碑)	35	14 C-2
211	阿弥陀堂石塔群	国東町 赤松京一	南北朝～戦国	境内の端に近世の石造物とともに石塔部材が並べられている。中でも、宝塔は南北朝～室町期のもと考えられ、笠～基礎を一石でつくり、相輪を嵌め込む穴を穿つ特異なものである。石幢は宝珠と龍部、基礎が残されているが、同一個体ものとは言えない。				14 C-3
212	利生寺五輪塔群	国東町 赤松中	戦国	山門をくぐり参道の石段の両側に一石五輪塔と五輪塔が置かれている。				14 C-4
213	利生寺歴代住職墓地一石五輪塔	国東町 赤松中	戦国	墓地中に水輪・地輪のみが残る一石五輪塔が1点置かれている。				14 C-4
214	赤松集落墓地石塔群	国東町 赤松	戦国	集落墓地の最下段に石塔部材が並べられているが、組合せは本来のものでない。国東塔は基礎の蓮華座のみである。				14 C-4
215	阿弥陀堂石塔	安岐町 両子二郎丸ノ上	戦国	中分集落内に、阿弥陀堂と呼ばれる1間半四方の小堂がある。内部に一石五輪塔が1基安置されている。			37	14 E-1
216	歳神社宝篋印塔	安岐町 両子字天徳	室町	歳神社境内に宝篋印塔が1基ある。基高207cmで、塔身は無地である。相輪の火焰宝珠や基礎側面の格狭間はやや形骸化している。よって、室町期の造立と思われる。			17-37	14 E-1
217	小畑観音堂石塔	安岐町 両子前	戦国	小畑集落内にある観音堂の境内に五輪塔が1基ある。			37	14 E-1
218	西福寺石塔群	安岐町 富清田ノ上	南北朝～戦国	臨済宗西福寺山門脇に国東塔1基が、また本堂裏には同寺開山の巴山禪師の墓と伝承される板碑1基と五輪塔などがある。国東塔の笠は軒口が厚く両端で強く反る。基礎側面の格狭間はやや形骸化しており、南北朝末から室町にかけての作か。		市有形(国東塔)	17-37	14 F-1
219	西念寺石塔群	安岐町 富清寺台	室町～戦国	浄土真宗西念寺の本堂前に、宝篋印塔1基と五輪塔部材がある。宝篋印塔は総高210cmで、相輪の切り込みは浅く、塔身は無地で、基礎には形骸化した格狭間が彫られる。室町期の作であろう。			37	14 G-1
220	中谷八坂神社石塔	安岐町 富清	戦国	八坂神社境内に一石五輪塔が1基ある。				14 G-1
221	影平石塔群	安岐町 糸永	室町～戦国	地藏堂跡北方の屋敷地背後に、五輪塔の部材などが散乱する。				14 H-1
222	地藏堂跡板状碑	安岐町 糸永	室町	影平集落内の地藏堂跡地にある高さ98cmの方形の板石である。正面に位牌形を陰刻し、その中に「雲 祐口禪門/瑞 妙口禪尼」の法名が刻まれる。また、右側面には「応永丙午(1426) 仲春下旬日」の銘がある。	応永33(1426)	市有形(板状碑)	17-37	14 H-1
223	桂徳寺石塔群	安岐町 糸永 柚の木	南北朝～戦国	臨済宗桂徳寺本堂の北側に、総高288cmの宝篋印塔1基と一石五輪塔、五輪塔がみられる。宝篋印塔は太めの相輪をもち、塔身四面には月輪を線刻し胎蔵界四仏種子(ア、アー、アン、アク)を薬研彫りする。南北朝期の作と思われる。		市有形(宝篋印塔)	17-37	14 H-1
224	旧古城家墓地石塔群	武蔵町 丸小野中村		県道に接する里道脇の旧古城家墓地跡にある。近辺の元古城家の土地で、県道改修に伴い出土したものをここに置いた。			17	14 D-2
225	岡・東光寺跡西石塔群	武蔵町 丸小野岡	室町～戦国	丸小野寺講堂の西側に位置し、岡集落に接する里道脇にある。				14 E-2
226	丸小野寺石塔群3	武蔵町 楢本千福	南北朝～室町	講堂の前と背後の境内にある石塔群。現在の板碑の左側に、以前本堂前にある板碑があった。板碑の紀年銘は望月氏の報告によれば、康永2年(1343)とあったようだ。高さ162.5cmあり、望月氏の写真から、元は講堂跡から近年移動させたものである。	康永2(1343)		2-25 35	14 E-2
227	丸小野寺石塔群2	武蔵町 丸小野	室町～戦国	丸小野寺境内前にある参道を隔てた台地のやや上位部分に、寄せ集め並べられている。中世から現代まで室町・戦国の石塔が数百あり、さながら石塔の展示室のようである。やや低い北側部分に石塔の残骸が僅かにみられ、このあたりから移動したのたろう。			24	14 E-2
228	丸小野下公民館横五輪塔	武蔵町 丸小野	室町～戦国	県道から公民館に登る道を上りつめた左手山側(北側)の斜面にある。				14 E-3
229	山元家石塔群	武蔵町 麻田間熊	室町～戦国	県道沿いの山側(北側)の畑に9基前後の石塔からなる。対岸(南側)のクヌキ山から運んだと伝えられている。				14 E-3
230	岩武家・大坪家共有墓地内石塔群	武蔵町 上麻田大坪シシカイ	室町～戦国	挟田と上麻田に挟まれた尾根上に立地する。				14 E-3

塔形及び個体数																									
五輪塔				宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
	8	9	4	10																	2				
																					3				
																			1						1
		2	1	1																	2				
		3					2	1	3																
		3	2			1	1													1	4				笠塔婆3
	17	9	8			1	1							1	1					2	5				笠塔婆5
																									石仏3
	13	19	14	11								1	1	1	1						9				
	22	9	16	17					1	1		2		1	1						3		1		
	14	10	16	4	1							3		7	2	2		4			1				
		1			1						1	1		4			1	2							
	2	1	3																		4				
	1																				2				
	9	17	2	3									1								2				
																				1	2				
		1		2																	2				
	2	3	4				5		2				1	1							6				
																				1					
			1				1		1		1			1						1	1			3	
	1	1	1	1																	1				
																					1				
	9	10	17	16									3	7	2	3		1			6				
																					1				
					1																				
1																									
	2	1	1	1															1	1					残欠1
		1	1	1	1																				
																					1				
	5	1	1			2																			
																									板状碑
	3	9	7	8	1																11				
	2		4	2																	1				
		1	3	2																	4				
					1																1				1
	9	5	11	3								3								1	5				
		1																							
	1	3	3	2																	6				
	1	1	1	1																	1				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
231	間熊の山神社五輪塔	武蔵町 上麻田 間熊	室町～戦国	西から東へ下る谷筋の南側斜面にある山神社背後の土手上にある。				14 E-3
232	多賀神社前石塔群	武蔵町 上麻田	室町～戦国	間熊の山神社を遡った所にある多賀神社前の石塔群。平地があり、かつては寺があったのではなからうか。				14 E-3
233	丸小野寺石塔群1	武蔵町 丸小野	南北朝～室町	本堂前の境内にある板碑1、宝塔1(国東塔か)からなる。板碑の一つは高さ175cmあり、「康永元年(1342)」と紀年銘が刻字されている。望月氏の写真から、元は講堂跡から近年移動させたものである。	康永元(1342)	市有形(板碑)	2・25 35	14 E-2
234	中畑共有墓地石塔群	武蔵町 中畑 狭間	室町～戦国	山神社に近い県道脇(山側)の近世墓群に混じって中世の石塔がある。				14 E-4
235	久保畑十王堂石塔群	武蔵町 久保畑 麻田	室町～戦国	10体の木製十王像を祀る堂の境内にある。十王堂は西に向って県道の右手にある。				14 E-4
236	光福寺跡石塔群	武蔵町 上麻田 原畑	室町～戦国	かつて光福寺があったとされる場所である。「先祖碑」と刻字のある石塔は安土桃山時代のものでされ、市指定有形文化財である。室には毘沙門天が祀られているようで、「びしゃもん様」と呼ばれている。		市有形(国東塔)	16	14 F-4
237	北向薬師石塔群	武蔵町 麻田 樋ノ口	室町～戦国	西から東へ延びる丘陵端部に立地する。室内に石仏、堂外北側の境内に五輪塔・宝篋印塔などが位置する。谷川を挟んで北側に位置する小畑阿弥陀堂の阿弥陀如来とともに地元では「両仏(りょうふとはけ)様」と呼んでいる。室内には中央に阿弥陀如来のほかに、地藏十王の石仏がある。なお、堂手前左手の崖面に磨崖仏数基あるようだ。				14 F-4
238	下麻田・梶取家石幢	武蔵町 下麻田 小畑	室町	下麻田・梶取家裏の阿弥陀堂への参道沿いにある。傘部、塔身を欠く石幢の基礎部で六角形。蓮華坐がある。				14 F-4
239	小畑阿弥陀堂石塔群	武蔵町 下麻田 小畑	室町	下麻田・梶取家裏の参道を約150m上った阿弥陀堂境内にある。完存の五輪塔5基のうち3基は空風輪がない。				14 F-4
240	小畑地区共有墓地石塔群	武蔵町 下麻田 小畑	室町	下麻田・梶取家裏の参道を上った阿弥陀堂境内をさらに上った場所に 小畑地区の共有墓地がある。共有墓地の中央部付近の近現代墓の脇に五輪塔などが片付け並べられている。また共有墓地の東に上る山道があり、脇に五輪塔の火輪が1基ある。				14 F-4
241	松ヶ迫大山祇神社前石塔群	武蔵町 松ヶ迫 吉弘	室町～戦国	大山祇神社前の県道脇にゴミステーションがあり、その背後の銀杏木の脇に位置する。				14 F-3
242	中日向清原家墓地脇石塔群	武蔵町 中日向 吉弘	室町～戦国	西光寺前の県道を西に向った県道右脇の清原家墓地の背後にある。一石五輪塔は11基が空風輪を欠き、2基が完存。				14 F-3
243	西光寺石塔群	武蔵町 吉弘	南北朝～室町	西光寺の境内と観音堂に石造物がある。県有形の国東塔は紀年銘をもち、観音堂の中には阿弥陀如来の石仏がある。板碑は釈迦三尊の種子を有する例と阿弥陀三尊の種子を有する例がある。この他男根状の板碑があるが、紀年銘はない。石幢は龜部の残欠。	至徳4(1387)	県有形(国東塔)	16	14 F-3
244	西蔭平一字一石五輪塔群	武蔵町 西蔭平 吉弘	室町～戦国	東流する谷川を隔て、西光寺を北に望む丘陵端部の里道脇に散在している。道路脇背後の丘陵端を10m上った場所に堂跡がある。				14 G-3
245	山口阿弥陀堂石造物群	武蔵町 山口 吉弘	室町～戦国	県道から吉弘城跡方向へ左折して50m前後いったところの右手の民家背後にある。阿弥陀堂の境内に石殿、室内に石仏群、阿弥陀堂前の道路脇50m(西)地点に一石五輪塔がある。石仏は阿弥陀如来が1体、地藏が5体ある。石殿は正面が2区画、両側は砲弾形の陰刻、裏面はない。				14 G-3
246	安見家墓地石塔群	武蔵町 吉弘	室町～戦国	永泰寺背後の里道を南方に行き、川を渡った場所にある低い丘陵上にある安見家墓地内にある。				14 G-3
247	吉弘七代の墓	武蔵町 永泰寺 吉弘	室町～戦国	永泰寺に隣接する加藤家の庭にある。紀年銘等は明確でない。宝塔は宝珠を欠く。			16	14 G-3
248	塔ヶ迫六地藏	武蔵町 塔ヶ迫 吉弘	江戸?	尾根状丘陵の山腹に立地する。結縁者5世帯で4月と12月中旬頃に祭祀を行っている。塔身に地藏の浮き彫りがある。国東塔と石幢が折衷したような形態である。		市有形(六地藏)		14 G-4
249	永泰寺の石塔群	武蔵町 永泰寺 吉弘	室町～戦国	龜徳山永泰寺は吉弘にある廃寺で、今は小さなお堂があるのみ。石塔群は永泰寺入口近くに位置している。				14 G-3
250	武蔵報恩寺石塔群	武蔵町 下麻田 蔭平	室町	本堂前の境内にある板碑1と、本堂脇山手側にある墓地に多くの石塔群がある。本堂前の板碑は、奥行き90cm、高さ68cm、幅54cmの岩の表面を陰刻したもの。宝塔と国東塔はほとんど同じで、区別が難しい。		市有形(宝塔)	25	14 F-4
251	麻田カイテ地藏堂石塔群	武蔵町 麻田 カイテ	室町	報恩寺の前を東流する谷川を挟んだ集落地脇に位置する。				14 F-4
252	麻田カイテ五輪塔	武蔵町 麻田 カイテ	室町～戦国	武蔵西小学校裏の県道沿いの交差点角に立てられている。				14 F-4
253	法釈寺の石塔群	武蔵町 下麻田 迫	室町～戦国	階段を上りつめた法釈寺山門前の左右に石塔がある。			16	14 F-5
254	竹内家石塔群	武蔵町 手野	戦国	竹内家累代墓の西側に宝塔と法篋印塔を組み合わせた石塔が、さらに西側のテラス状平坦地の中央奥に銘のある板碑が、北側丘陵頂部にも五輪塔1基と一石五輪21基以上が散在する。	永禄5(1562)	市有形(板碑)		14 G-5
255	地藏堂宝塔	国東町 川原 城川	戦国	地藏堂前の1×1.5mの集石上に完存の宝塔が1基置かれている。				14 B-5
256	八坂社五輪塔群	国東町 原	戦国	八坂社石鳥居横の大きな記念碑裏に石塔が並べられている。組合せは本来のものではなく周辺の園境整備に際して集められたと伝えられている。				14 B-5
257	三好家横五輪塔群	国東町 原	戦国	畑に一石五輪塔と組合せの異なる五輪塔が建てられている。				14 C-5
258	神田家墓地石塔群	国東町 原	戦国	神田家の先祖墓と伝えられる墓地に自然石塔婆や近世墓碑とともに五輪塔の部材がみられる。				14 C-5
259	地藏堂石塔群	国東町 原	戦国	小堂周辺に石塔部材が散在するが、中でも、国東塔は組合せもよい優品である。このほかにも国東塔の基礎がみられる。				14 C-5
260	山吹集落西墓地五輪塔群	国東町 山吹 原	戦国	墓地の一角に石塔部材が集積されている。				14 C-5
261	山吹集落東墓地五輪塔群	国東町 山吹 原	戦国	一丸家の墓地中に五輪塔がみられる。				14 C-5
262	平等寺石塔群	国東町 原	戦国	平等寺の本堂横や裏の歴代住職墓地に石塔部材がみられる。石幢は龜部のみであり、六面に地藏が彫刻されている。				14 B-6
263	常聚院石塔群	国東町 川原	戦国	常聚院本堂横の石段横に石塔が並べられているが、整理されたものである。層塔は笠と軸部が一石に造られた部材の個体数である。				14 B-6
264	川原板碑と周辺石塔群	国東町 川原	鎌倉～戦国	高さ1～2m、15m四方程度の方形壇中央に小さな川原石を詰めた2m四方の区画に完存の五輪塔(鎌倉期)を置いている。この横に紀年銘をもつ県有形の2基の板碑とその他の石塔群が置かれている。	文保3(1319) 元応2(1320)	県有形(板碑)	24・35	14 B-6
265	清末建設石塔群	国東町 原	南北朝～戦国	庭先に石塔部材が集められている。中でも、基壇や相輪はきわめて大型で完存であれば総高4mにも及ぶ大型品であろう。				14 B-6
266	本田家墓地一石五輪塔	国東町 原	戦国	配石墓をもつ近世墓地に一石五輪塔がみられる。				14 B-6
267	清末家墓地五輪塔群	国東町 原	戦国	墓地中に五輪塔部材が散在する。				14 B-6
268	堤家墓地石塔群	国東町 原	戦国	墓地中に石塔部材が散在する。なお、無縫塔は塔身のみである。				14 C-6
269	松本家墓地石塔群	国東町 原	戦国	墓地中に石塔部材が散在する。なお、無縫塔は中台のみである。				14 C-6

塔形及び個体数																										
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形		
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
																					1					
	5	16	10	4		1	1		1	2											28					
											2															
		3	2	2		1															1					
	1	2																			3					
	5	11	6	9	1													1		6						
9	1	2		1	1																					石造阿弥陀如来1 石造地藏10
																								1		
5	1	2	1	1	1						2															
	1	1																			4					
	2																				1					
	5		1	1		1															13					
																		1	2	1				1		笠塔婆1、石仏1
				1												1					2					
																					1			3		石仏5
3																		1								
4	1		1								1							1				7				
																								1		
	1								1																2	
			1	1		1					10	1	1				1		4	4					2	
	3	2																							1	
			1	1																						
	2	5	1	1																	6			1		
1	1	9	4	1			1		1	1	1										21					
											1															
		1	1																			1				
	1	1																			3					
	4	6	5										1				2			2						
	2	2	3																		2					
	1	2	3	4																	2					
		7	2																		1			1		
	9	6	9	7			1					2	1								11					層塔1
1	7	5	5	8									1	3	2	2			3	2						
	2	1	2									1					1									
																					2					
	2	3	2																		1					
	1	2	1																		2	1				
	2	13	3	4									1								2	1				

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
270	遍際寺五輪塔群	国東町 原	戦国	境内および歴代住職墓地に五輪塔部材が散在する。				14 B-6
271	十王堂石塔群	国東町 原	戦国	十王堂の周囲や横の墓地に石塔がみられる。				14 C-6
272	原小堂跡石塔群	国東町 原	戦国	小堂跡に近世の石造物とともに中世の石塔部材が置かれている。				14 B-6
273	地藏堂石塔群	国東町 原	室町～戦国	地藏堂周辺に石塔部材が集められている。				14 B-6
274	国東市歴史体験学習館石塔群	国東町 安国寺	南北朝～戦国	駐車場前の植え込み中に置かれているが、かつて歴史民俗資料館の前に置かれていたものを移転したものである。		市有形(国東塔)		14 C-6
275	森家墓地五輪塔群	国東町 安国寺	戦国～近世初期	累代墓化し、整理された墓地の端に一石五輪塔が並べられている。墓地造成に際し、移動されたものであろう。				14 C-6
276	川原一石五輪塔	国東町 川原	戦国	近世墓地中の大乗妙典塔の横に一石五輪塔が基置されている。				14 B-7
277	吉木集落西墓地五輪塔群	国東町 北江吉木	戦国	累代墓化されて整理された墓地中に石塔部材が散在する。				14 B-7
278	吉木集落中墓地石塔群	国東町 北江吉木	南北朝～戦国	近世の「大乗妙典」塔の周辺に石塔部材が集められているほか、累代墓化された墓地中にも部材が散在する。そのほとんどが戦国期のものであるが、五輪塔の部材に南北朝期に遡るものも存在する。				14 B-7
279	吉木集落東墓地石塔群	国東町 北江吉木	戦国	累代墓化されて整理された墓地中に近世墓碑と並んで五輪塔部材が集積されたり、組み合わせられたりしている。				14 B-7
280	吉松家横石塔群	国東町 北江	戦国	石祠の横に石塔部材が置かれている。				14 B-7
281	阿弥陀堂石塔群	国東町 田深	戦国	近年、移設された阿弥陀堂横に石塔部材が置かれているが、これらも移設されたものであろう。				14 B-7
282	吉木薬師堂石塔群	国東町 北江吉木	南北朝～戦国	小堂横に石塔部材が並べられている。				14 B-7
283	吉木九重塔と周辺石塔群	国東町 北江吉木	鎌倉～南北朝	南北朝期の九重塔(県有形)は相輪のみを欠く完存品である。この周囲に石塔部材が見られる。		県有形(九重塔)		14 B-7
284	菅原神社・八坂神社石塔群	国東町 田深	鎌倉末～戦国	隣接する両社の境内に石塔部材がみられる。ほとんどが戦国期のものであるが、菅原神社にみられる相輪は鎌倉末～南北朝前期葉のものである。				14 B-8
285	浄念寺石塔群	国東町 田深	南北朝～戦国	境内に石塔部材が重ねられている。他所から持ち込まれたものであろう。宝塔部材は南北朝～室町期のものであろう。				14 B-8
286	定林院石塔群	国東町 安国寺	戦国	定林院の門前・山門付近・日本堂周辺・歴代住職墓地等、各所に石塔部材がみられる。無縫塔・国東塔に関しては、組合せが本来のものではないため、各部材の個体数で示した。				14 C-7
287	佐藤家石塔群	国東町 安国寺	戦国	定林院前の佐藤家の入口や裏に石塔部材が置かれている。定林院関係のものであろうか。				14 C-7
288	安国寺集落墓地石塔群	国東町 安国寺	戦国	墓地の各段や田原氏供養塔の段に石塔部材が散見する。無縫塔は竿と基壇がみられる。				14 C-7
289	安国寺石塔群	国東町 安国寺	鎌倉～戦国	参道石段横や墓地最下段、開山堂横などに石塔がみられる。中でも、開山堂横の石塔群は花崗岩製の層塔・宝塔の部材であり、明治期に京都から持ち込まれたと伝えられている。				14 C-7
290	安国寺住職墓地石塔群	国東町 安国寺	戦国	安国寺の門前に歴代住職墓地をはじめ、3箇所に分かれて石塔のまとまりが確認できる。本来は同じ場所に存在したものと考えられる。				14 C-7
291	薬師堂石塔群	国東町 安国寺	戦国	薬師堂境内に石塔部材が重ねられている。				14 C-7
292	景雄寺五輪塔群	国東町 安国寺	戦国	境内の一角に2箇所に分けて五輪塔部材が並べられている。				14 C-7
293	安国寺集落墓地石塔群	国東町 安国寺	戦国	高台の畑地に近接して3か所に墓地が営まれており、いずれも石塔部材が散在している。国東塔は基礎のみである。				14 C-7
294	桜八幡別当墓地石塔群	国東町 鶴川	戦国	近世以降の墓地の端に中世の石塔部材が集められている。				14 C-8
295	西林寺石塔群	国東町 田深	南北朝	境内に完存の宝篋印塔がある。一石の基壇二段と基礎および笠は当初のものであり、他は別材である。塔身には梵字種子ハの四方門を薬研彫りしている。				14 B-8
296	事代主神社石塔群	国東町 鶴川	戦国	神社の一角に石塔部材が集められている。				14 C-8
297	興導寺石塔群	国東町 鶴川	戦国	境内の一角に石塔部材が並べられている。周辺から持ち込まれたと伝えられている。				14 C-8
298	地主神社石塔群	国東町 鶴川	室町～戦国	境内の一角に並べられているが、組合せは本来のものではない。神社の北にある空也池周辺にあったものを移設したと伝えられている。				14 C-8
299	清部家横墓地石塔群	国東町 鶴川	戦国	墓地の一角に石塔部材が組まれているが、組合せは本来のものでない。				14 C-8
300	馬場家横墓地石塔群	国東町 鶴川	戦国～近世初頭	近世墓や集石墓中に石塔部材がみられる。				14 C-8
301	鶴川集落墓地石塔群	国東町 鶴川	南北朝～戦国	累代墓や墓碑に混じり石塔部材が置かれている。ほとんどが戦国期のものであるが、一部に南北朝期に遡るものがあり、角柱塔婆は南北朝後半のものであろう。				14 C-8
302	十王石塔群	国東町 鶴川十王	戦国	グラウンド横の一角に丸彫りの石造十王をコの字状に配置しており、その周辺に石塔部材が散在する。国東高校グラウンドから移設されたものと伝えられている。			34	14 C-8
303	馬場家墓地石塔群	国東町 鶴川	戦国	墓地の一角に相輪を欠く完存の宝塔と五輪塔部材が重ねられている。				14 D-8
304	上小原地蔵堂五輪塔群	国東町 小原力堂	戦国	地藏堂横に石塔部材が置かれている。				14 D-6
305	保福寺石塔群	国東町 小原上小原下分	戦国	本堂前に一石五輪塔がある。また、観音堂横に歴代住職墓地があり、竿を欠く重制無縫塔や相輪を欠く完存の宝塔などがみられる。				14 D-6
306	教順寺宝篋印塔	国東町 小原	南北朝～室町	山門前に単独で建てられている相輪下半のみを欠く完存の宝篋印塔である。塔身には月輪内に梵字種子を大きく薬研彫りしている。				14 D-7
307	小原地蔵堂石塔群	国東町 小原	戦国	地藏堂横や墓地中に石塔部材が散在する。石幢は龕部のみである。				14 D-7
308	阿弥陀堂跡石塔群	国東町 次郎丸上次郎丸	戦国	境内地に石造物が集積・散在している。石殿は龕部のみであり、十王を隅刻しており、石幢は龕部と竿のみであり、龕部には六面に地藏が陽刻されている。				14 E-6
309	次郎丸連碑	国東町 次郎丸上次郎丸	南北朝	山の斜面に5×10m程度の平坦地をつくり、自然石を加工して幅15cm程度、高さ100～170cmの12連の板碑形を彫出している。碑面には刻書・墨書等は認められない。			市有形(摩崖碑)	14 E-6
310	観音堂五輪塔群	国東町 次郎丸上次郎丸	戦国	観音堂前や露岩に一石五輪塔が置かれている。				14 E-7
311	経蔵寺墓地石塔群	国東町 次郎丸	戦国	整理された墓地の各所に石塔部材が置かれている。中でも、観音像周辺に集積されており、歴代住職墓地の中央には総高110cmを測る完存の宝塔が置かれている。				14 E-7
312	黒津崎集落墓地石塔群	国東町 小原黒津崎	戦国	累代墓化された近世墓地の累代墓の横に石塔部材が散見できる。				14 E-8

塔形及び個体数																																										
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形																				
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇																									
	2	2	3	2																																						
	3																																							十王9		
	2		1				1		1																																	
	7	2	4				2		1																																	
			1									1	1			1																										
	1	2	1											1																												
	8	10	5	8										4																												
	2	5	3	2																																						
		2																																								
	2	2	2																																							
	4	8	2											1																												
	8	10	8	5																																				層塔1		
	7	5	8										1																													
		6													1	1																										
	13	8	14	3	1									3	4	1																										
	1	2	2																																							
	4	2	2																																							
	9	12	3	2									3	2																										層塔		
	17	20	16	7			1						4	9	4	1																							笠塔婆龕部1			
		2	3			1	1																																	1		
		9	2	3																																						
	4	8		11									1	1	4																											
	6	5	11	6									1	2	1																											
					1																																					
		3	1	1			1																																			
	3	9																																								
	23	12	14	11		1	1																																			
	11	13	10	8																																						
	2	4	4	3																																						
	15	11		1											2																											
	1	3	2																																						十王	
	2	2	1									1																														
	1	6																																								
						1									1																											
	6																																									
	13	3	19	6			1																																			
																																										磨崖連碑1
	11	6	4	1					1			1																														
	2	1	4	2											1																											

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
313	綱井集落墓地石塔群1	国東町 綱井	南北朝～戦国	累代墓化された墓地の各家の墓石集積の中に中世石塔の部材がみられる。ほとんどが戦国期のものであるが、南北朝期のものが少数確認できる。				14 F-7
314	綱井集落墓地石塔群3	国東町 綱井	戦国	累代墓化した近世墓地中の最上位に中世の石塔部材が置かれている。				14 F-7
315	綱井大師堂石塔群	国東町 綱井	南北朝～戦国	大師堂前に相輪と塔身を欠く完存の大型宝篋印塔がある。この宝篋印塔には墓壇に奉納孔がみられる。この周辺や大師堂横の観音堂横にも石塔部材が置かれている。				14 F-7
316	綱井集落墓地石塔群2	国東町 綱井	戦国	集落墓地中に石塔部材が散在する。				14 F-7
317	綱井毘沙門堂石塔群	国東町 綱井	戦国	毘沙門堂の前や横に石塔部材が散在する。				14 F-7
318	重藤集落墓地石塔群	国東町 重藤	戦国	丘陵斜面を利用した墓地の最下段に石塔部材がみられる。				14 G-7
319	清末家墓地五輪塔群	国東町 綱井	戦国	海岸に近い水田中の墓地に拳～人頭大の川原石からなる集石遺構があり、その集石内に石塔部材がみられる。				14 F-8
320	綱井海岸墓地石塔群	国東町 綱井	戦国	累代墓化し寄せ集められた近世墓地中に中世の石塔部材が重ねられている。				14 F-8
321	重藤五輪塔群	国東町 重藤	戦国	道路に面した防火水槽の横に石祠が置かれ、その周辺に五輪塔部材がみられる。埋もれている部材も存在すると思える。				14 G-7
322	重藤十王堂石造仏像群	国東町 重藤	室町	十王堂の中に10体の十王石仏とともに、阿弥陀三尊と六地藏を上下に浮彫りしている石仏や明徳4年銘をもつ地藏や俱生2体の丸彫りの石仏が納められている。	明徳4 (1393)	県有形 (石仏)		14 G-7
323	徳丸家石塔群	武蔵町 池の内	戦国	徳丸家の入り口西側に五輪塔を中心とする石塔群が寄せ集められる。				14 G-7
324	蓮華寺石塔群	武蔵町 池の内	戦国	蓮華寺の住職墓地と境内に五輪塔などの石塔群が存在する。				14 G-7
325	蓮華寺南石塔群	武蔵町 池の内	戦国	蓮華寺南側の近世墓地内に五輪塔の残欠と一石五輪塔がある。				14 G-7
326	友成家石塔群	武蔵町 手野	戦国	友成家裏の畑地に五輪塔残欠を集積。				14 G-5
327	虚空蔵菩薩堂石塔群	武蔵町 手野	戦国	藤嶋家横の虚空蔵菩薩堂入り口に五輪塔部材を積む。				14 G-5
328	円明寺石塔群	武蔵町 成吉	鎌倉・戦国	円明寺本堂南東部に市有形の宝篋印塔があり、庫裏の裏側にもコンクリートで固定された石塔群がある。	正応2 (1289)	市有形 (宝篋印塔)		14 H-6
329	厚田家石塔群	武蔵町 成吉	鎌倉・戦国	厚田家屋敷内の山側の畑地に石塔群を集め、基礎をコンクリートで固定する。永仁三年銘の板碑は市有形。	永仁3 (1295)	市有形 (板碑)	2	14 H-6
330	厚田家墓地南石塔群	武蔵町 成吉	戦国	厚田家十王石室(市指定)と道を挟んだ南側に宝塔を中心とした石塔群がある。				14 H-6
331	川嶋家墓地石塔群	武蔵町 成吉	戦国	川嶋家墓地の前に石塔群を集めている。				14 H-6
332	川嶋家墓地東石塔群	武蔵町 成吉	戦国	川嶋家墓地東約15mにある石塔群。				14 H-6
333	武蔵中北西墓地石塔群	武蔵町 成吉	戦国	武蔵中学校北西の近世墓地の一面に石塔群が寄せ集められる。				14 H-6
334	花木家西石塔群	武蔵町 志和利	戦国	花木家の西側丘陵部に石塔部材を集めている。				14 H-5
335	毘沙門天堂石塔群	武蔵町 成吉	戦国	毘沙門天堂裏の崖に掘り込まれた岩窟(横穴墓あり)に石塔部材を置いている。				14 H-6
336	踊臺五輪塔群	安岐町 矢川	室町～戦国	中ノ川集落は背後の山林中に踊臺と称される墓地がある。近世以降の墓碑がみられるが、一角に五輪塔などが集積されている。その多くは他所からの持ち込みとされる。大多数は五輪塔であるが、なかに国東塔も散見される。相輪がつくものもみられるが、相輪のかわりに空風輪がつくものが目立つ。(A)基礎上面に蓮華座をもち、蓮弁の彫りが形骸化した反花として半球形の別材をのせるもの (B)反花がないもの (C)反花がなく、基礎上面の蓮華座を彫り出さず段となったものがあり、Aが1基、Bが2基、Cが1基である。このほか宝篋印塔もみられる。			37	20 B-8
337	中ノ川観音堂石塔群	安岐町 屋敷	南北朝	中ノ川神社参道の左側に観音堂がある。境内に宝篋印塔1基と板碑2基がある。宝篋印塔は総高3mを越え、塔身四面には月輪を線刻し、その中に金剛界四仏種子を薬研彫りする。板碑のうち1基は高さ175cmで、碑身に阿弥陀種子(キリク)を薬研彫りする。もう1基は高さ68cmで、文殊種子(マン)の墨書がある。以上は、いずれも南北朝期の作と思われる。			37	20 B-7
338	玉林寺跡石塔群	安岐町 中之迫	室町～戦国	玉林寺は廃寺となり、現在は空地となっている。かつての境内に五輪塔残欠などが散在している。			37	20 A-8
339	仏野観音堂石塔群	安岐町 新崖	室町～戦国	仏野観音堂は、仏野集落背後の山腹にある。境内には石造十王像などが安置される。堂入口には石造仁王像が2体置かれ、境内に五輪塔群がみられる。			37	20 B-8
340	橋上観音堂石塔群	安岐町 山浦西	室町～戦国	観音堂は、橋上集落裏の山中にあり、境内に五輪塔、国東塔の部材などが集積される。国東塔は基礎の上面に蓮華座が彫り出されるもので、戦国期の作か。			37	20 D-8
341	西白寺石塔群	安岐町 朝来弁分	室町～戦国	臨濟宗西白寺境内の観音堂裏手に、石殿、宝篋印塔部材などがある。石殿は軸部の正背面に2体ずつ、両側面1体ずつの六地藏が浮き彫りにされている。室町期の作と思われる。			37	21 A-1
342	中野家石塔群	安岐町 朝来	室町～戦国	八坂社北側の屋敷地背後にあり、五輪塔、板碑、石幢などがみられる。板碑5基はいずれも小形で、うち4基には薬師(ハイ)、釈迦(ハク)、地藏(カ)、不動(カーン)の種子が墨書される。			37	21 A-1
343	八坂社板碑	安岐町 富園	南北朝	弁分地区の鎮守である八坂社にある。総高202cmを測り、碑面上部に普賢菩薩の種子(アン)が薬研彫りされ、その下に「元弘三年(1333) /道法/敬白」の陰刻銘がある。	元弘3 (1333)	県有形 (板碑)	17-35 37	21 A-1
344	塔野板碑	安岐町 塔野	南北朝	八坂社背後の山腹を通る古道沿いにある。総高167cmを測り、碑面上部に阿弥陀(キリク)の種子が薬研彫りされ、その下に「永和二年(1376) 丙辰壬七十五」の陰刻銘がある。	永和2 (1376)	市有形 (板碑)	17-35 37	21 A-1
345	釜ヶ迫石塔群	安岐町 朝来釜ヶ迫	南北朝～戦国	朝来谷の東側山腹を通る古道からやや入った釜ヶ迫集落の屋敷地裏手に大型の国東塔1基があり、その周辺に五輪塔や宝篋印塔の部材がみられる。総高312cmの国東塔の塔身には、阿弥陀、観音、勢至ほかの四仏種子が薬研彫りされ、その行間に「右為慈父悲母/建武二年(1335) 乙亥二月十二日/各敬白/大願主/紀友房 同守房/紀中子 同乙子」の陰刻銘がある。	建武2 (1335)	国重文 (国東塔)	17-24 37	21 B-1
346	瑠璃光寺石塔群	安岐町 糸永杉山	南北朝～戦国	六郷山寺の瑠璃光寺境内に石殿1基のほか多数の五輪塔がみられる。石殿は軸部表背に各2体、左右側面に各1体の六地藏が浮き彫りにされる。室町期の作と思われる。五輪塔は日本堂裏山から移されたもののほかに、他所からの持ち込みも多数ある。国東塔は相輪がなく、空風輪が付く。笠の上の露盤には格狭間がみられるが、塔身は首部をもたず球形を呈する。基礎上面は蓮華座が彫り出される。		市有形 (石殿、五輪塔)	17-37	21 A-1
347	杉山石塔群	安岐町 糸永	室町～戦国	瑠璃光寺へ上る道路の登り口にあり、五輪塔、一石五輪塔のほか宝篋印塔と小型国東塔の部材がみられる。				21 A-1
348	東家石塔群	安岐町 密乗院	室町～戦国	十王堂を東に見下ろす屋敷群のうち、東家の屋敷裏にある。五輪塔、宝篋印塔などの部材が散在する。				21 C-1
349	十王堂石造物群	安岐町 密乗院	戦国	十王堂は、密乗院地区の中央の水田中にある。境内には十王像のほか、閻魔王像、地藏菩薩坐像などの石造仏が安置される。堂裏手の大石上に一石五輪塔がある。			37	21 C-1
350	密乗院跡石塔群	安岐町 密乗院	室町～戦国	十王堂東方の畑地が密乗院跡と伝承されている。畑に隣接する竹林斜面に五輪塔の部材などが集積する。周辺には部材がさらに埋没していると思われる。				21 C-1

塔形及び個体数																												
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無礎塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形						
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇											
	7	10	6	6								1	1	2														
		2	2	1																								
	3	3	2	2	1							1	2	3	2			2										
	3	4	1											1														
	6		2																									
	4	4	4	1																								
	1																											
		5	4	1									1															
	5	3	2	1																								
																											石仏14	
	3	6	5	7			1																				4	
	1	2	3	3								1	1														1	
	2																										2	
		2	3	1																								
	2	3	3																									
	2	4	7	6			1		1				1								1	5						
	2	3	4	10								1	1								5	2						
	3	2	1	1								1	2	2	2							1						
	2	1	1	1								2	4	1	1						1	1						
	1																					2						
	5	3	4	2		1	1	1	1																			
	3	4	2																									
	7	1		2			1																					
約50					1	1	2		1												5							
					1																	2						
	2	5	1			1	1																					
	15	21	20	19																								
	8	12	8	7																	2	1						
		1	1				3		3	3												1						
	13	13	13	11																		5	8			1		
																						1						
																						1						
	7	16	14	13		4	4	1														1			1			
65																					1	12				1		
	2	1	1	1		1	1														2	2						
	1	1					1																1					
																							1				十五	
	6	5	1	3																		4						

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
351	泉正寺宝篋印塔	安岐町 寺ヶ迫	室町	曹洞宗泉正寺境内にある。総高199cmで相輪頂部を欠損する。塔身に月輪、円錐突起に願手文が各々線刻される。室町期の作と思われる。			37	21 A-2
352	ケイチン一石五輪塔	安岐町 吉松 ケイチン	南北朝～室町	七郎集落から上流にさらによった場所にある。総高110cmで、厚手の軒口の下には樋口が刻出される。南北朝～室町期の作であろう。		市有形(一石五輪塔)	17・37	21 A-3
353	上油留木石塔群1	安岐町 油留木	室町～戦国	上油留木集落センターから南に折れ丘陵斜面の集落へ続く坂道沿いにあり、五輪塔と異形国東塔がある。うち異形国東塔2基は相輪がなく空風輪が付く。また、基礎上面には蓮華座を刻出する。				21 A-3
354	上油留木石塔群2	安岐町 油留木	室町～戦国	集落前面の水田中に一石五輪塔と五輪塔がある。園場整備後の群に並べられていることから、原位置を保つものではないと思われる。				21 A-3
355	蜘蛛取石殿	安岐町 油留木 蜘蛛取	室町～戦国	丘陵中の墓地に隣接してある。軸部には正背面各三体つづつ六地藏立像が、左右側面に各々薬師と阿彌陀の座像が浮き彫りにされる。中台の蓮華座は線刻による形式化したものになっており、室町期の造立と思われる。また、周囲に五輪塔残欠が集積される。		県有形(石殿)	17・37	21 A-3
356	雄禅庵跡石幢	安岐町 油留木 塔ノ尾	室町～戦国	集落東側の畦道沿いにある完存品である。太く壺型に膨らんだ禪の形は独特である。また、龕部四面には薬師、観音、阿彌陀、釈迦の四仏が浮き彫りにされる。中台及び基礎上面の蓮弁の彫りは形式的になっており、室町期の作と思われる。周囲には五輪塔の残欠がみられる。		県有形(石幢)	17・37	21 A-3
357	吉武家墓地石塔群	安岐町 油留木	室町～戦国	集落背後の吉武家墓地にある。相輪と塔身を欠く宝篋印塔1基のほか、五輪塔の残欠がみられる。			37	21 A-3
358	不動堂石塔群	安岐町 油留木 下ヶ迫	室町～戦国	不動堂は上油留木集落の下手にある。長い石段を登りついた堂前の大岩の上及びその周辺に、国東塔、五輪塔、石殿がある。国東塔はいずれも相輪ではなく空風輪がつき、(A)基礎上面に蓮華座をもち、蓮弁の彫りが形骸化した反花として半球形の別材をのせるもの (B)反花がないもの (C)反花がなく、基礎上面の蓮華座を彫り出さず段となったものがある。Aが1基、Bが3基、Cが2基である。型式学的にはA→B→Cと変遷すると思われる。石殿は軸部の表裏面に六地藏を、両側面に仏像を2体浮き彫りにしている。			37	21 B-3
359	七郎一石五輪塔	安岐町 今屋敷	南北朝	七郎集落を見下ろす丘陵斜面の畦道沿いに単独である。総高175cmの大型品で、軒口は厚く下に樋口が刻出される。地輪上面には蓮弁を刻む。		市有形(一石五輪塔)	17・37	21 A-3
360	観音堂石塔群	安岐町 油留木 口ノ坪	室町～戦国	観音堂は下油留木集落を見下ろす丘陵斜面にある。境内に宝篋印塔、三連板碑、石幢、五輪塔などがみられる。			37	21 B-3
361	城園寺跡石塔群	安岐町 掛樋 長野	室町～戦国	城園寺跡と伝えられる小堂の裏に、国東塔などが並ぶ。国東塔はいずれも相輪ではなく空風輪がつき、塔身は壺型にちかく、(A)基礎上面に蓮華座をもち、蓮弁の彫りが形骸化した反花として半球形の別材をのせるもの (B)反花がないものがある。Aが4基、Bが1基である。このうちの1基には、「昌清坐元」の陰刻銘がみられる。また、五輪塔の水輪としたものも壺型にちかいかもがあり、宝塔としてとらえられるものが含まれると思われる。			37	21 C-2
362	関神社石塔群	安岐町 掛樋 寛	室町～戦国	関神社境内に一石五輪塔と五輪塔の残欠がある。他所からの持ち込みか。				21 C-3
363	岩屋堂板碑	安岐町 掛樋 寛	南北朝	岩屋堂は算集落からはずれた丘陵中腹にある。阿彌陀種子(キリーク)を業研彫し、「延文五年(1360)庚子七月十五日/(以下墨書)大工妙空西蓮小工宇佐清光」の銘がある。	延文5(1360)	市有形(板碑)	17・35 37	21 C-3
364	お堂様跡石塔群	安岐町 掛樋 小野	室町～戦国	現在は公民館となっているが、地藏堂があったと伝えられる。市指定の一石五輪塔1基のほか、国東塔、五輪塔、宝篋印塔残欠などがみられる。国東塔は戦国期の作と思われ、相輪のかわりに空風輪がのり、基礎上面に蓮華座が彫り出される。		市有形(一石五輪塔)	17・37	21 C-3
365	田尻家墓地石塔群	安岐町 吉松 中村	戦国	本来は田尻氏の屋敷裏に所在していたが、近年現在地(集落背後の山中)に移転。国東塔は異形国東塔と称されるもので、相輪はなく空風輪が付く。基礎には蓮華座をもち、笠の軒口の下には樋がみられる。戦国時代の作であろう。			37	21 A-4
366	恵良石塔群	安岐町 瀬戸田 恵良	室町、戦国	旧安岐高校西側の水田畦道沿いに、室町期の国東塔と戦国期の宝篋印塔が各1基所在する。			37	21 C-4
367	塚ノ元宝篋印塔	安岐町 吉松 一ノ瀬	室町～戦国	前谷川沿いの水田の端に笠部と塔身を欠く宝篋印塔1基があり、その周囲に五輪塔が配置されている。				21 C-5
368	観音堂石塔群	安岐町 吉松 桶田	室町～戦国	田口集落の東側の川を渡った位置に観音堂がある。堂の脇に、庚申塔などとともに五輪塔が安置されている。			37	21 C-5
369	一ノ瀬石塔群	安岐町 吉松 一ノ瀬	室町～戦国	実際寺開山堂北西の道路脇に五輪塔など100余基が群集する。自然石碑1基に「界石 実際寺三十二代墓」とあり、実際寺との関係が窺われる。			37	21 C-5
370	実際寺開山堂石塔群	安岐町 吉松	南北朝	実際寺裏山の北側に所在する。開山堂内には、実際寺開山の自聞正聴の墓塔とされる無縫塔が1基あり、基礎に「実際開山/貞和五年(1349)/丑六月三日」の陰刻がある。また、堂前の境内には五輪塔、宝篋印塔、石幢の部材がみられる。	貞和5(1349)		17・37	21 C-5
371	地藏堂石塔群	安岐町 掛樋 成澄	室町～戦国	両子谷入口の丘陵上に所在する地藏堂境内に、五輪塔7基のほか残欠がある。			37	21 C-2
372	安旨石塔群	安岐町 瀬戸田 安旨	室町～戦国	旧道から北に入った墓地入口にある。石幢は龕部と中台が国東塔相輪と組み合わせられている。並んで宝塔が1基ある。				21 C-5
373	安旨板碑型石碑	安岐町 瀬戸田 安旨	戦国	旧道沿いの屋敷地にある。碑身前面に「寿善了徳信士靈位/慶長三年(1598)戊戌年/十二月二日」の陰刻銘がある。	慶長3(1598)	市有形(板碑)	17・37	21 D-6
374	実際寺石塔群	安岐町 瀬戸田 小川	室町～戦国	実際寺は守護大友氏泰の創建と伝えられる。山門前に戦国期の作と思われる宝篋印塔2基が所在するほか、境内に五輪塔などが散在する。裏山の墓地にも五輪塔の部材が集積されている。			37	21 D-5
375	番畑石塔群	安岐町 成久 番畑	室町～戦国	成久集落南側の水田中に残される。五輪塔などの部材が散乱しているが、草が繁茂しているため不明な部分も多く、総数はさらに増えるであろう。				21 D-5
376	地藏堂石塔	安岐町 成久 福園	室町～戦国	成久集落の南にある地藏堂境内に所在する。石幢の龕部と中台が他の塔形部材と組み合わせられている。				21 D-5
377	福園石塔群	安岐町 成久 福園	室町～戦国	成久集落の屋敷地脇に所在する。				21 D-5
378	清原家石塔群	安岐町 成久 小路畑	室町～戦国	清原家の屋敷地に隣接する墓地の周辺に五輪塔、一石五輪塔が並ぶ。				21 D-5
379	光広石塔群	安岐町 中園 光広	室町～戦国	国東市役所安岐支所北側の屋敷地の一角に所在する。基壇状に整えられた場所に、五輪塔が並ぶ。				21 D-5
380	保正庵石塔群	安岐町 下山口 保正庵	室町～戦国	保正庵は三郎丸集落の永松氏屋敷地に隣接してある。庵の周囲に五輪塔、一石五輪塔、宝篋印塔などがみられる。			37	21 E-4
381	大添八幡宮石塔群	安岐町 大添	室町～戦国	大添八幡宮内の一角に五輪塔残欠などがみられる。他所からの持ち込みである可能性が高い。				21 F-4
382	菩提司八幡社石塔群	安岐町 下山口 菩提司	室町	菩提司八幡社境内に宝篋印塔1基と一石五輪塔が1基みられる。宝篋印塔は基礎側面および塔身とも無地である。室町期の造立と思われる。			37	21 E-4
383	木野石塔群	安岐町 西本 木野	南北朝～戦国	集落内の路傍に所在する。本石塔群の北東50mに西庵がある。南北朝～室町期の作と思われる国東塔を中心に、一石五輪塔や五輪塔がみられる。		市有形(国東塔)	17・37	21 E-5
384	山神社石塔群	安岐町 山浦 橋上	戦国	山神社境内に五輪塔の残欠がある。				21 D-1
385	照恩寺墓地石塔群	武蔵町 三井寺	戦国	照恩寺南側の山中にある近世墓地内の一面に石塔群を集めている。				21 A-6
386	照恩寺国東塔	武蔵町 三井寺 鎌倉	鎌倉	樺八幡社に旧存した国指定の国東塔で、修復し境内の東側にある。	正和5(1316)	国重文(国東塔)	24	21 A-6

塔形及び個体数																								
五輪塔					宝篋印塔					宝塔							国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇							
					1																			
	4	5	6	6															2					
	6	3	3	4																	4			
	6	6	2	3																	1	1		
	1		1																			1		
	2		1	1			1		1	1														
	3	4	4	2															6			1		
																					1			
	1	1	3		1															1	6	1		
	4	13	7	11							5										3			
	1																				1			
																				1				
		4	2	8		1	1												1	7				
		1	1	1															6					
					1														1					
	6	25	12	11		1			1	1														
	14	10	12	11																				
約100							2		1												6	2		
		1							1													1		
7											1								1			2		
			1																		1	板碑型石碑1		
	2	約30			2																4	1		
	4	11	7	5	1		1																	
																						2		
	2	2	2	2																				
	6	14	13	11																	6			
	7	3	6	5																				
	2	8	6	2	1																3	1		
	2	2	2	1																	2			
					1																1			
2	3	2	1	1																1	4			
	1	1																						
	1	4		1							1		1	1	1						1			
																					1			

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
387	教善寺宝塔	武蔵町 古市	南北朝～戦国	本堂の前に宝塔1基がある。また寺院前の小堂内に南北朝期の石造釈迦三尊像がみられる。				21 A-7
388	鋤迫池北東石塔群	武蔵町 糸原	戦国	鋤迫池の北東部にある集落墓地の中に石塔群が集められる。				21 A-7
389	清末家墓地石塔群	武蔵町 糸原	戦国	累代墓の前に石塔群を集めている。				21 A-7
390	港の地蔵石塔	武蔵町 糸原	戦国	港の地蔵様の東側に五輪塔部材がある。				21 A-7
391	宝命寺観音堂石塔群	武蔵町 小城	鎌倉末～南北朝 戦国	観音堂前の駐車場の上に板碑と一石五輪塔が、観音堂に国東塔・笠塔婆・石殿がある。		県有形 (国東塔)	23・24	21 B-6
392	宝命寺参道鳥居横石塔群	武蔵町 小城	南北朝	参道の鳥居の横に板碑と宝篋印塔があり、板碑は中央で折れ下半分を台座とする。		市有形 (宝篋印塔)	23	21 B-6
393	小城集落東側墓地石塔群	武蔵町 小城	南北朝～戦国	小城集落の東側の集落墓地内に石塔の部材がある。				21 B-6
394	小城集落南側墓地石塔群	武蔵町 小城	戦国	集落南側の山中にある集落墓地の坂本家墓地中に石塔部材が置かれている。				21 B-6
395	大良石塔群	武蔵町 小城	戦国	西村家裏山の山頂にミカン山造成に伴い出土した石塔群(80基以上)を集積している。				21 B-6
396	市場共同墓地石塔	武蔵町 糸原	戦国	市場の集落墓地に空風輪を欠く一石五輪塔1基がある。				21 B-7
397	西行者北側共同墓地石塔群	武蔵町 糸原	戦国	集落墓地の中央に石塔群を寄せ集めている。				21 B-7
398	西行者南側共同墓地石塔群	武蔵町 糸原	戦国	集落墓地の中に石塔群を寄せ集めている。				21 B-7
399	伊藤家墓地石塔群	安岐町 瀬戸田 岡本屋敷	室町～戦国	集落裏手の伊藤家墓地に、一石五輪塔と小型国東塔が各1基安置される。				21 D-5
400	法雲堂石塔群	安岐町 中園 高原	室町～戦国	中園集落内にある法雲堂前に、一石五輪塔や五輪塔部材及び石造十王像がある。			37	21 D-5
401	浄国寺石塔群	安岐町 瀬戸田 山ヶヤシキ	南北朝～戦国	浄国寺境内の墓地に五輪塔などが集められている。うち一石五輪塔のひとつは南北朝期のもので市指定である。また、本堂前には宝篋印塔1基がみられる。		市形 (一石五輪塔)	17・37	21 D-6
402	片山家墓地石塔群	安岐町 馬場 ノブヨシ	室町～戦国	大儀寺の前面にあり、江戸期の庄屋であった片山家の旧墓所と伝えられる。小型国東塔、五輪塔、一石五輪塔など約30基が並ぶ。			37	21 D-6
403	大儀寺石塔群	安岐町 馬場 ヒラ	戦国	門前の石段脇にみられる。				21 D-6
404	マンドコロ石塔群	安岐町 馬場 マンドコロ	室町～戦国	熊野神社南側の屋敷地裏に所在する。墓壇状の上に五輪塔などが並ぶ。			37	21 D-6
405	愛宕堂石塔群	安岐町 馬場 子ギテ	室町～戦国	穴観音西側の山林中にある小堂で、内部に宝篋印塔1基が安置され、堂背後に五輪塔がみられる。			37	21 D-6
406	ネギテ穴観音石塔群	安岐町 馬場 子ギテ	室町～戦国	横穴内に石仏が祀られる。石塔群は、入口に向かって右側の壁に、2箇所に分かれ安置されている。			37	21 D-6
407	五十鈴社墓地石塔	安岐町 下原	戦国	近世～現代の墓がみられる墓地中に、五輪塔1基あり。墓壇は近年造成されたもので、五輪塔は原位置を保つものではない。				21 D-7
408	梅園の丘公園石塔群	安岐町 下原	南北朝～戦国	安岐勤労者体育センター前の梅園の丘公園に集積されている。大型の宝篋印塔などがあるが、いずれも外部からの持ち込みで、現位置に造立されたものではない。本来の造立場所は不明である。				21 C-7
409	五十鈴神社石塔群	安岐町 下原 カキノイ	室町～戦国	鳥居の右前に、五輪塔、一石五輪塔などが並べられている。				21 D-7
410	正太郎石塔群	安岐町 下原 正太郎	戦国	五十鈴神社南の屋敷下の小道脇に、庚申塔ともに一石五輪塔と五輪塔の部材が集積されている。				21 D-7
411	利正寺石塔群	安岐町 下原 利正寺	戦国	水田中の小道脇にある樹木下に安置されている。樹木には、しめ縄が張られており、現在でも信仰の対象になっていることが分かる。				21 D-7
412	千人塚石塔群	安岐町 下原 千人塚	室町～戦国	墓壇状の石積みに、一石五輪塔や五輪塔の部材が多数みられる。原位置を保つものではない。			37	21 D-7
413	天満社石殿	安岐町 下原 天守	室町～戦国	天満社石殿の西側に石殿がある。軸部のみで、表裏面に十王像が、両側面に地蔵像などが浮き彫りされている。				21 D-7
414	大師堂石塔群	安岐町 下原 天守	室町～戦国	大師堂の北側に一石五輪塔3基、南側に一石五輪塔、五輪塔など十数基が並ぶ。一石五輪塔6基のうち、5基は空風輪部を欠く。			37	21 D-7
415	安岐城跡出土石塔群	安岐町 下原 本丸	室町～戦国	安岐城跡本丸地区の調査で出土した石塔で、一石五輪塔を除きいずれも部材である。一石五輪塔も欠損が著しく、いずれも空風輪部を欠く。五輪塔の部材が大半を占めるが、中に国東塔の部材もみられる。			13	21 D-7
416	山本家墓地石塔群	安岐町 下原	戦国	墓地のなかに、五輪塔、宝篋印塔、国東塔の部材がある。国東塔は戦国期のものと思われ、墓礎上面に蓮華座を彫り出す。				21 D-7
417	伊藤家墓地石塔群	安岐町 下原	戦国	近世から現代の墓が見られる墓地のなかに、五輪塔1基がある。				21 D-7
418	辰巳家墓地石塔	安岐町 下原	戦国	墓地のなかに、五輪塔の部材がある。				21 D-7
419	普門寺石塔群	安岐町 下原 ミナト	戦国	浄土真宗普門寺境内東辺の堀沿いに安置される。部材が多く、持ち込まれたものか。				21 D-7
420	梅友庵石塔群	安岐町 西本 下西本	室町～戦国	下西本集落南側の丘陵に、大儀寺の末寺であった梅友庵跡がある。庵への参道脇に宝篋印塔1基が、また境内に五輪塔がみられる。宝篋印塔は塔身に金剛界大日の種子がみられる。室町期の造立であろう。			37	21 E-6
421	水口石塔群	安岐町 塩屋 水口	室町～戦国	マルシヨク裏の駐車場の一角に、五輪塔と一石五輪塔が集積され並べられている。				21 E-7
422	リヨウ石塔群	安岐町 塩屋 リヨウ	戦国	心月寺東側の道路脇にある。部材のみのため、原位置を保つものか不明。				21 E-7
423	心月寺墓地石塔群	安岐町 塩屋 ウラ	室町～戦国	心月寺本堂裏の歴代住職墓地の一角にあり、国東塔、五輪塔、無縫塔などが整然と並ぶ。国東塔は6基あるが、宝篋印塔の笠が組みあわされているものや相輪がないものなど改変がみられる。基礎上面には蓮華座が彫り出される。塔身は首を有し、壺形に近い形態をもつものもある。このほか、墓地中央部に五輪塔部材などが集積されている。			37	21 E-6
424	尾ハナ石塔群	安岐町 塩屋 尾ハナ	室町～戦国	納骨堂脇に五輪塔の部材が集積されている。原位置を保つものではない。				21 E-7
425	龍神堂石塔群	安岐町 塩屋 ハマ	室町～戦国	塩屋集落内にある竜神骨をまつという堂の周囲に安置されている。				21 E-7
426	ハマ墓地石塔群1	安岐町 塩屋 ハマ	室町～戦国	塩屋集落東側の砂丘上にある北側の墓地の一角に、五輪塔と一石五輪塔が集積されている。				21 E-7
427	ハマ墓地石塔群2	安岐町 塩屋 ハマ	戦国	塩屋集落東側の砂丘上にある南側の墓地の一角に一石五輪塔が安置されている。				21 E-7
428	ハマ墓地石塔群3	安岐町 塩屋 ハマ	戦国	塩屋集落東側の砂丘上にある南側の墓地の斎藤家墓所内に五輪塔部材が安置されている。				21 E-7
429	ホキ墓地一石五輪塔	安岐町 塩屋 ホキ	戦国	空港道路建設に伴い隣接地から当地に移転したホキ墓地に一石五輪塔が1基ある。				21 F-7

塔形及び個体数																										
五輪塔					宝篋印塔					宝塔																
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形	
											1															石仏3
	5	5	3	1																	1					
		2	1																		1					
		1																								
																			1	1	2				1	笠塔婆2
					1															1						
	1	1																								
		1	1																							
	5	32	13	7			3		1			2						7		10						
																					1					
	7	9	4	2																	3					
	3	3	2	1																	2					
																			1		1					
	2	2	2																		1					十王像
	8	8	3			1	1		1	1											2					
	21	22	16	19														2		3						
			1																		1					
	4	3	1	2																	1					
	7	4	3	4	1																					
	3	4	3	4																	2			1		
	1	1	1																							
	9	9	5	7	4	3												2	1	9						
	3	2	2			1															6					
		4	1																		2					
	2																									
	11	9	9	5																	9					
																									1	
		11	5	6																	6			1		
	9	11		37														2		5						
	2	1	2				1											1								
	1	1	1																							
		1																								
	2	8	1	1																	2					
	2	2	1	1	1																					
	6	4	5	4																	2					
	1																							1		
		21	3	2		1	2											6		1	1					
	9		6	1																						
	2																				3					
	8	4	1	2																	5					
																					2					
	1																									
																					1					

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
259	オオヤ一石五輪塔群	小野田原河内小平		小野の谷の最深部の道際に2基の一石五輪塔が置かれている。かつて、道路工事の際掘り出されたという。			21	13 D-6
260	財前家墓地石塔群	小野田原河内		田原谷の最深部にある国東でも有数の石塔の集中する墓地である。紀年銘をもつ国東塔(国重文)を初め国東塔18基、板碑13基、宝篋印塔2基などが整然と立ち並ぶ。過去の調査で、中央にある国東塔の下部の石椁状の石組みから人骨が出土している。	元応3(1321)	国重文(国東塔)	21	13 D-6
261	諸田越板碑	小野田原河内諸田越	南北朝～戦国	杵築市安岐の諸田へ抜ける道の入口部に立つ板碑で、2基立っている。一石五輪塔もある。	貞治5(1366)	県有形(板碑)	21	13 D-6
262	龍華寺石塔群	小野田原河内	室町	龍華寺境内に国東塔と宝篋印塔が立ち、周囲に五輪塔部材が点在する。国東塔は在銘、宝篋印塔は火炎宝珠の平面が四角形になる。階段下に石殿がある。	永和2(1376)		21	13 D-5
263	龍華寺入口石塔群	小野田原河内	室町	龍華寺参道入口に石幢があり、十王と地藏像が陽刻されている。			21	13 D-5
264	田原河内県道北側板碑	小野田原河内	鎌倉～南北朝	県道沿いの畑の隅に立っている。前面には墨書があるが、判読できない。			21	13 D-5
265	中河内共同墓地板碑	小野		墓地の中の一角に国東塔や板碑、五輪塔部材が集められている。また、斜面にも五輪塔部材が転落している。				13 D-5
266	小俣道板碑/小俣道石塔群	小野	南北朝	周囲の田より一段高い台の上に、板碑6基を前面に立ち並べ、背後に五輪塔が並んでいる。中心の板碑に貞和3年銘が刻まれる。五輪塔には墨書があるものもある。	貞和3(1347)	県有形(板碑)	21	13 E-5
267	田原・吉弘家墓地石塔群	小野	室町～戦国	墓地の一角に中世石塔が集中する箇所がある。多くは当初の組み合わせを失っている。国東塔は笠の隅が小さく立ち上がり、反花は平面的である。			21	13 E-5
268	田原・吉弘家墓地南側板碑群	小野	南北朝	田原・吉弘家墓地のある丘陵の落ち際に2基の板碑が立っている。2基とも墨書があり、1基にはパンの種子がみられる。			21	13 E-5
269	中村の堂さま一石五輪塔	小野中村		堂内に一石五輪塔の残欠がある。			21	13 E-5
270	野田邸周辺石塔群	小野		野田邸の周辺に国東塔や板碑、五輪塔部材などが散在する。			21	13 E-5
271	下平原の堂さま石造物群	小野		堂内に2基の板碑がある。いずれも地藏を浮き彫りにする。額は無く、線刻で表現する。同じ室内の石仏の内、最も小さい地藏像は中世か。堂の横には宝塔の部材が重ねられている。			21	13 E-5
272	川原畑邸石塔群	小野		邸内に板碑や五輪塔が立っている。			21	13 E-5
273	財前邸一石五輪塔	小野		財前邸の庭に一石五輪塔と五輪塔部材が置かれている。			21	13 E-5
274	比枝神社御旅所裏板碑	小野	室町	比枝社北側の山を登った斜面の平場に比枝社御旅所があり、そこに板碑が2基ある。内1基は2連碑である。			21	13 E-5
275	藤見五輪塔	小野		安藤家が祀る一石五輪塔1基がある。			21	13 E-5
276	藤見板碑群	小野		藤見五輪塔から、林道を挟んで上の方に板碑が2基ある。			21	13 E-5
277	比枝神社板碑群	小野	戦国	比枝社境内に2基の板碑が立つ。2基に挟まれて自然石の前面を四角に彫り窪めた平安前期の天長3年銘を刻書する塔婆があるが、造立年ではない。		市有形(板碑)	21	13 E-5
278	大内家墓地下一石五輪塔	小野	戦国	墓地を奥に下った地点に一石五輪塔1基がある。			21	13 E-5
279	大内集落入口五輪塔群	小野		集落の手前のところに一石五輪塔と五輪塔部材が集められている。			21	13 F-5
280	大内家墓地石塔群	小野		丘陵頂上にある墓地で、宝篋印塔を中心に、周りを板碑や五輪塔が取り巻くように並べられている。		市史跡	21	13 F-5
281	大内邸一石五輪塔	小野		庭先に一石五輪塔がある。			21	13 F-5
282	脇坂家墓地一石五輪塔	小野		墓地の中に一石五輪塔1基がある。			21	13 F-5
283	尾迫一石五輪塔	小野		山腹の北斜面に一石五輪塔1基がある。			21	13 F-5
284	尾迫板碑・大谷家墓地石塔群	小野	鎌倉	康永3年銘のある板碑と、小型の板碑がある。周囲には五輪塔が並べられている。	康永3(1344)		21	13 F-5
285	大谷邸一石五輪塔	小野		庭先に一石五輪塔がある。			21	13 F-5
286	本明寺国東塔・板碑群	小野	室町～近世初頭	境内に1基の国東塔が立ち、五輪塔部材が点在する。また、国東塔の横には、4基の板碑型の塔婆がある。前面に稚拙な人物像(夫婦?)を刻む。中世末から近世初頭。		市有形(国東塔)	21	13 F-5
287	大谷邸前五輪塔	小野		邸前に一石五輪塔と火輪がある。			21	13 F-5
288	西山愛宕堂石塔群	小野		「堂さま」と呼ばれる愛宕堂境内に国東塔1基が立つ。その周囲には五輪塔部材が多数集められている。御堂内の地藏像1基も中世のものか。			21	13 F-5
289	天神社五輪塔	永松		宇留島一統が祀る天神社脇に水輪が置かれている。			21	13 F-5
290	永福寺石塔群	永松	南北朝～戦国	本道脇に国東塔1基、奥の納骨堂周辺に板碑や五輪塔、国東塔などが集められている。国東塔2基は香々地周辺のものと蓮弁や相輪下部が類似している。			21	13 F-5
291	安岡邸五輪塔	永松		近くで見つかった五輪塔部材を集めている。			21	13 F-5
292	ダントウ墓地石塔群	永松	室町～戦国	アンの谷奥にある近世墓地の下のテラスに中世石塔が集中している。周辺には安山岩の板石が散乱している。小型の無縫塔の年には永享8年の墨書がある。	永享8(1436)		21	13 G-4
293	矢野邸裏山五輪塔群	永松	戦国	矢野邸の裏山斜面に五輪塔部材が多数散乱している。			21	13 G-5
294	長谷雄一統石祠五輪塔群	永松		矢野邸裏山五輪塔群から20mほど離れた石祠周辺に五輪塔部材が集められている。			21	13 G-5
295	長谷雄邸前五輪塔群	永松		周辺の園場整備の際に出土した五輪塔部材を移したものであるという。			21	13 G-5
296	ソラツの井脇国東塔	永松		アンの谷入口にある「ソラツの井」の脇に国東塔の基礎と塔身が置かれている。横の畑にかつては寺があったという。			21	13 G-5
297	田原若宮八幡国東塔	永松	鎌倉～南北朝	若宮八幡宮境内に立つ。相輪先端の宝珠を欠くが、他は完存している。		県有形	21	13 G-5
298	西専寺石塔群	永松		宝陀寺末の西専寺(無住)境内に完存の宝篋印塔や五輪塔などが立っている。宝塔は豊前地域のものと同様である。			21	13 G-5
299	溝部邸脇一石五輪塔	永松	室町	邸横の畑に一石五輪塔がある。			21	13 G-5
300	権坊遺跡石塔群	永松	室町	権坊の集落背後の丘陵先端部に宝篋印塔、板碑、五輪塔などの石塔が集中している。田原谷の中で最も石造遺物が多い地点である。また、安山岩板石による石椁状の石組みや、罫線を線刻した板石も出土している。		市史跡	21	13 G-5
301	小野田家墓地石塔群	永松	室町	墓地の中央に宝篋印塔が立ち、周囲に五輪塔が林立している。五輪塔とした中には、空風輪に蓮弁を施したものもある。			21	13 G-5

塔形及び個体数																						
五輪塔					宝篋印塔					宝塔					国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇					
																						2
33	13	33	31	18	2														18	13	25	
																				2	1	
			3		1														1			1
	1	2																				1
																				1		
2	4	6	6	6															1	1	8	
8	3	10	11	10																6	19	
4	5	10	7	5															1	4		
																				2		
																					1	
	1	1	1																1	1	5	
												1	1							2		石仏
		3	2	2																2	6	
			1	1																	1	
																				2		
																					1	
																				2		
																					1	
		2																			1	
10	9	44	26	10	1															2	8	
																					1	
																					1	
																					1	
3	1	6	6	4																2	5	
																					1	
3	9	8	1	2																4	2	
		1																			1	
3	10	12	9	5								1							1		6	石仏
			1																			
12	15	26	21	14	1														2	5	20	
1		2	2	3																		
1	17	35	15	3								1									1	
		8	13	8	3																7	
		1	2	3	1																	
			2																		2	
																				1		
																				1		
1	7	3	13	2	2								2	2	3				2			
																					1	
10	36	65	63	39	1															3	32	
3	8	15	14	16	1							1							1		1	

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
302	シヨウカン寺跡五輪塔群	沓掛		沓掛集落背後の山中に「シヨウカン寺」跡があり、そこに五輪塔で構成される石塔群がある。五輪塔には梵字が刻まれるものが5基含む。			21	13 H-4
303	宮川家墓地五輪塔群	沓掛		集落背後の丘陵先端近くにある宮川家墓地の中に、五輪塔部材が点在している。			21	13 H-4
304	阿弥陀堂跡五輪塔群	沓掛		江戸時代末まであったとされる阿弥陀堂跡に一石五輪塔や五輪塔部材が集められている。			21	13 H-4
305	ソウボウ寺跡五輪塔群	沓掛		阿弥陀堂跡と道を挟んだ地点にソウボウ寺跡があり、そこに五輪塔部材が集められている。			21	13 H-4
306	八松豊光氏宅五輪塔	沓掛		近くの田から出土したという火輪が置かれている。			21	13 H-4
307	ダイレン寺跡五輪塔群	沓掛		宮川家墓地のやや南にある愛宕社が「ダイレン寺」跡である。五輪塔部材と宝塔塔身が置かれている。			21	13 H-4
308	稲荷社下北石塔群	沓掛		稲荷社参道の脇に五輪塔部材が集中している。また、国東塔1基（塔身が逆に据えられている）が立っている。			21	13 H-4
309	稲荷社下南一石五輪塔	沓掛		畑の段に1基の一石五輪塔が立っている。			21	13 H-4
310	森の木遺跡石塔群	沓掛 古城得	室町	圃場整備前まで田の中にあつた塚（森の木）の発掘調査により、「如法経」と刻した板碑と一石五輪塔が出土している。				13 H-4
311	田原小学校プール脇五輪塔群	沓掛		田原小学校のプール脇の草むらの中に五輪塔部材が積まれている。小学校建設前は墓地だったという。			21	13 H-4
312	沓掛宝篋印塔	沓掛	室町	田原小学校横の分かれ道のところに、宝篋印塔が1基立っている。相輪を欠く。				13 H-4
313	清水寺石塔群	沓掛	南北朝～室町	宝陀寺横の清水寺境内の泉水横に五輪塔18基が積み上げられている。また、池の横には国東塔と思われる笠と請花が置かれている。				13 H-4
314	宝陀寺石塔群	上沓掛	南北朝～室町	宝陀寺境内には五輪塔や無縫塔、小型宝塔などが散在している。本来の場所ではないと思われる。				13 H-4
315	ゲートボール場脇一石五輪塔	沓掛		ゲートボール場の脇に一石五輪塔がある。盛福寺の参道にあたる場所である。			21	13 H-4
316	宝陀寺入口宝篋印塔	上沓掛	南北朝	宝陀寺門前に2mを優に越える大型の宝篋印塔が1基立っている。墓壇以外は完存である。		市有形 (宝篋印塔)		13 H-4
317	宝陀寺墓地石塔群	上沓掛	室町	宝陀寺をやや下つたところの山際にある宝陀寺（歴代住持）墓地に、中世の無縫塔などが点在している。				13 H-4
318	宝陀寺開山塔（無縫塔）	上沓掛	南北朝	境内外の山際に、宝陀寺開山悟庵禅師の供養塔がある。江戸期と思われる玉垣を廻らす石積み墓壇上に立っている。		市有形		13 H-4
319	チンゴシ石塔群	沓掛	室町～戦国	盛福寺跡の背後の丘陵上に中世石塔が集中する箇所がある。すぐ横には古道が通る。板碑や五輪塔などの部材が20m四方ほどの斜面に点在する。			21	13 H-4
320	盛福寺跡石塔群	沓掛	室町	宝陀寺の隠居寺といわれる盛福寺跡に、六地藏を浮き彫りにする石殿が立つ。笠は転落して破損している。周囲には五輪塔部材が点在する。			21	13 H-4
321	溝部邸裏五輪塔	沓掛		溝部邸裏に大型の五輪塔が1基立っている。			21	13 H-4
322	山田邸五輪塔群	沓掛		山田邸裏一石五輪塔と地輪が、裏には大型の五輪塔が1基立っている。			21	13 H-4
323	白髭橋西詰北側下一石五輪塔	沓掛		桂川の畔に一石五輪塔1基がある。			21	13 H-4
324	トビガサコ薬師堂岩屋石造物群	石丸 小川原		本来は木彫の薬師如来が納まっていた岩屋内に、石造の阿弥陀如来と地藏菩薩像、十王の1体が置かれている。周囲には五輪塔部材や一石五輪塔が置かれている。				13 H-4
325	沓掛城入口一石五輪塔	沓掛		田原氏の館城である沓掛城の登り口の大石の上に一石五輪塔が置かれている。				13 H-4
326	田原家五重塔	沓掛 坂水	南北朝	田原氏館とされる岡の前遺跡の、川を挟んで南東の山際に立つ優美な五重層塔である。相輪を欠く。現在では紀年銘は確認できない。横には月輪に梵字を刻む大型の五輪塔がある。	延元4 (1339)	国重文 (層塔)	21	13 H-4
327	田原家丸山墓地石塔群	沓掛 坂水	南北朝～室町	田原別符地頭の田原氏の墓地で、大型の五輪塔が林立している景観は県内屈指。墓地の正面には田原氏の館である岡の前遺跡がある。	永和元 (1375)	県有形 (五輪塔)	21	13 H-5
328	白木原観音堂石塔群	白木原 上の原	戦国	白木原石殿の背後の丘陵にある堂に向かって右手に石幢がある。竿に閻魔王を浮き彫りにする。堂の周囲には五輪塔部材が散在する。また、相輪に宝珠を載せる異形国東塔が2基並んでいる。				13 G-6
329	白木原石殿	白木原 上の原	室町	集落の中に立つ。無銘であるが、十王と菩薩像1体を陽刻している。		市有形		13 G-6
330	堂園五輪塔群	白木原 堂園		五輪塔が斜面にテラスを作って並べられている。その横には、地下式坑の入口部と考えられる縦穴が開いている。				13 G-6
331	白木原薬師堂北五輪塔	白木原		薬師堂の北100m程の道沿いに五輪塔が1基立っている。				13 G-6
332	白木原薬師堂石塔群	白木原		白木原薬師堂の前に五輪塔と宝塔の部材が置かれている。				13 H-6
333	ハツ口の御堂石塔群	白木原 ハツ口		板碑3基あり。他に五輪塔あり。地元の話では、昔はもつと北側の山中にあつたという。昔は堂の前で盆踊りをしていたという。				13 H-6
334	宝蓮寺墓地五輪塔群	俣水		墓地の一角に一石五輪塔5、五輪塔空風輪4、火輪4、水輪3、地輪2が集められ、コンクリートで固定されている。				13 H-6
335	小田石塔群	白木原 小田		県道工事の際に、もともと集積していた石塔群を、川の向かい側（西側）に移したものの。五輪塔空風輪約20、火輪約30あり。大型のもの1基含む。				13 H-6
336	小野家墓地五輪塔群	笠口	鎌倉	集落を見下ろす丘陵傾斜地で近世墓地の下側に、一石五輪塔や五輪塔部材が集中する。一石五輪塔には中型のものがある。		市有形		13 H-6
337	花月園の国東塔	沓掛 沓掛	南北朝～室町	1基の元形の国東塔が立っている。基礎には蓮子を刻み、大ぶりな蓮華座に扇形の塔身載せる。		県有形		20 A-3
338	石丸宝塔(国東塔)	石丸	鎌倉	大田中学校グラウンドを見下ろす高台に立つ。相輪先端部を欠失する。法華経3部を奉納したことが銘文からわかる。	元徳2 (1330)	国重文		20 A-4
339	地藏寺石塔群	石丸	室町～戦国	地藏寺境内に1対の石殿と完存の宝篋印塔を中心として、中世石塔が点在している。石殿は室町時代初期とされ、古い石殿の好例である。		県有形 (石殿2)		20 B-5
340	石丸本村御堂石塔群	石丸	室町～戦国	御堂の脇に、宝篋印塔や五輪塔部材が集められている。宝篋印塔はバラバラになっている。				20 B-5
341	赤松墓地その1五輪塔群	波多方		墓地の中五輪塔部材があるとするが、今回は確認できていない。				20 B-5
342	赤松墓地その2五輪塔群	波多方		墓地の中五輪塔部材があるとするが、今回は確認できていない。				20 B-5
343	森松五輪塔群その1	波多方		保育園東の田の畦畔斜面に五輪塔部材が置かれている。				20 B-5
344	森松五輪塔群その2	波多方		田の畦畔などにあつた五輪塔部材を、圃場整備後に現在地に集めて置かれている。				20 B-5
345	諏訪神社西五輪塔群	波多方		諏訪神社西にある墓地下に五輪塔部材が並べられている。				20 B-5

番号	名称	所在地	造立時期	概要	在銘資料の年号	指定区分	参考文献	掲載地図番号
346	龍蓮寺石塔群	波多方	南北朝	龍蓮寺境内に国東塔と宝篋印塔が立っている。紀年銘をもつ国東塔は線描きで蓮弁を表現する。完存。宝篋印塔は九輪を欠く。相輪下部が方形になる速見タイプ。また、五輪塔部材も点在する。	永和2 (1376)			20 B-5
347	大池墓地その1五輪塔群	波多方 大池	室町～戦国	墓地の中に五輪塔部材と宝塔基礎が重ねられている。				20 C-5
348	大池墓地その2五輪塔群	波多方 大池		墓地の中に火輪が置かれている。				20 C-5
349	小野家墓地地下五輪塔群	笠口		小野家墓地のある丘陵先端部の道際に五輪塔部材が並べられている。				20 A-5
350	三柱神社の宝篋印塔	笠口	南北朝	境内に1基の宝篋印塔が立っている。火焰宝珠の一部欠損他は完存である。		市有形		20 A-6
351	山田家板碑群	笠口	南北朝	山田家裏の斜面を削りだしたテラスに板碑10基、自然石塔婆3基が一列に並ぶ。周囲には一石五輪塔3基+五輪塔部材1あり。本来の位置を保っていたものかどうか不明。		市有形		20 A-6
352	東平墓地五輪塔群	笠口		低台地先端に作られた墓地の中に、一石五輪塔や五輪塔部材が点在する。				20 A-6
353	生目様下五輪塔群	俣水 宮ノ脇		通称「生目様」の参道入口脇の塚状の高まりの裾に、2基の五輪塔がある。内1基は一石五輪塔。				20 A-6
354	河野家墓地五輪塔	俣水		通称「生目様」の奥にある河野家墓地に1基五輪塔がある。				20 A-6
355	甲斐家墓地国東塔	俣水	室町	甲斐家墓地に所在。2基の国東塔（内1基は宝篋印塔と合わされている）が並べられている。国東塔の内1基は塔身に地蔵が浮き彫りされる。				20 A-7
356	諸富邸国東塔・五輪塔	俣水		庭に国東塔1基、ほぼ完存。笠の裏側に隅木の表現がある。他に五輪塔火輪がある。				20 A-6
357	小川氏邸横五輪塔群	俣水	室町～戦国	小川氏邸横の丘陵テラス上に五輪塔空風輪1、火輪4、水輪3、地輪2が並んで置かれている。				20 B-6
358	俣水豊屋前道端石塔群	俣水		道端に無縫塔の基礎と五輪塔の空風輪が置かれている。				20 B-6
359	農協支所裏山五輪塔群	俣水	室町～戦国	丘陵先端部の竹藪に、五輪塔空風輪2、火輪4、水輪4、地輪3、一石五輪塔3が散在。他に扁平な安山岩があるので、石棺があるのか？				20 B-6
360	真覚寺五輪塔群	東俣水 中ノ川		真覚寺横の山際に五輪塔部材が置かれている。				20 B-7
361	カミヤシキ五輪塔	波多方		カミヤシキと呼ばれる場所に1基の五輪塔が立っている。空風輪を欠く。				20 B-5
362	カミヤシキ西五輪塔群	波多方		畑の端に3基の五輪塔が据えられている。何れも空風輪を欠く。				20 B-5
363	坊ヶ迫五輪塔群	俣水 畑	戦国	尾根先端部に10×20mほどの平坦地を造り、その端に一石五輪塔1基が建ち、その下の斜面に2基が転落する。斜面には地下式坑と思われる横穴があく。「坊ヶ迫」と呼ばれている地点にあたる。約20mほど離れた地点には「へいじろう屋敷」と呼ぶ平坦地あり。				20 C-7
364	広岩家墓地五輪塔群	俣水 畑	室町～戦国	杵築市城ヶ谷に抜ける街道筋の丘陵先端部に五輪塔や宝塔が立ち並ぶ。所有者によると、谷に落ちていたものを拾い上げて並べたものもあるという。中央に石棺状に板石を立てたものがある。その脇に銘文（長徳2、天仁2）のある五輪塔があるが偽銘。				20 C-7
365	広岩家墓地入口五輪塔群	東俣水 畑	戦国	墓地入口の県道脇に五輪塔部材と一石五輪塔が置かれている。				20 C-7

塔形及び個体数																									
五輪塔					宝篋印塔					宝塔															
完存	空風輪	火輪	水輪	地輪	完存	相輪	笠	塔身	基礎	基壇	完存	相輪	宝珠	笠	塔身	基礎	基壇	国東塔	板碑	一石五輪塔	無縫塔	角柱塔婆	石幢	石殿	その他の塔形
	1	1		3	1													1							
		6	1	1											1										
		1																							
	2	3	2	1																1					
					1																				
		1																	18	3					
			1																	3					
1																				1					
1																									
							1											2							
		1																1							
	1	4	3	2																					
	1																				1				
	2	4	4	3																3					
	1		1																						
1																									
3																									
																				3					
	36	40	16	16									10	2	3					5					
		2																		1					

参考文献

- 1 酒井富蔵『国東半島の石造美術』国東半島文化研究所 1972
- 2 望月友善『大分の石造美術』木耳社 1975
- 3『耶馬溪町史』耶馬溪町教育委員会 1975
- 4『真玉町誌』真玉町誌刊行会 1978
- 5 朝日新聞西部本社編『六郷満山』朝日新聞西部本社 1978
- 6『香々地町誌』香々地町誌刊行会 1979
- 7『院内町誌』院内町誌刊行会 1983
- 8『姫島村史』姫島村史編纂委員会 1986
- 9『豊後國田染荘の調査』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1986
- 10 本耶馬溪町史刊行会『本耶馬溪町史』本耶馬溪町 1987
- 11 入学正敏「宇佐市内石造物一覧」『二豊の石造美術』8 大分県石造美術研究会 1988
- 12 入学正敏「宇佐市内石造物一覧」『二豊の石造美術』9 大分県石造美術研究会 1988
- 13『安岐城跡 下原古墳』大分県教育委員会 1988
- 14『三光村誌』三光村 1988
- 15 院内町教育委員会『院内町の文化財』院内町文化財調査委員会 1989
- 16『武蔵町史(改訂版)』武蔵町教育委員会 1990
- 17『はるかなる安岐郷ふるさとの文化遺産』安岐町教育委員会 1992
- 18『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅰ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1993
- 19『豊後國都甲荘の調査本編』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1993
- 20 入学正敏『宇佐の石造文化財探訪』宇佐文化会館三和文庫運営協議会 1994
- 21『豊後國田原別符の調査Ⅱ－田原谷の中世石造物－』大田村教育委員会 1994
- 22『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅱ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1994
- 23『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅲ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1995
- 24『石造文化財の保存対策のための概要調査』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1996
- 25『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅳ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1996
- 26『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅴ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1997
- 27『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅵ』大分県立宇佐風土記の丘歴史民俗資料館 1998
- 28『ふるさと佐田』安心院町心身すこやか事業推進委員会 1988
- 29『鬼籠当中石塔群』国見町教育委員会 1999
- 30『豊後国香々地荘の調査本編』大分県立歴史博物館 1999
- 31『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅶ』大分県立歴史博物館 1999
- 32『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅷ』大分県立歴史博物館 2000
- 33『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅸ』大分県立歴史博物館 2001
- 34『六郷山寺院遺構確認調査報告Ⅹ』大分県立歴史博物館 2002
- 35 原田昭一「板碑集成(その3、豊後北部 附、補遺)－豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について－」『古文化談叢』第50号 九州古文化研究会 2003
- 36 原田昭一「板碑集成(その2、豊前)－豊前・豊後における紀年銘を有する整形板碑について－」『古文化談叢』第49号 九州古文化研究会2003
- 37『豊後國安岐郷の調査』大分県立歴史博物館 2004
- 38 原田昭一「板碑変遷史－豊前・豊後における紀年銘板碑を通して－」『古文化談叢』九州古文化研究会 2004
- 39『国東六郷山報恩寺』大分県教育庁埋蔵文化財センター 2009
- 40 原田昭一「角塔婆変遷史－豊前・豊後における紀年銘資料を通して－」『石造文化研究』第27号 おおいた石造文化研究会 2009
- 41 三谷紘平・浦井直幸・江藤和幸・原田昭一「大分県中津市域の中世石造物」『石造文化研究』第29号 おおいた石造文化研究会 2011
- 42『羅漢寺調査報告書Ⅰ』中津市教育委員会 2013